

2026年度 大学院スポーツ健康学研究科 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2026/5/1】 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5010】 研究デザイン・フィロソフィー [泉 重樹、高見 京太、越智 英輔、小田 佳子、島本 好平、片上 千恵、笹澤 吉明、林 容市、井上 尊寛、伊藤 真紀、中澤 史、NEMES ROLAND JANOS、吉田 政幸、木村 新、瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	1
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5020】 スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学) [島本 好平、菊部 俊二] 春学期授業/Spring	3
修士課程授業科目/Master's Course 【S5030】 スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学) [瀬戸 宏明、安藤 正志] 春学期授業/Spring	5
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5040】 スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学) [伊藤 真紀、望月 拓実、片上 千恵] 秋学期授業/Fall	7
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6010】 公衆衛生学特論 [笹澤 吉明] 秋学期授業/Fall	9
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6020】 健康体力学特論 [越智 英輔] 春学期授業/Spring	10
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6030】 健康心理学特論 [島本 好平] 秋学期授業/Fall	11
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6040】 スポーツ栄養学特論 [小清水 孝子] 春学期授業/Spring	12
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6060】 学校保健学特論 [笹澤 吉明] 秋学期授業/Fall	13
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6070】 体力・機能測定評価演習 [高見 京太] 秋学期授業/Fall	14
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6080】 運動疫学演習 [畑中 翔] 春学期授業/Spring	15
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S6090】 スポーツマネジメント特論 [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	17
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群)/Advanced courses(health promotion program) 【S6100】 運動器疾患予防と対処特論 [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	19
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7020】 スポーツ産業学特論 [片上 千恵] 春学期授業/Spring	20
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7030】 スポーツ健康政策学特論 [海老島 均] 春学期授業/Spring	21
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7040】 スポーツジャーナリズム特論 [片上 千恵] 秋学期授業/Fall	23
修士課程授業科目/Master's Course 【S7050】 スポーツメディア特論 [小池 隆俊、赤堀 宏幸] 春学期授業/Spring	24
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7070】 スポーツ消費者行動特論 [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	26
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7080】 スポーツフィールドスタディー演習 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	28
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7090】 スポーツマーケティングリサーチ演習 [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	29
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群)/Advanced courses(sport management program) 【S7100】 スポーツ組織構造特論 [得田 進介] 秋学期授業/Fall	30
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツコーチング科目群)/Advanced courses(sport coaching program) 【S8020】 スポーツ運動学特論 [木村 新] 春学期授業/Spring	32

修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8030】 スポーツバイオメカニクス特論 [木村 新] 秋学期授業/Fall	33
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8040】 スポーツトレーニング学特論 [NEMES ROLAND JANOS] 秋学期授業/Fall	34
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8050】 発育発達学特論 [高見 京太] 秋学期授業/Fall	36
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8060】 スポーツ教育学特論 [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	37
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8070】 スポーツメンタルトレーニング演習 [中澤 史] 秋学期授業/Fall	38
修士課程授業科目/Master 【S8080】 チームビルディング演習 [浅井 玲子] 春学期授業/Spring	40
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8090】 アスレティックトレーニング特別演習 [泉 重樹] 春学期授業/Spring	41
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9013】 スポーツ健康学演習Ⅰ [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	42
修士課程授業科目/Master 【S9014】 スポーツ健康学演習Ⅰ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	43
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9019】 スポーツ健康学演習Ⅰ [島本 好平] 春学期授業/Spring	44
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9021】 スポーツ健康学演習Ⅰ [高見 京太] 春学期授業/Spring	45
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9023】 スポーツ健康学演習Ⅰ [永木 耕介] 春学期授業/Spring	46
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9028】 スポーツ健康学演習Ⅰ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	47
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9031】 スポーツ健康学演習Ⅰ [木村 新] 春学期授業/Spring	49
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9113】 スポーツ健康学演習Ⅱ [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	50
修士課程授業科目/Master 【S9114】 スポーツ健康学演習Ⅱ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	51
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9119】 スポーツ健康学演習Ⅱ [島本 好平] 秋学期授業/Fall	52
修士課程授業科目/Master 【S9121】 スポーツ健康学演習Ⅱ [高見 京太] 秋学期授業/Fall	53
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9123】 スポーツ健康学演習Ⅱ [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	54
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9128】 スポーツ健康学演習Ⅱ [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	55
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9131】 スポーツ健康学演習Ⅱ [木村 新] 秋学期授業/Fall	57
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9211】 スポーツ健康学演習Ⅲ [安藤 正志] 春学期授業/Spring	58
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9222】 スポーツ健康学演習Ⅲ [中澤 史] 春学期授業/Spring	59
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9228】 スポーツ健康学演習Ⅲ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	61
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9231】 スポーツ健康学演習Ⅲ [木村 新] 春学期授業/Spring	63
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9311】 スポーツ健康学演習Ⅳ [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	64
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9322】 スポーツ健康学演習Ⅳ [中澤 史] 秋学期授業/Fall	65
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9328】 スポーツ健康学演習Ⅳ [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	67
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9331】 スポーツ健康学演習Ⅳ [木村 新] 秋学期授業/Fall	69
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9501】 スポーツ健康学高度開発特論A (ヘルス領域) [泉 重樹、越智 英輔、瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	70

博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses【S9502】 スポーツ健康学高度開発特論B（マネジメント領域）[吉田 政幸、井上 尊寛] 春学期授業/Spring	71
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses【S9503】 スポーツ健康学高度開発特論C（コーチング領域）[永木 耕介、中澤 史、林 容市、木村 新] 春学期授業/Spring	73
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9603】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	75
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9606】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [中澤 史] 春学期授業/Spring	77
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9607】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [永木 耕介] 春学期授業/Spring	79
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9609】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [木村 新] 春学期授業/Spring	81
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9623】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	83
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9626】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [中澤 史] 秋学期授業/Fall	84
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9627】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	86
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9629】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [木村 新] 秋学期授業/Fall	87
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9643】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	88
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9663】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	90
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9685】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [島本 好平] 春学期授業/Spring	92
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9687】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [永木 耕介] 春学期授業/Spring	94
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9688】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [林 容市] 春学期授業/Spring	95
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9692】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [木村 新] 春学期授業/Spring	97
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9705】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [島本 好平] 秋学期授業/Fall	99
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9707】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	101
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9708】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [林 容市] 秋学期授業/Fall	102
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses【S9712】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [木村 新] 秋学期授業/Fall	104
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses【S9903】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）[越智 英輔] 秋学期授業/Fall	106
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses【S9906】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）[中澤 史] 秋学期授業/Fall	107
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses【S9907】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）[永木 耕介] 秋学期授業/Fall	109
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses【S9909】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）[木村 新] 秋学期授業/Fall	110

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

研究デザイン・フィロソフィー

泉 重樹、高見 京太、越智 英輔、小田 佳子、島本好平、片上 千恵、笹澤 吉明、林 容市、井上 尊寛、伊藤 真紀、中澤 史、NEMES ROLAND JANOS、吉田 政幸、木村 新、瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3,木4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を研究するためには、倫理面をはじめとする基礎的で幅広い知識と技能、およびそれらを計画立てて使う方法を知ることが必要となる。そのため、本授業では、複数の専任教員が各々独自の視点から研究の在り方（フィロソフィー）と設計の仕方（デザイン）について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

受講生が、スポーツ健康学を構成するヘルス系、コーチング系、マネジメント系の各領域における研究の在り方および計画の立て方を知り、自身の研究の基礎として役立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、スポーツ健康学研究科の複数の専任教員が担当する。各教員は自身の専門分野を切り口に、研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・競技力向上）	スポーツ健康学分野の特に競技力向上に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（ネメシュ・ローランド・1回）
2回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	研究倫理面をはじめスポーツ健康学分野の運動器やスポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。（瀬戸宏明・1回）
3回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・スポーツ哲学）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ哲学・スポーツ教育学に関する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文を作成する上で軸となる研究目的の明確化を図るために、先行研究と研究デザインを関連させながら理解する。（小田佳子・1回）

4回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマネジメント）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマネジメントに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（吉田政幸・1回）
5回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・スポーツバイオメカニクス）	スポーツ健康学分野の特にスポーツバイオメカニクスに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（木村新・1回）
6回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマーケティング）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマーケティングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる研究デザイン、調査方法、尺度・分析の信頼性および妥当性、データの整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（井上尊寛・1回）
7回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・スポーツ心理学）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ心理学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、質的研究法の研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（中澤史・1回）
8回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツと多様性）	スポーツ健康学分野の特にスポーツと多様性に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（伊藤真紀・1回）
9回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・学校保健・公衆衛生）	スポーツ健康学分野の特に保健科教育に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（笹澤吉明・1回）
10回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・体力測定評価）	スポーツ健康学分野の特に体力の測定評価に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、実験・測定方法、統計結果の解釈、量的データの分析方法、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（林容市・1回）

11回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・ライフスキルコーチング）	スポーツ健康学分野の特にライフスキルコーチングに関する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文を作成する上で軸となる研究目的の明確化について、自己理解の深化と関連させながら理解する。（島本好平・1回）
12回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・健康体力づくり）	スポーツ健康学分野の特に健康体力づくりに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（高見京太・1回）
13回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツメディア）	スポーツ健康学分野の特にスポーツメディアに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（片上千恵・1回）
14回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・健康科学）	スポーツ健康学分野の特に運動生理学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（越智英輔・1回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。授業時間外でレポート作成を要する場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する。

【第3回（担当：瀬戸）】

- ・『ヘルシンキ宣言』（<https://www.med.or.jp/doctor/international/wma/helsinki.html>）
- ・『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（2021 制定・2022,2023 改正）』など国の機関が定めた一連の指針（<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>）
- ・個人情報保護法（<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/>）

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価して 0 点から 7 点で採点する（7 点×14 回＝98 点満点）。98 点を 100 点に補正して S～D の評価をする。
なお、2/3 以上の出席がない場合は評価の対象外とする（E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き有意義な講義を行っていく。

科目名にあるように、個々の教員の研究に対する哲学、研究に対する計画の立て方を中心に講義を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our professors on Sports and Health studies alternately present the desirable situation and own history of the research including research ethics education.

【Learning Objectives】

Students understand and utilize the desirable situation and procedure of the research on each area in Sports and Health studies.

【Learning activities outside of classroom】

nothing special

【Grading Criteria/Policy】

Each professor evaluates the appropriateness in the classroom discussion and in the contents of reaction paper.

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)

島本 好平、苅部 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域における心身科学分野の研究を紹介しながら、学術論文の読み方や執筆の仕方の基礎的技術について学習します。数量的および質的研究の理論や方法について体験的学習や文献講読などを通じて理解を深めます。

【到達目標】

身体科学ならびに心理科学分野の研究の視点を学習し、当該分野の文献を読み、理解する能力を養う。修士論文を執筆する上で必要となる基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業の前半では、身体科学に関する研究を進めていく上での実験法・測定評価の方法を取り上げます。また、運動学・動作解析、観察・面接法、質的研究等のさまざまな研究方法についても解説をしていきます。後半では心理科学に関する研究を進めていく上での主要なツールである心理尺度を取り上げます。その基本的な考え方や因子分析を通じて心理尺度の作成方法等を学び、自身の研究テーマへの心理尺度の活用についても考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回【担当：苅部】	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス、および導入。
第2回【担当：苅部】	心身科学研究法 身体科学1（実験法・測定評価）	身体科学における実験法・測定評価の方法を学ぶ。
第3回【担当：苅部】	心身科学研究法 身体科学2（運動学）	運動学(キネマティクス)・動作解析について理解を深め、研究法を学ぶ。
第4回【担当：苅部】	心身科学研究法 身体科学3（運動力学）	運動力学（バイオメカニクス）、動力学（キネティクス）について理解を深め、研究法を学ぶ。
第5回【担当：苅部】	心身科学研究法 身体科学4（スポーツ方法学・トレーニング科学）	スポーツ方法学・トレーニング科学（体力・技術）・トレーニング周期・ユニットについて理解を深め、研究法を学ぶ。
第6回【担当：苅部】	心身科学研究法 身体科学5（スポーツコーチング・戦略・戦術）	スポーツコーチング・戦略・戦術について理解を深め、研究法を学ぶ。
第7回【担当：苅部】	心身科学研究法 身体科学6（質的研究）	観察法・面接法・インタビュー法など、質的研究についての理解を深め、解析および研究方法を学ぶ。
第8回【担当：島本】	身体科学と心理科学をつなぐ心身相関の考え方	自己理解・他者理解に関するアクティビティを通じて、受講生間の交流をさらに深める。

第9回【担当：島本】	心身科学研究法 理科学1	心理尺度の基本的な考え方について理解を深める。
第10回【担当：島本】	心身科学研究法 理科学2	既存の心理尺度を取り上げ、尺度の質問項目の作成方法について理解を深める。
第11回【担当：島本】	心身科学研究法 理科学3	自らが興味・関心のある構成概念（イメージ）を取り上げ、それを評価するための項目の作成を試みる。
第12回【担当：島本】	心身科学研究法 理科学4	因子分析の基本的な考え方について理解を深める。
第13回【担当：島本】	心身科学研究法 理科学5	自身の研究テーマへの心理尺度の活用について考える。
第14回【担当：島本】	心身科学研究法 理科学6	アンケート調査を実施する際の手続きやノウハウについて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに評価し、その平均点を評価点数とします。前後半ともに授業への参画状況やリアクションペーパー、各課題の提出状況等をもとに総合的に評価し点数化します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明等を実施するため初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

While introducing research in the field of psychosomatic science in the field of sports and health, you will learn the basic techniques of how to read and write academic treatises. Deepen your understanding of the theory and methods of quantitative and qualitative research through experiential learning and reading literature.

【Learning Objectives】

To learn the viewpoint of research in the field of psychosomatic science and to develop the ability to read and understand the literature in the field. Acquire the basic skills required to write a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The specific details of our efforts are as follows.

1. It is advisable to be in touch with the latest topics related to your research theme.
2. If you have any specified documents, please read them carefully in advance.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is made for each instructor in charge of the first half and the second half, and the average score is used as the evaluation score. In the first half (the part in charge of Karube), the resume, reaction paper, and participation status in the lesson submitted at the time of each lesson are scored and averaged to be the evaluation score for the first half.

In the second half (the part in charge of Shimamoto), we will comprehensively evaluate and score based on the status of participation in classes, reaction papers, submission status of each assignment, etc.

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)		5回	運動と細胞内シグナル伝達	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)		6回	運動と免疫系	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B細胞、T細胞、サイトカイン、炎症
瀬戸 宏明、安藤 正志		7回	運動介入と機能への影響	運動習慣、運動療法の効果のトピックスとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿
開講時期：春学期授業/Spring 単位数：2単位 曜日・時限：木5/Thu.5 キャンパス：多摩 配当年次：1～2年次 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉		8回	運動器の医科学	最近の運動器の医科学について紹介する 【keyword】 エコー、MRI、ウエラブル運動疫学
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。		9回	アスリートにおける生体エネルギー論の活用	mechanical efficiencyや、誤解が多いためほとんど場合で正しく運用されていない高強度インターバルなどについて学び、トレーニングやパフォーマンスについての生体エネルギー論的考察を行う。 【keyword】 クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
【到達目標】 スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。		10回	身体組成（体脂肪率）の医科学	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連		11回	エネルギー代謝とアスリートの減量	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、減量・リバウンドの機序などについて学習する。 【keyword】 基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリメーター、内分泌（ホルモン）
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		12回	女性選手の三徴	女性選手の三徴（female athlete triad）の歴史、概念、実態、評価法、対処・治療法についてアスリートの摂食障害、骨粗鬆症などの実例を通して学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、骨代謝、月経異常、低用量ピル
【授業の進め方と方法】 授業の前半はスポーツ医科学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医科学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。 後半はスポーツ医科学領域の先端的知見・研究成果について学習する。基本的に①各回のテーマに関連する文献紹介・精読、②各回のテーマに関する講義、③症例提示の3部構成で行う。		13回	アスリートの臨床栄養学	サプリメント、low energy availability、within day energy balanceなど、アスリートの栄養とパフォーマンスを考えるうえで必要な最先端の理論と臨床（対処法・治療法）について学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、within day energy balance、貧血、ergogenic aid
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		14回	総合討論	いままでの講義内容をふまえて症例提示をする
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1回	生体を構成する物質	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜		
2回	運動・身体活動の生化学	スポーツ医科学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸		
3回	運動・身体活動と物理量	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー		
4回	医科学研究で活用する基礎統計学	スポーツ医科学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ2乗検定、2群の差の検定、分散分析、統計学的検出力		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。また指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容を S～D まで評定し、これを点数化して平均したものを点数とする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修者が数学や化学・物理学、生化学といった科学の基礎となる分野に関して一定の習得をしていることを前提に授業を行うので注意すること。

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である

【Outline (in English)】

【Course outline】 The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.

【Learning objectives】 The goal of the lecture is to obtain the basic and advanced knowledge of biomedical science necessary for writing a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

【Grading criteria/policy】 The grading will be determined on the basis of the score of task and exercise assigned in each classroom (100%).

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学特論III(人文社会科学)

伊藤 真紀、望月 拓実、片上 千恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩
配当年次：1～2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究領域における研究の視点と方法論について解説を行う。本授業では、三名の専任教員が各々の専門分野に関する研究について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようになることを目的とする。

【到達目標】

人文社会科学諸分野の研究論文を読み込み、スポーツ健康学における研究の在り方を理解し、必要な研究計画、データ収集、分析、考察、成果発表を行うことができる力を身に付けていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究の視点や方法論を理解するための講義を中心に進める。後半部では各教員は自身の専門分野を切り口に、実際に関連論文を読み込み、討論をおこなっていく。研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	人文社会科学の視点	スポーツビジネス現場の課題について理解する。 スポーツビジネス現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2回	研究の方法論①	社会調査の種類について理解する。 量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることができるようになる
3回	研究の方法論②	スポーツ組織論に関連する研究と理論に関する知識と方法を理解する。 スポーツ組織論に関する研究論文を読み込む。
4回	研究の方法論③ 質的インタビューの 質問項目の作成	質的なインタビュー調査の種類について学ぶとともに、質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。

5回	研究の方法論④ 質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習し、実際に収集した質的データの分析を行う。
6回	デジタル領域におけるスポーツとマネジメント	新しいスポーツ領域であるeスポーツと新しいテクノロジー(ビデオ判定等)、観戦方法(ストリーミング観戦、VR観戦)の実態を把握したうえで、最新の研究動向を確認し文献を抄読する
7回	社会科学における研究構造の理解	実態調査研究の学術的必要性和キャリア構築における必要性を確認したうえで、レビュー研究との関連性を解説する。
8回	研究の構造解説と実践①(システムチェックレビュー)	レビュー研究のバリエーションを確認したうえでフレームワーク(PRISMA)、チェックリスト(SALSA)をふまえたシステムチェックレビューの解説と実践を行う。
9回	研究の構造解説と実践②(エビデンスマップ)	エビデンスマップの概要と必要性を解説したうえで、前回作成したシステムチェックレビューの内容をエビデンスマップに落とし込む。
10回	研究の構造解説と実践③(プレゼンテーション)	各自が作成したシステムチェックレビューおよびエビデンスマップの内容を発表し、相互の質問による討論を行う。
11回	メディア・スポーツの視点	メディア・スポーツ研究の系譜を辿り、メディア・スポーツ概念を整理する。
12回	研究の方法論① 内容分析	論文抄読を通して、メディア・コンテンツの特徴と受け手への影響力を探究する内容分析の方法を学ぶ。
13回	研究の方法論② テキスト分析	論文抄読を通して、多層的なメッセージを読み解くテキスト分析の方法を学ぶ。
14回	研究の方法論③ 実践	同じ事象を取り上げた新聞報道各紙をそれぞれ設定したテーマに沿って分析し、比較を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題される。これらに計画的に取り組む必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）。

【参考書】

その都度授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート、プレゼンテーション等を総合的に評価する。オムニバス講義であるため、各教員が担当する回数に合わせ35%(5回担当)、35%(5回担当)、30%(4回担当)に配分して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、理論を基に履修者がより深く考えるように進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]In this class, we will explain the viewpoints and research methodologies in the research fields of social and human science in sports and health sciences. In this class, three full-time faculty members will explain about their research in their respective specialties so that students can carry out high-quality research.

[Learning Objectives]Students will read research papers in various fields of humanities and social sciences, understand the nature of research in sports and health, and acquire the ability to plan necessary research, collect data, analyze, discuss, and present results.

[Learning Activities Outside of Classroom]The assignments outside of the study class will include, in turn, the creation of questions, planning of the survey, conducting the survey, and tabulation of the results. It is necessary to tackle these tasks systematically.

[Grading Criteria/Policy]Each faculty member(each session)will evaluate participants by their attitudes in discussion and reports comprehensively.

SOM50011（社会医学 / Society medicine 500）

公衆衛生学特論

笹澤 吉明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義の目的は公衆衛生分野における健康課題の最新の情報を収集し、レジュメにまとめ発表し、討論した上で今後の公衆衛生の研究の方向性を探求することである。

【到達目標】

1. 現代の公衆衛生の諸課題を明らかにする。
2. 論文を読み込み、レジュメやスライドを作成し、研究発表能力を身につける。
3. 公衆衛生分野における疫学などの研究手法を身につける。
4. 公衆衛生学の研究テーマを見出し、レビューにまとめる。
5. 公衆衛生学の教材をつくる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

衛生学・公衆衛生学の基礎的内容及び応用的内容について学ぶ。具体的な内容として、保健統計、疫学、疾病予防、健康管理、環境保健、地域保健、母子保健、産業保健、高齢者保健、精神保健、国際保健等である。これらの諸領域の課題について論じ、予防策や改善策を公衆衛生活動としてどのように実践するのか考察する。また、あらかじめ課題として出されていた講義毎のテーマに対して、院生自らが文献調査し、衛生学・公衆衛生学の具体的な課題を提起し、その問題解決に対してディスカッションする。また、予防医学の手法として重要である「疫学」の知識と実践力をしっかりと学んでもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、公衆衛生学の研究課題	オリエンテーション、公衆衛生学分野の研究課題を概観する。
2	保健統計	健康水準、健康指標、人口動態・動態統計の理解と実態及び近年の課題を討論する。
3	疫学①	定義、疫学調査の手順、方法、研究デザインを概説し討論する。
4	疫学②	バイアスと交絡、因果関係、スクリーニング、サーベイランスを概説し討論する。
5	疫学③	医学統計、倫理を概説し討論する。
6	疾病予防と健康管理	疾病予防、ポプレーションアプローチとハイリスクアプローチ、ライフスタイル、生活習慣病、健康日本21を概説し討論する。
7	主な疾病の予防	感染症、循環器系疾患、糖尿病・メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患、不慮の事故を概説し討論する。

8	環境保健	地球生態系、物理学的環境、生物学的環境、化学的環境、公害と環境問題、地球温暖化を概説し討論する。
9	地域保健及び保健行政	地域・コミュニティ、アセスメント、保健所・保健センター業務、消費者保健を概説し討論する。
10	母子保健	母子保健水準、発育発達、少子化、児童虐待、健やか親子21を概説し討論する。
11	産業保健及び高齢者保健	職業病、労働災害、ワーク・ライフ・バランス、老化、健康寿命、高齢者医療制度、包括的ケアシステムを概説し討論する。
12	精神保健	心の働き、精神保健疾患、精神保健福祉活動、発達障害、職場のメンタルヘルスを概説し討論する。
13	国際保健	人種・民族・宗教、途上国の健康問題、国際機関を概説し討論する。
14	まとめ及び研究課題報告	研究課題報告を行いディスカッションし学習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に公衆衛生に関する新聞記事や行政機関の動向、発信された情報に関心をもち、目を通しておくこと。与えられたテーマに関連した文献を抄読し、授業での発表の準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基礎から学べる楽しい疫学第4版、中村好一、医学書院、2020、3520円。

【参考書】

シンプル衛生公衆衛生学2025、小山ら、南江堂、2025、2860円。

【成績評価の方法と基準】

授業毎のレポート（50％）及び最終レポート（50％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数での実施であることから、事例について詳細な意見交換が可能であることから、学生の要望も踏まえ、大学院にふさわしい一歩踏み込んだ意見交換が継続する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of the lecture is to collect the latest information on health issues in the field of public health, compile it into a resume, present it, discuss it, and explore future research directions in public health.

【Learning Objectives】 1. Identify various issues in contemporary public health. 2. To acquire the ability to read articles, prepare resumes and slides, and present research. 3. Acquire research methods such as epidemiology in the field of public health. 4. Identify research topics in public health and summarize them in a review. 5. Acquire the ability to create teaching materials in public health.

【Learning activities outside of classroom】 Students should be interested in and read through newspaper articles, trends in government agencies, and transmitted information related to public health on a daily basis. Students are expected to read literature related to the assigned theme and prepare a presentation in class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be based on class reports (50%) and a final report (50%).

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

健康体力学特論

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動に関連した体力学の基礎的知識を学習する。さらに、体力の諸要素に関する研究の現状について学び、理論を実践場面へ適用できる可能性を考える。

【到達目標】

- ①体力に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②健康やスポーツに関わる主たる体力要素について、理論と測定法を習得する。
- ③プレゼンテーションを通じて体力の最新の研究状況を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

生涯にわたる健康やスポーツ・身体活動に関する概念や理論を理解した上で、特に健康やスポーツ・身体活動に重要な体力要素を紹介していきます。

授業においては、授業内容に対しての受講者全体での討論や個別に課題提出の機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	運動・体力の発達	体力の基礎的概念と共に、身体の発育発達や加齢に応じた各体力要素の変化について理解する。
2回	健康関連体力：全身持久性体力の概念	健康関連体力の一つである全身持久性体力の概念と、呼吸・循環・代謝などの関連する生理学的バックグラウンドを理解する。
3回	健康関連体力：全身持久性体力の測定指標と理解	全身持久性体力の直接測定法および推定法を学び、種々の評価法を習得する。
4回	健康関連体力：筋力・筋持久力の概念	健康関連体力の一つである筋力・筋持久力の概念と生理学的バックグラウンドを理解する。
5回	健康関連体力：筋力・筋持久力の測定指標と理解	筋力・筋持久力の主たる測定法を学び、種々の評価法を習得する。
6回	健康関連体力：柔軟性の概念	健康関連体力の一つである柔軟性の概念と生理学的・解剖学的バックグラウンドを理解し、評価法を習得する。
7回	健康関連体力：身体組成の概念	健康関連体力の一つである身体組成の概念と生理・生化学的バックグラウンドを理解する。
8回	健康関連体力：身体組成の測定指標と理解	身体組成を測定する種々の測定法における測定（推定）原理を理解し、評価法を習得する。
9回	筋力に関する研究プレゼンテーション	各自が調べた最新の研究をまとめる

10回	筋持久力に関する研究プレゼンテーション	各自が調べた最新の研究をまとめる
11回	柔軟性に関する研究プレゼンテーション	各自が調べた最新の研究をまとめる
12回	全身持久力に関する研究プレゼンテーション	各自が調べた最新の研究をまとめる
13回	瞬発力に関する研究プレゼンテーション	各自が調べた最新の研究をまとめる
14回	体力学における課題と展開	現在の体力学・体力測定における課題を学び、それを解決するために今後、体力学分野において展開が期待される研究内容について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示された課題の内容に基づいて授業中に頻繁に発言を求めます。課題は授業内で提示しますが、次回までに必ず予習して来てください。また、定期的にプレゼンテーションを求める予定ですので、授業内で指示される準備も必ず実施してくるようによろしく。毎回の準備・復習時間は標準で4時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画（討論への参画）状況：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This class has two objectives of learning; 1) to learn fundamental theories about physical fitness, 2) to understand the current research evidence of each physical function related to health, sports.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand the general concepts and constructs related to physical fitness.
2. Acquire theories and measurement methods of the primary physical fitness components related to health and sports.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to speak frequently in class based on the assignments. Students must prepare for the assignments presented in each session before the next class. In addition, students will be required to prepare several presentations throughout the semester. Students are expected to have 4 hours of study time outside of class time in this course.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）

健康心理学特論

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体的・心理的（精神的）・社会的健康に対する、ライフスキル教育のアプローチを学ぶことをテーマとします。

【到達目標】

個人・集団を対象として、ライフスキル教育にもとづくヘルスプロモーションの実際を理解することを目標とします。最終的には、受講生自らライフスキルの獲得が個人の健康の維持・増進にどのように貢献するかを説明でき、その実現に向けて行動できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ライフスキルを構成する個々のスキルが、個人の身体的・心理的・社会的健康の維持・増進にどのようにつながるのかを学習します。また、各回ではあるテーマについてグループディスカッションを実施し、各グループからの提示されたアイデアをクラス全体でも共有することで、一人ひとりの考え方の幅を広げ、個人の中でのイノベーションの形成を促していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の方法等を説明するとともに、アイスブレイクを実施する。
2回	精神的健康の維持・増進に向けて（ストレスパターン）	心理検査をもとに、自らのストレスパターンを診断する。
3回	精神的健康の維持・増進に向けて（失敗に対する肯定的認知）	失敗に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
4回	精神的健康の維持・増進に向けて（緊張に対する肯定的認知）	緊張に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
5回	精神的健康の維持・増進に向けて（アンガーマネジメント）	怒り等の感情をコントロールする方法について学ぶ。
6回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標設定）	目標を適切に設定するスキル（目標設定スキル）について学ぶ。
7回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標と自分との距離を縮める）	自分に合った目標を設定するために必要な自己理解について学ぶ。
8回	精神的健康の維持・増進に向けて（他者とかかわり自己を理解する）	他者理解を通じて自己理解を深める方法について学ぶ（他己紹介）。

9回	精神的健康の維持・増進に向けて（自分らしさとは何かを理解する）	「自分らしさ」を見つけ、確立するための方法を学ぶ（ジョハリの窓）。
10回	精神的健康の維持・増進に向けて（性格診断から進める自己理解）	性格検査をもとに、自己理解を深めていくための方法について学ぶ。
11回	社会的健康の維持・増進に向けて（コミュニケーション）	円滑な人間関係のために必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ。
12回	社会的健康の維持・増進に向けて（グループワーク）	グループワークを活用した、コミュニケーションスキルの高め方について学ぶ。
13回	社会的健康の維持・増進に向けて（コーチングスキル）	上下関係を円滑に進めるために必要なコーチングスキルについて学ぶ。
14回	まとめ	心身相関の考え方をもとに、これまでの一連の内容を振り返りさらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライフスキルの考え方を取り入れた研究計画（最終課題レポート）を、受講者それぞれのフィールドにて検討の上、提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（1）作成した最終レポートの内容が60%、（2）意見交換やグループワークへの参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ意見交換の時間を取りながら、授業を行えるようにと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the basic knowledge of life skills to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to practice life skills for enhancement the total health including physical, psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

The participation attitude: 40%, The reaction paper: 20%, The final report: 40%

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ栄養学特論

小清水 孝子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技スポーツ選手を主な対象として、コンディショニング維持・調整と体づくりのために必要な栄養学の知識と科学的理論を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ栄養学に関する基礎的知識と科学的理論を習得し、それらをスポーツ現場での栄養管理に活用・実践できる能力を備えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スポーツ栄養学に関する最新の文献や事例に基づき講義と議論を深めていく。

また、スポーツ現場で栄養管理を実践していくうえでの課題点についても議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	エネルギー消費量の評価	スポーツ選手のエネルギー消費量の考え方の特徴と測定方法について理解を深める。
2回	運動時のエネルギー補給	トレーニング状況に応じた栄養補給方法。糖質補給の必要性和摂取タイミングについて理解を深める。
3回	スポーツ選手の体つくりとたんぱく質	スポーツ選手のからだづくりに必要なたんぱく質の摂取量、摂取方法について理解を深める。
4回	ビタミンとミネラル	各種ビタミン・ミネラルの働きとコンディショニング維持との関連、摂取量について理解を深める。
5回	スポーツ選手の身体組成	スポーツ選手の身体組成の測定方法・データの解釈、およびパフォーマンスとの関係について理解を深める。
6回	スポーツ選手とウェイトコントロール（1）	増量時の食事管理と課題について考える。
7回	スポーツ選手とウェイトコントロール（2）	減量時の食事管理と課題について考える。
8回	スポーツ選手に多い栄養障害（1）	スポーツにおける相対的エネルギー不足、女性・男性アスリートの三主徴について理解を深める。
9回	スポーツ選手に多い栄養障害（2）	スポーツ貧血について理解を深める。
10回	水分補給	運動時の水分補給の意義と方法について理解を深める。

11回	サプリメントとアンチドーピング	サプリメント摂取に関するスポーツ選手への教育、ドーピングとの関連について考える。
12回	試合前後の食事、遠征時の食事	試合スケジュールに応じた食事調整。遠征時の食環境の整え方について理解し、試合時の実践方法を考える。
13回	スポーツ選手の栄養管理計画立案	これまでの授業内容を基にスポーツ選手の栄養サポート計画を立案する。
14回	スポーツ選手の栄養管理計画に関して議論する。	第13回の授業で立案した栄養サポート計画を発表し、議論する。試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で講義する内容に関して、あらかじめ配布資料・文献等を読んでおくこと。

授業で学び、ディスカッションした内容に関して、配布資料・文献等を活用して、自分の考えも含めてまとめておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜資料、プリントを配布する。

【参考書】

Louise Burke & Vicki Deakin: Clinical Sports Nutrition 6th edition (McGraw Hill)

寺田新：スポーツ栄養学第2版科学の基礎から「なぜ？」に答える（一般財団法人東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・議論への参加状況 50 %、期末に提出するレポート 50 % で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、スポーツ現場での栄養サポートの問題点などの事例を取り入れ、実践で活用できる内容の授業としていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the key principle of sports nutrition for elite athletes and recreational exercisers. It will cover sports nutrition for pre, during and post exercise considering various sports and body composition.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to obtain basic knowledge about clinical sports nutrition and apply an evidence-based approach to formulate nutrition support plan for athletes and recreational exercisers.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following attitude in class 50%, term-end report 50%.

SOM50011（社会医学 / Society medicine 500）

学校保健学特論

笹澤 吉明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義の目的は学校における児童生徒の健康課題の最新の情報を収集し、レジュメにまとめ発表し、討論した上で今後の学校保健の研究の方向性を探求することである。

【到達目標】

1. 現代の学校保健の諸課題を明らかにする。
2. 論文を読み込み、レジュメやスライドを作成し、研究発表能力を身につける。
3. 学校保健分野における事例報告や疫学調査の手法を理解する。
4. 学校保健の研究テーマを見出し、レビューにまとめる。
5. 学校保健の教材をつくる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

学校保健の基礎的内容及び応用的内容について学ぶ。具体的な内容として、児童生徒の発育発達と疾病・異常、感染症とその予防対策、こころの健康問題、性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用、食育、学校安全、学校の環境衛生基準等である。これらの諸領域の課題について論じ、予防策や改善策を討論する。また、あらかじめ課題として出されていた講義毎のテーマに対して、院生自らが文献調査し、学校保健の具体的課題を提起し、その問題解決に対してディスカッションする。学校保健の量的研究に必要な統計学の知識と技術を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、学校保健の研究課題	オリエンテーション、学校保健分野の研究課題を概観する。
2	文献検索	学校保健分野の文献の収集法と整理法を概説する。
3	統計解析の基礎	目的、母集団と標本、サンプリング、標本誤差、尺度水準を概説する。
4	統計解析の応用	基本統計量、図表の見方と作り方、正規分布、パラメトリックとノンパラメトリック、対応のないデータと対応のあるデータを概説する。
5	統計解析の演習Ⅰ	単変量解析（相関、独立性の検定、t検定、U検定、一元配置分散分析等）の例題を解く。
6	統計解析の演習Ⅱ	多変量解析（重回帰分析、多重ロジスティック回帰モデル等）を概説する。
7	文献紹介と討論①	メンタルヘルスの文献を紹介し、討論する。

8	文献紹介と討論②	危険行動の文献を紹介し、討論する。
9	文献紹介と討論③	発育発達、体力、運動習慣の文献を紹介し、討論する。
10	文献紹介と討論④	栄養、食育の文献を紹介し、討論する。
11	文献紹介と討論⑤	性教育の文献を紹介し、討論する。
12	学校保健の教材の作り方	スライド、動画、GIGAスクール構想に則したICTを活用した教材作りの手法を概説する。
13	学校保健の教材づくりの検討	スライド、動画教材の効果的な作り方・活用の仕方について討論する。
14	総合討論と最終レポート	学校保健の課題について総合討論し、最終レポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童生徒や学生に関わる健康課題、問題行動について関心をもち、マスメディアが発信する情報や文部科学省から発信される情報を収集し、問題点や動向について認識を深めることにより、問題意識を高めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

統計解析の資料を配布。その他講義内容に応じた資料を適宜配布。

【参考書】

学校保健概論（第3版）、渡邊正樹、光生館、2021、2200円。

その他適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

授業毎のレポート（50%）及び最終レポート（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数での実施であることから、事例について詳細な意見交換が可能であることから、学生の要望も踏まえ、大学院にふさわしい一歩踏み込んだ意見交換が継続する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of the lecture is to collect up-to-date information on student health issues in schools, compile it into a resume, present it, discuss it, and explore future directions in school health research.

【Learning Objectives】 1. Identify various issues in contemporary school health. 2. To read articles, prepare resumes and slides, and acquire the ability to present research. 3. To understand the methods of case reporting and epidemiological studies in the field of school health. 4. Identify research themes in school health and summarize them in a review. 5. To acquire the ability to create school health teaching materials.

【Learning activities outside of classroom】 Students should be interested in health issues and problematic behaviors related to children and students, and should raise their awareness of the issues by collecting information disseminated by the mass media and by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, and by deepening their awareness of the issues and trends. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be based on class reports (50%) and a final report (50%).

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

体力・機能測定評価演習

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月1/Mon.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関連した体力およびそれに関する諸機能について、概念と基礎的理論を学習する。身体活動に関連する体力や身体諸機能を適切に測定し、評価しうる能力を習得する。

【到達目標】

- ①体力・身体機能に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②種々の体力要素について、理論と具体的な測定・評価法を習得する。
- ③種々の体力要素の測定結果を、様々な場面に適用できる実践力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

身体活動を対象とした研究の実践時に重要な体力要素を取り上げ、その概念や具体的な測定方法を学ぶ演習を行います。また、実際の測定方法に加え、エビデンスに基づく評価方法について解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、演習における活動に加え、受講者全体での討論や課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	体力・身体活動研究における現状の理解	体力学、身体活動研究における現状や概念を理解し、測定・評価法の歴史を学ぶ。
2回	人体の大きさ：体重と身体組成の生理学的背景と概念	体重、体型、身体組成について、体力的・生理学的側面から学習する。
3回	人体の大きさ：形態計測と体型指数の実際	形態計測と体型指数について、その具体的な方法を学ぶ。
4回	人体の大きさ：身体組成測定の実際	身体組成の具体的な測定方法を学ぶ。
5回	人体の大きさ：測定結果の分析と解釈	身体組成の測定結果の分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
6回	骨格筋活動：生理学的背景と測定法の理解	身体各骨格筋に関して、その収縮を司る神経系活動や収縮レベルに関与する生理学的背景について学習する。
7回	骨格筋活動：筋電図計測の実際	骨格筋活動を間接的に把握する筋電図の計測方法を習得する。
8回	骨格筋活動：筋電図の分析と解釈	計測された筋電図データの分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。

9回	エネルギー代謝：概念・生理学的背景	基礎代謝および運動時のエネルギー代謝について、生理学的側面から概念・測定原理を理解する。
10回	エネルギー代謝：直接測定の理解	安静時および身体活動時における呼気ガス分析を用いたエネルギー代謝測定法を習得する。
11回	エネルギー代謝：間接測定（推定）の実際	身体活動時のエネルギー代謝を簡易に推定する方法を習得する。
12回	エネルギー代謝：測定結果の分析と解釈	測定されたエネルギー代謝の結果を用いた安静時代謝量の計算や、身体活動中の糖・脂質代謝の計算方法を習得する。
13回	身体活動量・運動習慣：概念と調査法の理解	身体活動量の概念、運動習慣の定義などを学び、これらを測定する意義について学習する。
14回	身体活動量・運動習慣：調査の実際と分析法の理解	身体活動量の測定結果、および運動習慣調査などの結果について、具体的な分析方法を習得する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5, 8, 12回においては、各体力要素の測定法演習の結果を取りまとめる簡易レポートの提出を求めます。また、3, 4, 7, 10, 11, 14回においては、授業内で測定したデータの取りまとめを授業時間外で行う必要があります。各授業における教員からの指示に従って、授業外学習を進めて下さい。

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業での演習の状況（討論への参画状況を含む）：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】The learning objective of this class is to acquire the ability to accurately measure and evaluate physical fitness and physical functions related to physical activity.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand the general concept and structure of physical fitness and physical functions.
2. Acquire the theory and specific measurement and evaluation methods for various physical fitness components.
3. Acquire practical skills to apply the measurement results of various physical fitness components to various situations.

【Learning activities outside of the classroom】In sessions 5, 8, and 12, students are required to submit a short report summarizing the results of the measurement exercises for each physical fitness element. Students must compile the data measured outside the class time in sessions 3, 4, 7, 10, 11, and 14. Please follow the instructions given by the instructor in each class and study outside the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

SOM50011（社会医学 / Society medicine 500）

運動疫学演習

畑中 翔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動疫学とはヒトにおける運動と健康の間に原因と結果の関係（因果関係）があるかどうかを明らかにする学問である。100人の血圧を測定し、その中で血圧が高い20人を2群に分け、A群には運動指導を、B群には「おまじない」をして1週間後に血圧を測定すると両群とも平均血圧は（ほぼまちがいに）低下する。このような研究デザインだと運動指導だけでなく「おまじない」にも降圧効果があることになってしまう。本授業では、このようなヒトを対象としたスポーツと健康に関する研究のピットホール（落とし穴）を解説するとともに、科学的に正しい研究結果を生み出す研究デザインを紹介し、ヒト集団を対象に実施されたスポーツと健康に関する研究結果を適切に理解できる能力を養うとともに、研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【到達目標】

- ① 運動疫学に関する基本的な考え方、基本用語、基本統計を学ぶ。
- ② 運動疫学に限らずスポーツ科学全般における研究結果を適切に理解できる能力を養う。
- ③ 運動疫学研究の研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで作成した教材と数多くの先行研究や総説（叙述レビューおよび系統的レビュー）を通じて運動疫学研究の基本を理解するだけでなく、各テーマについて討議することによって理解を深める。また、研究結果を理解したり、研究を実施したりする場合に陥るピットホールの種類や危険性を具体例を通じて理解することにより、適切な研究デザインによって生み出された研究結果とはどのようなものであるかを理解する。さらに、講義や討議によって得られた知識を実習（修士論文の計画策定・発表）を通じて身に着ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	運動疫学の基本および考え方	疫学の基本的な考え方について概説し、科学的根拠（エビデンス）について解説する。
2回	疫学の基本用語・基本統計・ピットフォール（落とし穴）の紹介	疫学の基本用語を解説・基本統計の紹介・疫学研究におけるピットフォールの代表（選択バイアス、交絡等）を解説
3回	記述疫学研究の概要紹介	記述疫学研究の概要を説明・記述疫学研究として国民健康・栄養調査や各種統計調査を紹介し解説
4回	観察研究の読み方、やり方	観察研究の概要とピットフォールを紹介・観察研究の読み方や実施方法を解説

5回	演習：論文紹介	各自で興味を持った観察研究の論文を紹介する
6回	研究デザイン	様々な研究デザインの概要を紹介・各デザインの読み方や実施方法を解説
7回	演習：論文紹介	各自で興味を持った研究論文を紹介する
8回	ランダム化比較試験の読み方、やり方	ランダム化比較試験の概要とピットフォールを紹介・ランダム化比較試験の読み方や実施方法を解説
9回	システマティックレビューの読み方、やり方	システマティックレビューの概要とピットフォールを紹介・システマティックレビューの読み方や実施方法を解説
10回	実習 オリエンテーション・研究疑問の検討	研究の計画発表（授業で紹介した疫学研究手法を用いて研究疑問の解決に向けた研究デザインを構築）の進め方を説明。各自で研究疑問に関連する先行研究について文献調査。
11回	実習 文献収集	リサーチクエストを解決するための文献収集法を紹介
12回	実習 研究デザインの立案	先行研究を参考にリサーチクエストを解決するための研究デザインを立案
13回	実習 研究デザインの発表準備	パワーポイントを用いて、立案した研究デザインの紹介スライドを作成
14回	研究デザインの発表と授業の総括	立案した研究のデザインを学会形式で発表し、質疑応答を通じて運動疫学に対する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業前に、予習として授業テーマに関する事項をインターネット等を利用して確認しておくこと。各授業後には復習として授業で学んだ部分について参考図書を読んで内容を確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回、関連文献・関連総説・資料等を配布する。

【参考書】

- ・はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第4版）、南江堂
- ・基礎から学ぶ楽しい疫学（改訂4版）、医学書院
- ・身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～、杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的な発言や質問等の授業態度（50%）、文献紹介や研究計画プレゼンテーションの内容や発表態度、質疑応答内容（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラスサイズが小さいため、各受講生の研究内容や個別の要望を開き、適宜修正しながら授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションができるよう、プレゼンソフトが入ったノートPCを毎回の授業で持参すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Exercise epidemiology is an academic discipline that examines the cause-and-effect relationship between exercise and human health. This course will provide an overview of epidemiological research designs and explain how to identify and avoid common pitfalls in sports and health-related studies.

[Learning Objectives]

The learning objectives of this course are as follows:

To understand basic concepts, terminology, and statistical methods related to exercise epidemiology.

To develop the ability to critically evaluate research findings presented in English-language academic articles on sports and health studies.

To acquire the skills necessary to design research plans effectively, using knowledge gained in exercise epidemiology.

[Learning Activities Outside the Classroom]

Students are encouraged to prepare for each class by researching the topics online or using relevant materials in advance. After each class, students are expected to review the material covered. The total time required for preparation and review is approximately 2 hours per class.

[Grading Criteria/Policy]

Grades will be based on the following components:

Attendance (20%)

Class participation (30%)

Presentations, including performance in Q&A sessions (50%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツマネジメント特論

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において、受講者はスポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとみなすスポーツマネジメントの理論と実践を総合的に学習する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

1. スポーツマネジメントがビジネスマネジメントの一つとして登場し今日に至った背景や経緯を説明することができる。
2. スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理）について理解し、その実践方法を説明することができる。
3. スポーツ組織の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業はスポーツマネジメントの主要分野とそれらに対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスおよび導入	講義の概要の説明を受けるとともに、スポーツマネジメントの導入の授業を受ける。
2回	スポーツマネジメントとは	ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について理解を深める。
3回	スポーツ産業とは	スポーツマネジメントの対象分野となるスポーツ産業の具体的な個別産業領域、それぞれの市場規模、これまでの発展の経緯、そして今後成長が期待できる産業について理解を深める。
4回	スポーツ組織論：計画、組織化	スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。
5回	スポーツ組織論：実行、評価	スポーツ組織論の中でも、所属メンバーの動機付けと事業評価について、マネジメント理論とともに学習する。

6回	スポーツ消費者行動	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的变化を必要とする。ここではファンの誕生のメカニズムについて学習する。
7回	スポーツマーケティング	多様化する消費者ニーズを充足するスポーツプロダクトの創造に向け、最新のサービス中心の論理を含めたスポーツマーケティングコンセプトについて議論し、その理解を深める。
8回	ブランドマネジメント	コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。
9回	マーケティングミックス	スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングミックスと呼び、それぞれの要素の特徴について学習する。
10回	スポーツスポンサーシップ	アスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。
11回	スポーツ施設マネジメントの基礎	今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、ITテクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。
12回	スポーツ施設マネジメントの今後：第二局面のスポーツ施設	2000年以降、スポーツ「しか」見せない第一局面のスタジアムから、スポーツだけでなく多様なサービス「も」提供する第二局面のスタジアムへの転換が起こっている。こうした変化の背景を学習するとともに、第二局面のスタジアムが生み出す様々な効果について理解する。
13回	スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシーと呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。
14回	スポーツマネジメントのまとめ	現代社会におけるスポーツマネジメントの重要性を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想をまとめ、授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配付します）。

【参考書】

原田宗彦（編）（2021）スポーツ産業論（第7版）。杏林書院：東京。2,750円

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房．2,640円

原田宗彦・小笠原悦子（2015）スポーツマネジメント（スポーツビジネス叢書）．大修館書店：東京．2,090円

【成績評価の方法と基準】

小レポート：10点×10回(10%×10回=100%)

【評価基準】

10点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。

8点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。

6点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。

4点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら論じている。

2点：授業の内容を踏まえて論じている。

【学生の意見等からの気づき】

現在のスポーツ界で起きているマネジメント関連の問題を授業で取り上げ、皆で議論します。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】

毎回、担当教員と他の履修者とともにディスカッションを行います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course considers sports as products and their projects and practices as sports businesses. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the sport management field.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand sport management principles such as organizational behavior and sport marketing at the master's level.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to spend four hours to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on ten short reports (10 short reports X 10 points).

SOM50011（社会医学 / Society medicine 500）

運動器疾患予防と対処特論

安藤 正志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：木2/Thu.2 | キャンパス：多摩
配当年次：1～2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

筋肉や関節（スポーツ傷害も含む）傷害と予防について学びます。
筋骨格系障害の発生のメカニズムおよび予防とリハビリテーションを理解する。
また、痛みの対処法や個々の筋肉をストレッチする方法を体験する。

【到達目標】

この授業を学ぶことで以下のことを理解できます。
スポーツ傷害を予防する方法
運動器疾患発生のメカニズム（なぜその関節に傷害が発生するか）
関節部位の機能解剖と触診（どの筋が収縮すると関節が動くのか）
肩関節の障害はどのように診るべきか
肘、手関節の障害はどのように診るべきか
股関節の障害はどのように診るべきか
膝、足部障害の診方
各関節に発生する障害を予防するためには
傷害が発生した場合、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）をどのように進めるべきか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがバイブルにしているカバンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	運動器疾患（スポーツ傷害を含む）の成り立ちと機能診断のみかた	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。個々の筋力の測定手順、各関節の可動性の測定手順、バランス機能の測定手順など用具や測定機器の紹介をする。実際の使用は2回目以降に分散して実施する。
2回	肩関節障害の予防と評価および対処方法	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価する。また肩障害の予防方法を理解することを授業目標とする。
3回	肘関節障害の予防と評価および対処方法	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価する。また肘障害の予防方法を理解することを授業目標とする。
4回	手、手指関節障害の予防と評価および対処方法	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価する。また手・手指障害の予防方法を理解することを授業目標とする。
5回	股関節障害の予防と評価および対処方法	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価する。またその予防方法を理解することを授業目標とする。
6回	膝関節障害の予防と評価および対処方法	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7回	足、足部関節障害の予防と評価および対処方法	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。

8回	骨盤障害の予防と評価および対処方法	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
9回	腰椎障害の予防と評価および対処方法（特に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）
10回	腰椎障害の予防と評価および対処方法（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）
11回	中下部頸椎（C2～T3）障害の予防と評価および対処方法	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価できる。またその予防方法を理解することを授業目標とする。
12回	上部頸椎障害（後頭下関節～C2）の予防と評価および対処方法	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、またその予防方法を理解することを授業目標とする。
13回	顎関節障害の予防と評価および対処方法（特に開口障害）	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、またその予防方法を理解することを授業目標とする。
14回	胸郭・肋骨障害の予防と評価および対処方法（肋間神経痛・吸気呼吸機能の障害など）	胸郭・肋骨の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価できる。またその予防方法を理解することを授業目標とする。肺活量を胸郭トレーニング前後に測定し、変化していることを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学に関する科目を修得しておく必要がある）本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。例えば主な骨名や筋肉名が理解できていること。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業中に出された実習課題（50%）、宿題に出された課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数であったので一人一人の指導時間がとれた。講義、実技、課題発表のバランスを考慮しながら進めたい。

【その他の重要事項】

ある程度の機能解剖学あるいは運動学と解剖学に関する知識があること。骨や骨部位の名称（例；大腿骨、大腿骨頭など）、主要な筋名（例；大腿四頭筋、上腕二頭筋など）、関節の動き（屈曲、伸展など）がわかること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the basic methods of reseachs of rehabilitation.

【Learning Objectives】

Understand about body and health.

【Learning activities outside of classroom】

Students should research the body and health in the title of the lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be determined by regular exams and reports.

ECN50011 (経済学 / Economics 500)

スポーツ産業学特論

片上 千恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

従来のスポーツ産業においては、用品産業、施設・空間産業、情報産業の3つの領域は独立し存在していた。しかしながら、近年スポーツ健康への関心の高まりや消費者のライフスタイルの多様化などを背景にスポーツ健康産業の市場が拡大し、それぞれの領域が密に接し、ついに交わるようになっている。この複雑な産業構造や要素間の関係を理解し、スポーツその持つ価値を最大化し、かつ収益性を高めるということを踏まえつつ、スポーツそのものにダイナミズムを与えるスポーツ健康産業論を展開する。

【到達目標】

本講義では、スポーツ産業についての理解を深めることを目的としている。具体的にはスポーツを商品として捉えた場合の商品特性や多様化するスポーツサービス業についての構造的な理解と現代的な経営課題について学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

多様化するスポーツ産業について、消費者行動や商品開発、ブランディングなど経営戦略やマーケティングなどの視点から解説していく。本授業は講義形式でおこないます。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。授業ではプロジェクターを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	受講ガイダンス	スポーツ産業の産業構造について解説するとともに、授業の狙い、進め方なども併せて説明する
2回	スポーツ産業の産業構造	スポーツ産業の歴史と実態さらに抱えている問題について解説する
3回	スポーツプロダクトとライフサイクル	スポーツを商品として捉え、その特性や商品としてのライフサイクルまたはマーケティングについて解説していく
4回	スポーツサービス産業	スポーツサービス業の目的・形態について歴史的な推移と共に解説していく
5回	スポーツとメディア産業	スポーツの産業化とメディアの関係およびメディア産業の発展について考察する
6回	スポーツ用品産業	スポーツブランドのマーケティングやブランディングについて考察していく
7回	スポーツツーリズム	スポーツイベントとツーリズムの関係について解説していく

8回	スポーツと地域	スポーツイベントやプロスポーツクラブが地域に与える影響について考察していく
9回	フィットネスクラブのマネジメント	民間のフィットネスクラブについて歴史的な変遷や形態およびサービスの変遷について考察していく
10回	公共スポーツ施設のマネジメント	公共スポーツ施設のマネジメントについて現代的な課題およびサービスについて解説していく
11回	スポーツとCSR	CSRについての理解を深めるとともに、スポーツ組織におけるCSRについて考察していく
12回	スポーツとソーシャルインパクト	スポーツイベントが社会に与えている影響について考察するとともに、ソーシャルインパクトを創出する方法や意義について解説していく
13回	メガスポートイベント（五輪のマーケティング）	オリンピックの近代化や商業化のプロセスを解説する
14回	メガスポートイベント（サッカーW杯のマーケティング）	サッカーワールドカップの近代化や商業化のプロセスについて解説するとともに、FIFAの世界戦略やマーケティングについても解説していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況(感想や理解度の確認のための小テストなど授業内に実施する提出物)(10%)や期末のレポートの内容(90%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

学生とディスカッションの機会を増やし、疑問や要望に合わせた内容を盛り込んでいく。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 10%, final report : 90%.

ECN50011（経済学 / Economics 500）

スポーツ健康政策学特論

海老島 均

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピックに代表されるエリートスポーツを推進させる政策、また一般市民を対象としたスポーツによる健康政策、一見異なるレベルにおけるスポーツ関連政策に、いかに連続性を見いだしていくのか？ 諸外国の実情および我が国の国家レベルまたは地方自治体レベルでの取り組みを踏まえながら議論を進めていく。受講生が、スポーツや健康をめぐる最新の動向、また各受講生の研究テーマを政策に関連づけることができることを目的とする。

【到達目標】

エリートスポーツ・競技スポーツ環境整備政策の特徴、健康政策の特徴を把握し、目指すべき方向性に向けての政策立案、選択をできるようにする。また両者の連続性、共存性に関する知識を深める。国内外のスポーツ健康政策の現状を理解し、その比較検討から、我が国の将来に向けてのスポーツ健康政策に関する戦略を受講生個々が提案できるようになる。

By the end of this course, students should be able to do the followings.

- to understand the characteristics of elite sport, competitive sport, community sport and sport for health
- to create the policy to promote different type of sport in order to meet various needs from the public
- to acquire the profound knowledge of the pathway from the community sport to the elite level.
- to be able to plan the strategy for the future development of sport and health promotion in our country.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

海外のスポーツ健康政策に関する調査事例を紹介するとともに、インターネット等を通して受講生個々が調査分析する機会を持つ。また我が国のスポーツ健康政策に関してはフィールドワークを行う機会を提供し、それぞれの調査結果をもとに議論を重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション：スポーツ健康政策の社会的背景	世界におけるスポーツ健康政策の現状と課題に関して紹介していく。講義の流れに関しても解説する。
2回	我が国のスポーツ健康政策の経緯	我が国のスポーツ健康政策がどのような変遷を経てきたか、その歴史に関して理解を深める。
3回	我が国のスポーツ政策の現状と課題	スポーツ振興基本計画、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法によって発展したこと、また課題について考える。

4回	諸外国のスポーツ政策の分析①（イギリス、アイルランド）	我が国と同様に学校スポーツが盛んな両国のスポーツ政策戦略を学ぶ。
5回	諸外国のスポーツ政策分析②（ドイツ、オランダ、フランス）	地域スポーツクラブがスポーツ実践の基盤となるヨーロッパのスポーツ大国の戦略について学ぶ。
6回	まちづくりと日常的な身体活動・スポーツ（コンパクトシティと市民の健康）①	ヨーロッパの都市に多く見られるコンパクトなまちづくりは人々の日常的な身体活動（徒歩や自転車での移動）を活性化させ、人々の健康、コミュニティの活性化に大きな影響を与える。この観点について考える。
7回	まちづくりと日常的な身体活動・スポーツ（コンパクト・シティと市民の健康）②	我が国で展開されているコンパクトシティ構想（富山市、宇都宮市等）の事例に関して詳細に検討し、今後のまちづくりと市民の健康の関係性について考える。
8回	スポーツ健康政策と「新しい公共」	「新しい公共」の概念と理解とスポーツ政策や健康政策策定に与える影響について考える。
9回	地方自治体とスポーツ健康政策	わが国の地方自治体で展開されているスポーツ健康政策に関して、その現状と課題を議論する。
10回	NPOやボランティアのマネジメント	コミュニティ・スポーツの発展にNPOやボランティアの果たす役割について事例をもとに考える。
11回	総合型地域スポーツクラブ構想について検証する	総合型地域スポーツクラブの成功事例、課題に関して学び、今後のスポーツ健康政策策定に向けて考える。
12回	学校スポーツと地域スポーツの相互補完関係に関して考える	2023年度からスタートした中学校の課外活動の地域移行に関して現状および今後の課題に関して検討する
13回	スポーツ環境におけるパスウェイ形成の方策に関して	グラスルーツからエリートスポーツへのシームレスな連携をつくる方策に関して諸外国の事例の比較から考える
14回	スポーツ健康政策の方向性とアクターについて	我が国の健康スポーツ政策の目指すべき方向性と、アクターの役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、次週に向けての課題図書を紹介または資料を配布する。それらを熟読し、テーマに関しての理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URLを紹介する。

【参考書】

菊幸一他編著『スポーツ政策論』成文堂、2011、日本体育・スポーツ政策学会監修『スポーツ政策学』成文堂、2025、その他必要に応じてテーマに応じた参考図書、URLを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時のプレゼン等の課題による評価：60%

最終課題（レポートまたはプレゼン）の評価：40%

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の研究テーマに即した学びを深める機会をより一層提供できるように努力したい。

【その他の重要事項】

原則対面授業ですが、教材の内容等よりオンライン授業を併用することもあります。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

The sport policy which promotes elite sport environment towards Olympic Games or the other international competitions and the sport policy which enhances health of ordinal people through sporting activities coexists in different ways dependent on the given countries' policies. These policies can be separated or be integrated. Is it possible to create the continuity? We discuss this issue with the related data and documents about various countries and various levels of sporting fields and daily lives.

(Work to be done outside of class)

Students are expected to complete the reading assignments before the next class. The reading assignments or references are introduced during classes.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and the term end exam (40%) .

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500)

スポーツジャーナリズム特論

片上 千恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムという用語は元来、特に新聞などの印刷物による最新の出来事の報道に用いられたが、20世紀のラジオとテレビの出現に伴って、最新の出来事を扱う活字・電子コミュニケーション全般を含むようになった。スポーツジャーナリズムも科学技術の進歩により、より広範囲にそして個人レベルでも世界に公開できる時代になった。

この講義では、日本のスポーツジャーナリズムの変遷を学ぶとともに現代社会における様々な事象をどのように捉え、伝えているかを考察する。

【到達目標】

- ・多角的、批判的にスポーツを捉え、客観的に考える力を身につける。
- ・現代日本が抱えるスポーツの課題を見極め、自分なりの意見を発信できる。
- ・メディアリテラシーに基づく判断力・表現力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを活用した講義形式。毎回、授業冒頭に予め決めた担当者が気になるスポーツニュースを作成資料とともに解説し、全員でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。 メディアとジャーナリズムの概説。
2回	スポーツジャーナリズムの自由と責任	スポーツジャーナリズムの「自由」とは何か。メディアの法制度について理解する。
3回	スポーツとナショナリズム	オリンピック・パラリンピック報道から「国民」を考える。
4回	スポーツとLGBTQ+	スポーツ界の多様性の理解と対策の現状を学ぶ。
5回	スポーツ界における不祥事	野球界、角界の賭博問題やドーピングなどの事例とともにガバナンスを考える。
6回	スポーツとジェンダー	女性アスリートの描かれ方とその変遷から学ぶ。
7回	ゲスト招聘	フォト・ジャーナリズムが伝えるもの。写真の役割とは何か。
8回	中間テスト	これまでのまとめ
9回	スポーツ中継	マイナーからメジャーへと変化したサッカー報道の歴史から見えてくるものを考察する。
10回	スポーツとハラスメント	体罰、上下関係、性的、あらゆるハラスメントをスポーツインテグリティの視点から考える。

11回	外部講師：新聞記者	新聞報道の取材と独自性とは何か。
12回	スポーツと経済	スポーツがもたらす経済波及効果をビッグイベントの事例から考える。
13回	スポーツと教育	部活動の地域移行について学ぶ。
14回	総括	授業内レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内発表（50%）、授業内レポート（50%）で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生とのディスカッションの機会を増やし、学生の疑問や要望に応えながら進めていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the evolution of sports journalism in Japan and examine how various events in contemporary society are perceived and conveyed.

【Learning Objectives】

The goals of this course are:

- Developing the ability to perceive sports from various perspectives and critically analyze them.
- Identifying the challenges facing sports in contemporary Japan.
- Enhancing judgment and expressive skills based on media literacy.

【Learning activities outside of classroom】

Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

In-class reports (50%), and in-class presentations (50%).

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500)			スポーツメディア特論		
小池 隆俊、赤堀 宏幸					
開講時期：春学期授業/Spring 単位数：2単位					
曜日・時限：水3/Wed.3,木2/Thu.2 キャンパス：多摩					
配当年次：1～2年次					
備考（履修条件等）：					
その他属性：					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
世界の政治、経済、文化事象を把握し、これらがスポーツとどう関連付けられるかを根本的な主題としたい。スポーツと政治の関係も追求し、メディアの根本原則も考える。					
【到達目標】					
オリンピックをはじめ、国際大会や国内プロリーグなどの事例をもとに「スポーツとは何か」「スポーツの真実」「スポーツに可能なもの」などを深く理解する。メディアの歴史を踏まえ、刻々と変化する現在の状況を分析する力を身に着ける。					
【Learning Objectives】The objectives of this course are to gain an in-depth understanding on Sports and Media by examining cases from the Olympics Games and other international competitions.					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」に関連					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
講義形式を基本とし、状況が許せばフィールドワークも取り入れる。感染症の広まりなどによってオンラインとする場合もある。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし / No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
あり / Yes					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容	7回	日本国内、海外のスポーツ報道の速報性	スポーツの結果報道の新聞、電波という報形態から、より速報性で効果のあるネットメディアへの変遷【担当：赤堀先生】
1回	新聞・通信のスポーツ取材のルール	新聞・通信各社がスポーツ取材をするときのルールや記者クラブシステム、プレスルームの運営、幹事社制度【担当：赤堀先生】	8回	スポーツメディアの変遷と現在地	新聞がスポーツを伝え始めたのがおよそ140年前、その後ラジオが普及し、さらに映像を加えたテレビが黄金時代を迎えた。しかし近年はインターネットの登場でテレビの存在も揺らぎ始めた。メディアの変遷の歴史と各メディアが融合を加速させている現在地を整理する。【担当：小池先生】
2回	スポーツメディアとメディアスポーツ	アスリート、イベントがあって、メディアが存在する一方で、メディアとスポーツイベントが共存共栄の図式もある【担当：赤堀先生】	9回	スポーツとテレビ、そしてOTT	スポーツ団体、テレビ、スポンサー、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げた。巨額の放映権に絡みルール変更や競技時間変更などの事態も生じた。さらにOTTの登場で放映権料の高騰に拍車がかかっている。【担当：小池先生】
3回	オリンピックとマスメディア	オリンピックを報道するマスメディアと大会の規模、競技・開催の変遷【担当：赤堀先生】	10回	メディアによるスポーツの商業化とアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促した一方で、近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。スポーツの発祥と進展の歩みを知る。【担当：小池先生】
4回	メディアと競技種目、公開競技の関係	オリンピックの競技種目、公開競技開催とメディアの関係（今昔）【担当：赤堀先生】	11回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品やその後の秀作を例に挙げながらスポーツドキュメンタリーを読み解く。【担当：小池先生】
5回	スーパーボウルとイングランドのプレミアリーグ	欧米のスポーツメディアとメジャースポーツの関係の大きさ【担当：赤堀先生】	12回	イノベーションがスポーツを変える	カメラの高度化や解析システムの発達、CG技術の進化などによるイノベーションはスポーツの見方を変え、競技力向上や戦略にも大きな影響を与えている。刻々と変化を続ける現状を洞察する。【担当：小池先生】
6回	イチロー、松井秀喜、松坂大輔と日本のスポーツメディア	メジャーリーグベースボール（MLB）にイチローが進んで以降の日本のスポーツメディアの変化【担当：赤堀先生】	13回	誰もがメディアになる時代	SNSで選手が自ら情報を発信することは近年日常的になっている。マスメディアに頼るのではなくSNSによるセルフプロデュースの動きも盛ん。情報発信の変化を捉え、そこから生じる問題点にも目を向ける。【担当：小池先生】
			14回	スポーツメディアの近未来	インターネットがメディアの中心的存在となる中、既存メディアもネット展開を加速させている。また、5Gの実用化に伴い新し映像技術が開発されその進歩は目覚ましい。スポーツメディアの近未来を展望する。【担当：小池先生】
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】					
シラバスに記載の授業テーマに関連するニュースを複数のメディアでチェックしておくこと。授業内容を復習し、自分自身で発表する資料を作成すること。					
本授業の準備、復習時間は合わせて4時間を標準とする。					
【Learning activities outside of classroom】Check multiple media outlets for news related to the class themes listed in the syllabus.					

Review the content of the class and prepare your own presentation materials.

The standard time for preparation and review for this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、新聞、書物などを持参する場合がある。

【参考書】

「21世紀スポーツ大事典」（大修館書店）「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」（佐塚元章 文芸社）「情報爆発時代のスポーツメディア」（滝口隆司 創文企画）「稼ぐがすべて」（葦原一正 あさ出版）「江夏の21球」（山際淳司 角川新書）

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況や授業態度 40% 課題レポート 60%の配分として

総合評価する。

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be based on 40% participation and attitude in class and 60% assignment reports.

【学生の意見等からの気づき】

直近の出来事を授業で取り上げることで、好評を得ている。今後も随時タイムリーな話題を取り上げていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大きなトピック、世界を揺るがすスポーツ事象などは常に起こる可能性がある。それを勘案すれば、必ずしもシラバス通り、計画通りにいかない場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the relationship of the sports and the economy, the culture and especially the politics in the world. It also deals with what the mass media should be.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are to gain an in-depth understanding on Sports and Media by examining cases from the Olympics Games and other international competitions.

【Learning activities outside of classroom】 Check multiple media outlets for news related to the class themes listed in the syllabus.

Review the content of the class and prepare your own presentation materials.

The standard time for preparation and review for this class is 4 hours in total.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be based on 40% participation and attitude in class and 60% assignment reports.

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500) スポーツ消費者行動特論 吉田 政幸 開講時期：秋学期授業/Fall 単位数：2単位 曜日・時限：月2/Mon.2 キャンパス：多摩 配当年次：1～2年次 備考（履修条件等）： その他属性： 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本特論において、受講者はスポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動について理解を深めるため、それらと関係した理論とそのスポーツへの応用を幅広く学習する。 【到達目標】 1. スポーツプロダクトの特性とそれを消費するスポーツ消費者について説明できる。 2. スポーツ消費者の意思決定過程を認知、魅力、愛着、忠誠の段階に分けて説明できる。 3. スポーツイベントにおける顧客満足的重要性を説明できる。 4. スポーツ消費者が形成する社会的アイデンティティについて説明できる。 5. スポーツブランドがスポーツ消費者に与える影響を説明できる。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連 【主な授業方法】 L 講義 /Lecture 【授業の進め方と方法】 受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。授業はディスカッション形式であり、受講者の参加を前提としている。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No 【授業計画】 授業形態：対面/face to face		5回 スポーツ消費者の意思決定過程：認知と魅力の段階	スポーツに興味・関心の低い者が、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）を認知し、やがてそれらに魅力を感じるようになる意思決定過程について学習する。
		6回 スポーツ消費者の意思決定過程：愛着と忠誠の段階	スポーツ参加者やスポーツ観戦者が熱心な愛好者やファンへと成長する過程において、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）が個人の自己概念の中にどのように取り込まれ、アイデンティティの形成に至るかを理解する。
		7回 スポーツイベントと顧客満足	時には「負け」を前提に事業を展開しなければならないスポーツビジネスにおいて何故顧客満足が重要なのかを理解するとともに、スポーツイベントで提供されるサービス経験の質を高めることが顧客満足の向上につながることを理論的に学習する。
		8回 スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者が特定のスポーツプロダクト、組織、イベントなどに継続的に愛顧心を頂き、それらと支援的な関わりを持つようになる現象を、顧客ロイヤルティの点から学ぶ。
		9回 スポーツ消費者とブランド	スポーツブランドにどのような付加価値が備わっているかを理解するとともに、それらの高め方と高めた結果期待できる競争優位性について学習する。
		10回 スポーツ組織の社会的責任とスポーツ消費者	成熟社会において人はより良く生きるためスポーツに対して個人的な恩恵だけでなく、より社会的なレベルの効果を求めるようになる。そのような社会において、スポーツ組織が果たすべき社会的責任について考える。
		11回 スポーツ消費者の社会的アイデンティティ	スポーツ消費者は様々なスポーツ対象（特定種目、選手、チーム、リーグ、イベント、地域など）を社会的アイデンティティとして自己概念の中に取り込むことで自分が何者なのかを確認している。ここではスポーツを通じた社会的アイデンティティの形成について学びを深める。
1回 テーマ ガイダンス			
2回 スポーツプロダクトとスポーツ消費者			
3回 スポーツ消費者の動機因子			
4回 スポーツ関与			
		12回 スポーツ消費者とスポーツスポンサーシップ	今日、スポーツとそれを支援するスポンサーとのパートナーシップを通じて様々な価値が創造され、スポーツ界の発展に貢献している。ここではスポーツ組織、スポンサー、消費者の三者がどのように関わることでスポンサーシップが促進されるかについて学びを深める。
		13回 スポーツ消費者とウェルビーイング	人々はスポーツの消費を通じて日々の生活や人生を豊かにしている。授業ではスポーツ消費者行動とウェルビーイングの関係性について深く理解する。
		14回 まとめ	これまでの学習内容を振り返るとともに、現代社会におけるスポーツ消費者行動の位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配付する）。

【参考書】

仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング、ミネルヴァ書房、2,640円

【成績評価の方法と基準】

1. 前半の内容に関するレポート（関与、PCM、顧客満足、顧客ロイヤルティなど）：50点

2. 後半の内容に関するレポート（社会的ID、ブランド、社会効果、スポンサーシップなど）：50点

【レポートの評価基準】

5点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

4点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

3点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

2点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。

1点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

授業では各トピックについて身近な日本のスポーツの事例とともに説明します。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】

レポートの問いは授業の記憶が鮮明なうちに解答するようにしてください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This is an advanced course of sport consumer behavior at the master's level. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport consumers.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand the psychology and behavior of sport consumers including both sport participants and sport spectators.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on mid-term report (50%) and final report (50%).

MAN500I1 (経営学 / Management 500)

スポーツフィールドスタディー演習

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者のニーズや特性を理解するための市場調査を実際に行う。

【到達目標】

1. 量的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
2. 量的なアンケート調査を実施し、結果をまとめることができる。
3. 質的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
4. 質的なインタビュー調査を実施し、結果をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スポーツ組織は多様化するスポーツ消費者のニーズやライフスタイルに応じたサービスの提供を提供しなければならない。本授業はスポーツ消費者のニーズの理解において欠かすことのできない市場調査および解析の手法を学ぶとともに、実際の調査をとおして学習内容を実践経験へとつなげることが目的である。受講者はスポーツメーカー、プロスポーツチーム、フィットネスクラブなどのスポーツ消費者から収集したデータを解析し結果を報告することで、現場における課題の解決に資する証左の提示方法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツマネジメント 現場の課題	スポーツマネジメント現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのかを理解する。
2回	社会調査の種類	量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることのできる判断力を身に付ける。
3回	質問項目の作成	量的なアンケート調査において設定する必要のある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学び、自ら作成する。
4回	調査票の作成	調査票の説明および依頼文の作成に加え、回答者が答えやすい質問項目のデザインやレイアウトを学び、さらにアンケートにおける共通手法分散バイアスや疲労バイアスなどの制御方法についても学習する。
5回	標本抽出方法	社会調査における標本抽出方法について、確率抽出法と非確率抽出法の二種類から学びを深め、各自の調査に適したサンプリング方法を選択する。
6回	量的データの入力	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを、エクセルとSPSSを用いて学習する。
7回	量的データの記述統計	実際に収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
8回	心理的要因の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
9回	図表の作成	記述統計と心理的要因の分析結果を、エクセルによってグラフや表にまとめる。
10回	質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。

11回	質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
12回	質的データの分析の実施	テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化を実際に行う。併せて、収集した質的データの分析結果をエクセルの表やパワーポイントの図などでまとめる方法を学ぶ。
13回	プレゼンテーションの準備	収集した量的データと質的データの分析結果をパワーポイントスライドとしてまとめる。
14回目	プレゼンテーション	学期を通じて実施した量的研究と質的研究の結果を、パワーポイントを用いて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

Jリーグスタジアム観戦者調査（日本プロサッカーリーグ）
スポーツ白書（笹川スポーツ財団）

【成績評価の方法と基準】

課題1（調査票の作成）：25点

課題2（アンケート調査の実施および結果の分析）：25点

課題3（インタビュー調査の実施および結果の分析）：25点

課題4（調査レポート）：25点

【評価基準】課題1～4の評価基準は以下とする：

25点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでおり、導き出した解答も課題に対して的確に答えている。

20点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでいる。

15点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら課題に取り組んでいる。

10点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

5点：指定の形式に沿って書いている

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

Course outline

Students will conduct market research to understand the needs and characteristics of sports consumers.

Learning Objectives

Sports organizations must provide services according to the needs and lifestyles of diversifying sports consumers. The purpose of this class is to learn the market investigation and analysis method indispensable in understanding the needs of sports consumers and to connect learning contents to practical experience through actual investigation. Students will learn how to present evidence that will contribute to solving problems at the practical environment by analyzing data gathered from sports consumers such as sports makers, professional sports teams and fitness clubs and reporting the results.

Learning activities outside of classroom

As assignments outside of class, Students will be asked creating research questionnaires, drafting a survey plan, conducting the survey, and tabulating the results.

Assignment 1 (Creating a questionnaire): 25 points

Task 2 (Conducting a questionnaire survey and analyzing the results): 25 points

Assignment 3 (implementation of interview survey and analysis of results): 25 points

Assignment 4 (Survey report): 25 points

Grading Criteria /Policy

The evaluation criteria for tasks 1 to 4 are as follows:

25 points: In accordance with the designated format and based on the contents of the class, the keywords are used correctly, and the problem is tackled from a unique point of view, and the answers derived are also accurate answers to the problem.

20 points: Following the designated format, based on the content of the class, using keywords correctly, and working on the assignment from your own unique perspective.

15 points: In line with the designated format and based on the content of the class, students are working on assignments using keywords correctly.

10 points: Working on the assignment according to the designated format and based on the contents of the class.

5 points: Writing according to the specified format

MAN50011 (経営学 / Management 500)

スポーツマーケティングリサーチ演習

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究や実務においても重要となるデータマイニングやテキストマイニングといった定量的な情報の扱い方について理解を深めていく。

具体的にはマーケティング実行のプロセスの基礎的な情報である消費者の行動や特性を把握するための実践的な能力を身に付ける。

【到達目標】

マーケティングをおこなううえで、経営上の課題を発見し、解決するための方法(リサーチデザイン・分析および統計解析の手法)を理解していること、さらにはリサーチを自ら活用(実務者の立場からのインプリケーションを行うこと)する能力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義部分としてマーケティングリサーチの概要および統計的な分析の手法を学んだうえで、演習として我が国を代表するプロスポーツであるプロ野球やJリーグなどの実際のプロスポーツ興行に会場した観戦者を対象とした定量調査を実施し、調査の手法についての学習および得られたデータの解析をおこなうものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	マーケティングリサーチの概要	マーケティングリサーチの概要及びリサーチのプロセスについて解説する
2回	課題設定	スポーツビジネスにおける経営的な課題を考え、調査すべき課題について検討していく
3回	調査の種類	国内外の調査研究から調査の事例や、尺度について解説していく
4回	定量データの扱い方①	SPSSについて、基礎的な使用方法について解説する
5回	定量データの扱い方②	基礎集計(度数分布、記述統計、平均値、中央値)について学習する
6回	定量データの扱い方③	t検定および χ^2 検定、一元配置の分散分析について学習する
7回	定量データの扱い方④	二元配置の分散分析、重回帰分析について学習する
8回	定量データの扱い方⑤	探索的、確認的因子分析について学習する
9回	定量データの扱い方⑥	テキストデータの解析について学習する
10回	リサーチデザイン	調査項目の検討や妥当性について検討し、適切な調査を行うための準備を行う

11回	質問紙調査の作成	各自が設定した課題に対して仮説を設定した質問紙調査の作成および、データ入力後の準備(SPSSのシンタックスの作成等)を行う
12回	フィールドサーベイ	スタジアム等で調査を行う
13回	サマリーの作成	得られたデータを入力し、集計作業を行う
14回	調査報告書の作成	得られたデータからさらに、自らの課題を踏まえ、分析を行い、報告書をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSSについては与えられたデータセットから、分析および統計解析の手法について事前の学習と事後の復習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業にて課す課題報告(40%)、レポートおよび実査から得られたサマリー報告(60%)などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

実査スケジュールを早目に公開し、早めに調整を図っていく

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. (Learning objectives)The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. (Learning activities outside of classroom)Before each class, students are expected to read relevant book and articles. (Grading criteria)The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (40%), analysis / reports (60%).

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500)

スポーツ組織構造特論

得田 進介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩
配当年次：1～2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。

本講義では、組織の基礎知識を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）に学び、スポーツ組織が実際に行なっている組織運営の実務において最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】

- ・マネジメントについて明確に理解する。
- ・組織論の基礎知識を理解する。
- ・スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、ディスカッションや講義中に発表をしてもらいます。

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	授業の概要説明、授業評価方法の説明。 日本のスポーツ組織の構造を理解する。
2	スポーツ組織とは	スポーツ組織にはどのような組織があるのかを理解する。
3	スポーツ組織におけるリーダーシップとマネジメント	監督・GM・フロントの役割の違いを理解する。 スポーツ組織を動かすリーダー像について考察する。
4	スポーツ組織における人材マネジメント	コーチ、選手、スタッフの採用・育成・評価の仕組みを理解する。
5	プロスポーツクラブの経営戦略と収益モデル	収益源、スポンサーシップなどビジネスモデルを理解する。
6	スポーツ組織の実務	実際のプロスポーツチームおよび中央競技団体の事例を基に、組織の実務を理解する。
7	スポーツ組織の財務分析	クラブの公開情報から経営状態を分析して、クラブの健全性を理解する。

8	スポーツ組織におけるイノベーションとテクノロジー活用	データ分析、AI、ウェアラブルなど、「スポーツ×IT技術」を理解する。
9	スポーツイベントの組織運営	五輪・W杯など大規模イベントの運営の仕組みとその後の影響を知る。 スポーツとメディアの関係性、放映権ビジネスを学ぶ。
10	スポーツ組織のガバナンスとコンプライアンス	不祥事が起きる構造や、透明性をどう確保するか、実例を基に理解する。
11	スポーツ組織の危機管理とリスクマネジメント	不祥事などへの対応、クラブとしての体制づくりを考察する。
12	地域スポーツクラブとまちづくり	Jリーグの「ホームタウン制」とシャレンを理解する。 スタジアム・アリーナ開発とまちづくりについて考える。
13	スポーツ組織の社会的責任（CSR）とサステナビリティ	環境配慮、地域貢献、社会課題解決に向けた取り組みを理解する。
14	講義まとめ	今までの講義の総括を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連

する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「スポーツチーム経営の教科書」有限責任あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界や組織における課題と対応策について自らの意見を述べるか、インプットとアウトプットが適切にできているかで評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー、授業態度（発表やディスカッションの内容含む）：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公認会計士としてスポーツチームの組織運営や組織体制強化に実際に携わっている経験を踏まえて、組織で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
社会に存在している組織がどのような運営を行なっているのか、スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn basic knowledge of organizations from various perspectives (management organization theory, human resource management theory, business management theory, management strategy theory, etc.), with the aim of acquiring the minimum necessary professional skills in the actual organizational management practices of sports organizations.

【Learning Objectives】

- ・ To clearly understand management.
- ・ To understand the basic knowledge of organizational theory.
- ・ To understand the theory of effective management of sports organizations.

【Learning activities outside of classroom】

After attending the class, please review the content to see if you understand it.

After attending the class, please review the content by using the related articles and other materials. The standard review time for this class is about 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ運動学特論

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と、重力や地面反力などの外力との相互作用と捉えるバイオメカニクスのものの見方について、実験やデータ分析を通じて理解する。

【到達目標】

- ・計測法の原理・活用方法を習得する。
- ・身体運動の計測・分析計画を立てられるようになる。
- ・レポートの作成を通じて問題設定能力や文章作成能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

バイオメカニクスにおける主要なデータ取得機器である Motion Capture System の計測および分析法について実習形式で学んでいく。加えて、レポートの作成とそれに関するプレゼンテーションを行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バイオメカニクスの対象、方法、目的、意義について説明する。本講義内においてどのような動きのデータを取得するのかを決める。
第2回	並進運動の力学	並進の力と運動の関係について学び、簡単な計算を行う。
第3回	回転運動の力学	回転の力と回転運動の関係について学び、簡単な計算を行う。
第4回	Motion Capture Systemを用いた動きのデータの取得①	Motion Capture Systemの原理、計測・分析法を説明する。
第5回	Motion Capture Systemを用いた動きのデータの取得②	第1回で決めた動きのデータを取得する。
第6回	取得されたデータの処理	取得されたデータのラベリングと整理を行い解析できるような状態にする。
第7回	データ分析①	取得された動きのデータの分析例を説明する。
第8回	データ分析②	第7回の例以外の分析について考えてもらう。
第9回	分析結果の考察①	第7回の分析例に沿った結果の考察について説明する。
第10回	分析結果の考察②	第8回で行った分析結果に関する考察を行ってもらう。
第11回	レポートの作成①	本講義内で作成するレポートの概要について説明する。

第12回	レポートの作成②	自らで問いを設定し、その問いを検討するための実験方法、予想される結果と考察をまとめる。
第13回	レポートの報告①	レポートの内容をプレゼンテーション形跡で発表するための資料を作成する。
第14回	レポートの報告②	レポートを発表してもらい、全体でディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取得されたデータの処理や分析を授業時間外に行うことがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- ・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか編著、朝倉書店
- ・「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良、藤井範久、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 (50%)：発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ平常点に加算する。

② 発表内容 (50%)：要約の妥当性、論理的考察の有無の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

取得されたデータの分析、レポート作成・発表を行うためのパソコン（Word, Excel, Powerpoint）

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

To understand the biomechanical view of human movement as an interaction between muscular and internal forces acting within the body and external forces such as gravity and ground reaction forces through experiments and data analysis.

【Learning Objectives】

Objectives are to master the operation technique of biomechanical machines and to measure and analyze the movements.

【Learning outside of classroom】

Students may process and analyze the obtained data outside of the classroom.

【Grading Criteria/Policy】

Usual performance score (50%)

Content of presentation (50%)

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツバイオメカニクス特論

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツバイオメカニクスに関連した研究活動を行うために必要な分析手法の知識を獲得することを目的とする。

【到達目標】

- ・スポーツバイオメカニクスに関する分析方法を習得する。
- ・習得した分析手法をプログラムとして実装し、実データに適用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

バイオメカニクス分野における主要な分析手法についてプレゼンテーションを行ってもら。加えて、各分析手法をプログラミングにより実装し、その分析結果について報告してもら。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バイオメカニクスにおいて必要な分析手法の概要について説明する。
第2回	2次元キネマティクスの習得	位置-速度-加速度や角度-角速度-角加速度といった運動学的情報について学び、簡単な計算を行う。
第3回	2次元キネティクスの習得	並進や回転の力といった動力学的な情報について学び、簡単な計算を行う。
第4回	3次元キネマティクスの習得	3次元キネマティクス計算の基礎となる数学的手法について学ぶ。
第5回	3次元キネティクスの習得	3次元キネティクス計算の基礎となる数学的手法について学ぶ。
第6回	エナジェティクスの分析の習得	エネルギー・パワー・仕事の数学的手法について学ぶ。
第7回	マルチボディダイナミクスの基礎の習得	多体系の運動方程式の計算方法について学ぶ。
第8回	信号処理に関する分析手法の習得	周波数解析やデータの平滑化に関する手法を学ぶ。
第9回	運動制御の分野で用いられる分析手法の習得	UCM解析や筋シナジー解析に関する手法を学ぶ。
第10回	ダイナミカルシステムアプローチの基礎理解	身体運動におけるダイナミカルシステムアプローチの基本的な考え方について学ぶ。
第11回	2次元キネマティクス・キネティクスの実装	モーションキャプチャーシステムを用いたデータ取得を行い、取得したデータに基づいて、2次元キネマティクスおよびキネティクスの解析ならびにフィルタリング処理を実装する。

第12回	3次元キネマティクス・キネティクスの実装	モーションキャプチャーシステムを用いたデータ取得を行い、取得したデータに基づいて、3次元キネマティクスおよびキネティクスの解析ならびにフィルタリング処理を実装する。
第13回	エナジェティクスの分析の実装	モーションキャプチャーシステムを用いたデータ取得を行い、取得したデータに基づいてエネルギー・パワー・仕事を算出する。
第14回	信号処理に関する分析手法の実装	筋電図を用いたデータ取得を行い、フィルタリング処理および筋電図信号処理に関わる各種分析をプログラミングにより実装する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取得されたデータの処理や分析を授業時間外に行うことがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- ・「身体運動のバイオメカニクス研究法」D.Gordon E. Robertson(ほか、大修館書店)
- ・「バイオメカニクス 人体運動の力学と制御」David A. Winter、ラウンドフラット
- ・「マルチボディダイナミクスの基礎」田島洋、東京電機大学出版局

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点 (50%)：発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ平常点に加算する。
- ② 発表内容 (50%)：要約の妥当性、論理的考察の有無の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

取得されたデータの分析、レポート作成・発表を行うためのパソコン（Word, Excel, Powerpoint）

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

To understand the knowledge of analytical methods for conducting research related to sports biomechanics.

【Learning Objectives】

Objectives are to implement analytical techniques as programs and enable their application to real data.

【Learning outside of classroom】

Students may process and analyze the obtained data outside of the classroom.

【Grading Criteria/Policy】

Usual performance score (50%)

Content of presentation (50%)

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）

スポーツトレーニング学特論

NEMES ROLAND JANOS

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水5/Wed.5 | キャンパス：多摩
配当年次：1～2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

この授業では、スポーツにおける体力要素の向上を目指す基本的なトレーニング方法として、ストレングス・コンディショニングトレーニングを中心に学びます。さまざまなトレーニング方法が身体にどのような影響を及ぼし、どのような適応が起こるかについての理解を深めます。また、特定の目的や対象に応じた適切なトレーニングプログラムの作成方法も学びます。

体力要素のトレーニング方法の理解：ストレングス・コンディショニングを含む各種トレーニング方法について学び、その効果や適用方法について理解を深めます。

身体の諸適応と機序の理解：トレーニングによる身体の諸適応（筋力増強、持久力向上など）と、それらの生理的・生化学的機序について理解を深めます。

トレーニングプログラムの設計：対象者のニーズや目的に応じたトレーニングプログラムを作成するための基礎理論を学びます。様々なスポーツ現場における実践的なトレーニングプログラムの段階的な設計方法についても学びます。

目的

この授業を通じて、履修者はスポーツパフォーマンス向上のための科学的かつ実践的なトレーニング方法を理解し、実践する能力を獲得します。また、個々のアスリートやチームのニーズに合わせた効果的なトレーニングプログラムを設計・実施する能力を養成します。

【到達目標】

包括的なトレーニング理論と実践能力の習得

多様なトレーニング理論の理解：

筋力、パワー、全身持久力、スピード、協調性、柔軟性など、各種トレーニングの理論と方法について深い理解を得ます。

具体的なプログラミングスキル：

トレーニングの目的に応じた適切な目標設定と課題の特定を行う能力を習得します。

実践的なトレーニングプログラムの立案と実施に関する具体的なスキルを身に付けます。

目標と課題の設定能力：

トレーニングを推進するための目標と課題を明確に設定し、それに基づいた効果的なプログラムを計画します。

傷害評価と対応：

トレーニング中や競技中に起こりうる傷害に対する評価能力を習得します。

傷害の予防と回復に効果的な対応策を理解し、適用する能力を養います。

対象者評価と運動処方：

指導対象者の能力、ニーズ、制約などを総合的に評価し、それに基づいた適切な運動処方を行います。個々の対象者に合わせたカスタマイズされたトレーニングプログラムを作成し、実施します。

この授業を通して、履修者はトレーニング理論の理解を深め、具体的なトレーニングプログラムの立案と実施、傷害の評価と対応、対象者の評価と適切な運動処方に関する実践的なスキルを習得します。これにより、履修者はスポーツパフォーマンスの向上と傷害予防に寄与する資格あるトレーナーとして活躍できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業アプローチ：科学的根拠に基づく講義と実践的議論

原理・原則の理解：

運動処方・運動療法におけるトレーニングプログラムの立案と実施に関する基本的な原理・原則について講義を行います。トレーニングの効果を最大化し、傷害リスクを最小限に抑えるための方法論を学びます。

エクササイズの特徴と効果の分析：

さまざまなエクササイズの特徴と、それらが身体に及ぼす効果について詳細に学びます。エクササイズを科学的な視点から分析し、その適用と効果について深く理解します。

年代別トレーニングの注意点：

各年代（子供、青年、成人、高齢者）におけるトレーニングの注意点について学び、それぞれのニーズに合わせた運動処方の方法を理解します。

個人差の理解と対応：

トレーニングの効果に影響を与える個人差の要因（体質、健康状態、運動経験など）について学びます。個々の対象者に最適なトレーニングプログラムを設計し、適切な指導を行うためのスキルを習得します。

議論と事例研究：

講義で学んだ内容に基づき、具体的なケーススタディや事例を通じて議論を行います。

実際のスポーツ現場や臨床現場でのトレーニングプログラムの立案と実施について深く理解し、実践的な能力を養成します。

この授業を通じて、履修者はトレーニングプログラムの科学的な立案と実施に関する知識と実践的な議論能力を養い、個々の対象者に最適化された運動処方を提供できるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業概要、基礎的知識の確認、原理・原則
2回	コーチングとトレーニング	コーチング学、コーチング現場とトレーニング学の関係
3回	トレーニングの基礎	様々な能力、スキルについて学ぶ
4回	アスレチック的な能力の評価	測定方法や目的について学ぶ
5回	ジュニア世代におけるフィジカルトレーニング	トレーニングにおける年代別、競技レベル別考え方
6回	トレーニングモデルと漸増負荷性の原理	トレーニング負荷、様々な方法、順序について学ぶ
7回	トレーニングのための準備	一般と専門的体力トレーニングについて学ぶ
8回	効率的な運動運動のためのモーターパターン化	効率が良い運動パターンについて学ぶ
9回	コアトレーニングについて	コアとコアの安定化と強化について学ぶ
10回	トレーニングの基本期分け（ピリオダイゼーション）	ピリオダイゼーションにおける様々な考え方について学ぶ
11回	柔軟性	柔軟性の最適化について学ぶ
12回	球技のピリオダイゼーションにおける近代的な考え方	戦術的なピリオダイゼーション（タクティカル）とブロックピリオダイゼーションについて学ぶ
13回	技術・戦術トレーニング	トレーニングと技術や戦術の関係について学ぶ
14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学、生理学等基礎的知識の確認。海外の論文の翻訳・紹介。自身の経験から各種トレーニングを考察する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

トレーニングのための生理学的知識. 市村出版

競技力向上のトレーニング. 大修館書店

スポーツコーチング学. 西村書店

ストレンGSTレーニング&コンディショニング. ブックハウス・エイチディ

トレーニングの科学的基礎. ブックハウス・エイチディ

測定と評価 現場に活かすコンディショニングの科学. ブックハウス・エイチディ

High-Performance Training for Sports. Human Kinetics

【成績評価の方法と基準】

2回プレゼンテーション（1回25%）、試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course focuses on the fundamental methodologies of Strength and Conditioning (S&C) as the primary means to enhance physical performance components in sports. Students will explore how various training modalities impact the human body and the specific adaptations that occur as a result. Furthermore, the course covers the scientific design of training programs tailored to specific objectives and diverse populations.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to:

Demonstrate a comprehensive understanding of training theories, including strength, power, endurance, speed, coordination, and flexibility.

Design appropriate training programs based on the specific needs and goals of individual athletes or teams.

Set clear and measurable training goals and identify the tasks required to achieve them effectively.

Evaluate common sports-related injuries and apply appropriate preventive and rehabilitative strategies.

Conduct holistic assessments of trainees and prescribe individualized, evidence-based exercise programs accordingly.

Learning Activities Outside of Classroom:

Before and after each class meeting, students will be expected to review foundational knowledge in functional anatomy and exercise physiology, translate and summarize relevant foreign-language research papers, and reflect on personal training experiences in relation to course content. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations (x2, 25% each): 50% — Students present a self-selected training program or topic demonstrating understanding and application of course concepts.

Term-end Examination: 50% — Written exam covering all major topics addressed throughout the course.

A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）

発育発達学特論

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

乳幼児期から高齢期までのヒトの一生にわたる心身の変化について理解し、各時期における健康課題を明らかにすることで、その解決方法を探る。特に学童期から中・高生期においては、学校教育の中での保健体育科目を通じた運動実践や健康づくりについて追求する。また、中年期以降は加齢・老化と身体活動との関係をもとに、生活習慣病予防について議論する。

【到達目標】

- ・発育・発達、加齢に伴う身体変化について理解する。
- ・科学的根拠に基づいた健康教育や対策について検討できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人の誕生から成長、成熟、老化といったライフステージに沿って、その過程を概観し、生涯における心や身体、健康や体力の変化の現象を明らかにする。授業は、講義による基本的知識の共有した上で、受講者が準備した各回のテーマに沿った話題について受講者全体で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	用語の定義をして、発育期発達の区分を確認し、その評価方法を理解する。
2	発育発達の見方・とらえ方	身長や体重など、様々な発育曲線の読み方を学習し、早熟と晩熟、生活環境、運動能力などとの関係性を考察する。
3	発育曲線	発育発達や関連分野の論文等ではしばしば引用されるスキャモンの発育発達曲線が、どのように作られたかを理解し、その解釈を議論する。
4	発育期の肥満と痩せ	種々の身体組成測定法の原理を学んで、年代ごとの肥満と痩せの判定や骨格筋量の変化について理解する。
5	発育期の体力・運動能力	体力を定義し、発育期に身につけるべき体力と運動能力について理解する。
6	新体力テスト	世代ごとに定められた測定種目について、背景やねらい、特徴を理解し、
7	幼児の体力テスト	新体力テストの範疇外となる幼児期の体力テストについて、歴史の変遷を理解し、現在の状況を知る。

8	子供の体力の提言	現在の子供の体力の現状を知るとともに、文部科学省や厚生労働省、また日本学術会議などが発表している指針や提言を理解する。
9	発育期の体力の変遷	発育期の体力の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
10	発育期の生活習慣の変遷	発育期の生活習慣の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
11	発育期の健康状態の変遷	発育期の健康状態の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
12	発育期の健康関連指標との関係	発育期の健康関連指標を理解し、体力や身体活動量との関係を考察する。
13	発育期の身体活動量のガイドライン	国内外の発育期の身体活動のガイドラインについて理解する。
14	発育発達の関連話題	各自の研究テーマと関連付けた発育発達の話題を紹介し、互いに議論して、幅広い視野で発育発達を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。また、話題提供の担当となった回には、討論のテーマと必要時応じて資料を用意する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 80 %

課題レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

各受講者の研究テーマと関連を持たせるように、授業内容を工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire to be able to understand the physical and mental changes that occur throughout a person's life and clarify the health problems that arise at different times and search for solutions.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To understand growth, development, and physical changes associated with aging.

To be able to consider health education and measures based on scientific evidence.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 20%, in class contribution: 80%

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ教育学特論

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校体育を含むスポーツ教育の歴史・課題・展望について理解を深める。

【到達目標】

学校体育を含むスポーツ教育の基礎的知識を修得し、その知識を課題解決へ向けて応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を剔出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を剔出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育／地域スポーツの今日の課題と今後の展望について議論する。特に後半では受講生の参加による議論を促し、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	本授業のスケジュール、ねらい、概要、評価等について受講生に説明する。
2回	スポーツ・体育とは何か	スポーツと体育の概念について、これまでの日本での捉え方を含めて解説する。
3回	スポーツの歴史①	未開～古代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
4回	スポーツの歴史②	前近代～近代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
5回	スポーツの歴史③	日本の江戸期における武術教育について論じる。
6回	スポーツの歴史④	日本の明治期における体操・欧米スポーツの輸入と定着が学校体育にもたらした影響について論じる。
7回	嘉納治五郎とクーベルタン	近代オリンピックの主導者・クーベルタンのスポーツ教育思想を、日本体育界の牽引者・嘉納治五郎の体育思想と関連づけながら論じる。
8回	日本の体育とオリンピック	東京オリンピック（1964年および幻に終わった1940年）について、日本の体育／スポーツ教育への影響という観点から論じる。

9回	戦後日本の学校体育①	昭和の戦後における学校体育について、学習指導要領の変遷を中心に論じる。
10回	戦後日本の学校体育②	現代におけるスポーツのグローバル化を捉え、主に学校体育に与える影響について論じる。
11回	日本における体育授業の現状と課題①	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に学習内容・教材づくりの観点から論じる。
12回	日本における体育授業の現状と課題②	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に教授法の観点から論じる。
13回	日本における学校運動部活動の教育的意義および現状と課題	学校運動部活動の教育的意義について歴史的視点から講述し、さらに現状と問題点について地域スポーツのあり方と関連づけながら論じる。
14回	学校体育／スポーツ教育における道徳教育の可能性	マナー、フェアプレイ、アンチ・ドーピング、責任学習など、学校体育／スポーツ教育が有する道徳教育としての可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションおよびレポート作成のための講義内容の復習と、自己の意見を補足するための文献資料の調査等。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか（ミネルヴァ書房）、よくわかるスポーツ倫理学（ミネルヴァ書房）、運動部活動の戦後と現在（青弓社）、等。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション等の参加状況（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も少人数制の利点として、各種のトピックについて一歩深い議論を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

今日の学校体育／スポーツ教育は様々な課題や問題点を抱えているが、なぜそうなっているのか、改善するためには何が必要なのか、本授業でそれらを考える知力と見識を養いたい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is for students to consider why many subjects in Physical Education/Sports Education, and what is necessary to improve in these subjects.

[Learning Objectives] Acquire the basic knowledge of sports education including school physical education and be able to apply that knowledge to solve problems.

[Learning activities outside of classroom] Collect materials for discussion and reaction paper preparation.

[Grading Criteria /Policy] Participatory attitude (60%), understanding by reaction paper (40%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツメンタルトレーニング演習

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩
配当年次：1～2年次
備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、アスリートやスポーツチームのメンタルサポートに資する理論と方法について学びます。各授業では、アスリートやスポーツチームが抱える心理的諸問題に対する理解、ならびにその対処法となるスポーツメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングをはじめとするメンタルサポートの理論と方法に関するテーマに取り組みます。

【到達目標】

1. アスリートが抱える心理的諸問題の改善に資するメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング等）の理論と方法を習得する。
2. チームビルディングに資するメンタルサポートの理論と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業では、まずスポーツフィールドで実践される種々のメンタルサポートや心理アセスメントの理論と方法に関する国内外の動向について概説する。次に、1) スポーツメンタルトレーニングならびにスポーツカウンセリングの諸技法の学習、2) 心理アセスメントの体験的学習に取り組む。また受講生は、当該領域に関する国内外の文献を精読し、その内容を抄録にまとめたうえで発表し、全体で討議する。なお、授業で取り組むレポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概評説明、メンタルトレーニングの略史
2	アスリートの心技体	心を鍛えれば強くなるのか？
3	チームビルディング I	自他の理解を深めるグループワーク
4	チームビルディング II	グループワークを通して「他者からみた私」を知る
5	パーソナリティ	パフォーマンスとパーソナリティの関係について学ぶ
6	コミュニケーション能力	競技スポーツとコミュニケーション能力の関係について学ぶ
7	心理的競技能力	アスリートの心理的競技能力について学ぶ
8	リラクゼーション	不安、あがり、緊張に関する理論と対処法について学ぶ
9	物事のとらえ方	認知再構成法について学ぶ
10	動機付け	目標設定とモチベーションの関係について学ぶ
11	イメージ	イメージトレーニングの理論と方法について学ぶ

12	アスリートの支援者	ソーシャルサポートについて学ぶ
13	マインドフルネス	マインドフルネスに関する事例研究
14	総括	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。
3. スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましい。記録した内容が本授業の理解を深める手がかりとなります。
4. テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016
2. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
3. 内田 直「スポーツカウンセリング入門」講談社 2011

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参画状況が50%、リアクションペーパー、レポート等の提出物が50%の配分として総合評価します。
2. やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5. 研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄等について評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができるモバイル機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明等を実施するため初回授業から出席してください。初回授業から出欠を確認します。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業に変更される場合があるため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the fundamental theory and methods to contribute to psychological support of athletes and sport teams.

【Learning Objectives】

1. Learn the theory and method of mental support (sports mental training, sports counseling, etc.) that contributes to the improvement of athletes' psychological problems.
2. Learn the theory and methods of mental support that contribute to team building.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The specific details of our efforts are as follows.

1. Classes consist of presentations and discussions, so it is advisable to be in touch with the latest topics related to your research theme.
2. If you have any specified documents, please read them carefully in advance.
3. It is desirable to record daily what you feel / notice in sports scenes and daily life. The recorded content will be a clue to deepen your understanding of this class.
4. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

1. Participation status in class, reaction paper: 50%.
2. Submissions for various assignments: 50%.

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

チームビルディング演習

浅井 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、チームビルディングについて実践的に学んでいきます。自己分析やチームの分析を通じて、チーム内における自己の役割を知ること、スポーツでの事例を交え、企業や教育の場面において活用されているチームビルディングの理論を学び、個々のフィールドで実践することを目指します。

【到達目標】

まず、履修生が個々の持ち味を理解し、チームの状況を評価、分析できるようになることを目指します。さらに、授業内での実践を通じて、個々のフィールドにマッチしたチームビルディングのプロセスを実現できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

チームビルディングに関する知識を学び、学んだ手法を実践していきます。そこで得た気づきや学び（効果的な実践ポイントなど）を受講者間でシェア・ディスカッションします。その際、授業内で挙がったコメントを紹介したり、スポーツとは異なるフィールドにも注目することで学びを深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と計画を確認し、共有する。
第2回	チームビルディングの基礎	チームビルディングの基礎知識を学ぶ。 自己理解のための測定、分析を行う。
第3回	チームビルディングの理論①	チームビルディングの概念について学ぶ。
第4回	チームビルディングの理論②	チームビルディングについて事例を通して学ぶ。
第5回	チームビルディングワークの実践①	アイスブレイクなどについて学び、実践する。
第6回	チームビルディングワークの実践②	チームビルディングに関するグループワークを実践する
第7回	チームビルディングの評価①	チームビルディングの評価方法を学ぶ。
第8回	チームビルディングの評価②	チームビルディングの評価方法を学ぶ。
第9回	ファシリテーションの手法	ファシリテーションの手法について学び、実践する。
第10回	ワークショップのデザイン①	スポーツに関するテーマについて、現状を知り、課題を分析する。

第11回	ワークショップのデザイン②	第10回で提示された課題を解決するためのワークショップをデザインする。
第12回	ワークショップのデザイン③	第11回でデザインした内容についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。
第13回	ワークショップのデザイン④	スポーツチーム以外の組織を対象としたワークショップを企画し、実践する。そこで得た学びをディスカッションする。
第14回	チームビルディングの可能性	チームビルディングがもつ可能性についてディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習した内容を実践し、活用できるようになることを目指して、主体的に毎回の授業で提示される課題に取り組んでください。関連する論文や書籍なども用い、積極的に理解を深めていってください（1回の授業につき、4時間以上の準備・復習が求められます）。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要と希望に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を基準として、総合的に評価を行います。

①授業への参画状況（毎時の課題やグループワーク、意見交換、プレゼンテーションなど）：60%

②授業の到達目標に対応した学期末課題：40%

【学生の意見等からの気づき】

他学部開講の同様の授業において、学生間の意見交換の場や提出課題内容の紹介により、視野が広がり理解が深まる旨のフィードバックを多く受けています。

また、授業内でのグループワークや自己分析の実践により、個々の所属するチームや組織に戻った際に活用できる内容がある、との評価を受けていますので、参考にしたいと思います。

この授業でも、相互にコミュニケーションをとりながら進めていきたいと考えます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on learning the various knowledge of team building.

Through self-analysis and team analysis, students will learn about their own role within a team, and using examples from sports, learn team-building theories used in business and education, and then put them into practice in their own fields.

【Learning Objectives】

First, the course aims to help students understand each individual's strengths and be able to evaluate and analyze team situations.

Furthermore, through practical experience within the class, the course aims to enable students to implement team-building processes that are suited to their individual fields.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on participation behavior (60%), and the performance for term-end task (40%) in the class.

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）

アスレティックトレーニング特別演習

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける外傷・障害予防、運動機能評価に基づいた運動療法の実践方法について演習を通して学習する。アスレティックトレーニング、ストレングス&コンディショニングの背景となる国内外の研究論文の検討から、最新の研究成果や知見について理解する。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害に関する基本的な身体特性の評価方法、予防・機能改善のためのコンディショニング・リコンディショニングについて学び、実際の研究計画立案のための基礎となる知識を得るとともに自身の研究に関する洞察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は教員の発表によるディスカッションを行う。その後学生の発表を主体とした演習形式で行う。アスレティックトレーニング、ストレングス&コンディショニングに必要な解剖学的基礎知識（筋・腱・関節・神経等）の復習やスポーツ外傷・障害に対する評価、スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する文献（論文）精読と発表が中心である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	文献（論文）購読について、機能解剖学知識の確認
2回	スポーツ外傷・障害予防	緊急対応、安全管理体制、アライメント、関節可動域、筋力評価、スペシャルテスト
3回	アスレティックリハビリテーション	スポーツ外傷・障害評価、運動療法、リスク管理
4回	上肢の評価	手・前腕・肘・肩関節の評価／講義
5回	上肢の運動療法	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／講義
6回	文献講読：上肢①	手・前腕・肘・肩関節の評価／文献（論文）講読
7回	文献講読：上肢②	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／文献（論文）講読
8回	体幹の評価	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／講義
9回	体幹の運動療法	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／講義
10回	文献講読：体幹①	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／文献（論文）講読
11回	文献講読：体幹②	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／文献（論文）講読
12回	下肢の評価	足・膝・股関節の評価／講義
13回	下肢の運動療法	足・膝・股関節の運動療法／講義
14回	文献講読：下肢およびまとめ	足・膝・股関節の評価／文献（論文）講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学・生理学・運動器疾患の知識が必須である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

1. 臨床スポーツ医学編集委員会：スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第2版（文光堂）
2. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング（医歯薬出版）
3. 日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）1～6
4. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学（文光堂）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（30%）、プレゼンテーション・レポートの取り組み状況（70%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に基づいた議論を演習の中心に置いている。そのため議論が活発になり、双方向性の授業が展開できていると考えている。本年度もこの方法で続けていく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学生自身の発表の際には、PCとパワーポイント使用による発表が基本になる。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of the athletic training seminar is as follows, students study how to practice exercise therapy based on sports injury prevention and motor function evaluation. Students review domestic and international research papers and present the latest research results and findings.

【Learning objectives】 Students will learn about evaluation methods related to sports injuries, training and conditioning for prevention of sports injuries, as well as acquire knowledge that will serve as a basis for students to formulate their own research plans.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following, Class presentation: 70%, in class contribution: 30%.

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅰ

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントおよびジェンダー領域の研究として修士論文を完成させるために必要となる様々な概念や理論について学習するとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定し、自らの研究テーマを設定する。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(2) 各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究が明らかにできなかった課題を特定することができる。
(3) 学術的貢献を果たすため、研究の目的、重要性を示すことができる。
(4) 研究テーマにおける重要概念を正しく定義し、理論的な背景を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツマネジメントおよびジェンダー関連の重要概念、理論、事例などについて理解を深め、各自の研究テーマを決定するため、授業では様々な重要概念や理論について探究し、どのように自身の研究に応用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび修士論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、修士論文において求められる研究の内容、構成、意義について学ぶ。
2	研究計画の設定	研究遂行に関する講義、併せて再度論文の構成に関する講義を受け、1年を通して取り組む研究計画を立てる。
3	先行研究を調べる	スポーツマネジメント・ジェンダーに関して理解が深まるような研究テーマを設定するため、先行研究を調べ、読む。
4	先行研究をまとめる	スポーツマネジメント・ジェンダーに関して理解が深まるような研究テーマを設定するため、先行研究を調べ、読み、まとめる。
5	文献の整理	研究のテーマとなる先行研究の問題を特定するため、15本～20本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（概念化、測定方法、研究環境）をまとめる。
6	研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定する。
7	概念的枠組み 1	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
8	概念的枠組み 2	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
9	概念的枠組み 3	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
10	研究の目的	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、研究の目的を設定する。
11	研究の重要性	自身の研究の必要性・意義・従来の研究との差(独創性)について明確にする。
12	研究の新規性	自身の研究の新規性について明確にする。

13	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
14	方法: 研究環境および対象	研究環境を設定し、対象とする母集団と標本抽出方法を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、しっかりと事前に配布される論文を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。講義資料以外にも各自の興味のある研究テーマに関する論文を読み進めてください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

先行研究のレビュー、概念図の作成、先行研究の問題の特定、研究目的の設定、研究の重要性の特定、重要概念の定義の各項目を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Learning Objectives

Students will learn about the various concepts and theories necessary to complete a master's thesis in the field of sports management and gender. Furthermore, students will identify research issues that have not been clarified in previous research and set their own research themes.

The goals of this course are as follows:

1. Setting the research theme
2. Examination of previous research
3. Research objectives, importance, factor definitions
4. Defining important concepts in a research theme and explain the theoretical background,

Learning activities outside of classroom

For this class, please read the papers distributed well in advance, write down your questions and impressions, and prepare to participate in the exercises that are developed in a discussion format. Review previous research, create a conceptual diagram, identify problems in previous research, set research objectives, Identify the importance of research and comprehensively judge each item of the definition of important concepts.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive judgment will be made on assembling methodologies in line with research themes, research planning, drafting and drafting ethics application forms, etc.

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅰ

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成のため、研究とは何かということを学んでいく。具体的には課題の設定と、問題を解決するための能力や方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
初学者として、必要な知識や能力の獲得。
具体的には以下について修士論文作成に必要な水準の能力の獲得を目指す。
・研究倫理の問題
・研究の妥当性や信頼性の担保
・適切な課題の設定
・研究の価値(学術性・新規性)
・適切な分析方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は、研究者として必要な資質や能力を養うことを目的として進めていく。基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2回	スポーツマネジメント領域の捉え方①	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのかについて解説する
3回	スポーツマネジメント領域の捉え方②	スポーツマネジメントの独立性や新規性について理解を深める
4回	スポーツマネジメントの実践①	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか事例を用いながら解説する
5回	スポーツマネジメントの実践②	スポーツマネジメント研究における成果を現場にてどのように用いているのかについて解説する
6回	スポーツマネジメントに関する研究課題①	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて解説する
7回	スポーツマネジメントに関する研究課題②	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマ、特に近年の傾向について解説する
8回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る①	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する。
9回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る②	プロ・スポーツリーグやチームの定量的な情報を持ちて、経営的な課題や顧客の行動を検討する
10回	課題に対する解決方法の検討および提案①	課題に対する適切な分析方法（単純集計、クロス集計、t検定等）について検討する
11回	課題に対する解決方法の検討と提案②	課題に対する適切な分析方法（回帰分析、多変量解析等）について検討する
12回	要因とモデル	先行要因および結果要因を概念図と文章にて説明する
13回	問題の所在	社会的、学術的な観点から問題の所在について検討する
14回	研究の目的	何をどこまで明らかにするかみついで検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の抄読など予習を必要とする内容が多いため、事前に文献を読む事と、資料をあらかじめ用意しておくこと。。本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき、準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
研究テーマに関連する先行研究および文献

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(30%)および授業への関与状況(40%)、成果物の評価(30%)などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline (in English)】
(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅰ

島本 好平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の概要およびその作成に求められる水準を理解する。また研究遂行に必要な文献の収集・整理の仕方を学ぶとともに、先行研究において未だ解明されていない研究課題を明らかにし、自らの研究テーマおよび研究の目的を設定する。

【到達目標】

1. 修士論文の概要およびその作成に求められる水準を理解する。
2. 先行研究で解明されていない研究課題を導出し、研究のテーマ・目的を設定できる。
3. ライフスキル、スポーツ心理学に関する諸理論について学び、それらを説明できる。
4. 自らの研究に応用可能な理論や方法について理解する。
5. 1月下旬に開催される研究構想発表会への準備を整える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・修士論文の概要	本演習の進め方および修士論文の概要とその作成に求められる水準について学習する。
2	文献の収集と整理の仕方	国内外の文献の検索・収集の方法と整理の仕方について学習する。
3	文献のまとめ方	先行研究の内容や課題のまとめ方について学習する。
4	先行研究のレビュー	各自の興味のある先行研究を複数編読み、その内容と課題をまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。
5	国内の文献レビュー（ライフスキル）	ライフスキルに関する国内の先行研究を複数編読み、その内容と課題をまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。
6	国内の文献レビュー（スポーツ心理学）	スポーツ心理学に関する国内の先行研究を複数編読み、その内容と課題をまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。
7	海外の文献レビュー（ライフスキル）	ライフスキルに関する海外の先行研究を複数編読み、その内容と課題をまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。
8	海外の文献レビュー（スポーツ心理学）	スポーツ心理学に関する海外の先行研究を複数編読み、その内容と課題をまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。
9	研究課題の特定	先行研究から導出された研究課題を特定し、問題の所在を明確にする。
10	研究テーマと目的	研究テーマと目的を設定し、修士論文で何をどこまで明らかにするかを設定する。
11	リサーチクエスションの設定	研究目的を達成するためのリサーチクエスションを設定する。
12	研究の学術的、社会的意義の明確化	修士論文で期待される結果および効果をまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。
13	研究の理論的背景	修士論文の軸となるライフスキル、スポーツ心理学の理論について発表し、意見交換を行う。

14

研究目的の設定

修士論文の背景、目的等を抄録にまとめて発表し、それに対する意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要となる文献の読み込みや発表に向けた準備をすること。
 本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションへの取り組み状況：50%

研究への取り組み状況：50%

【学生の意見等からの気づき】

対面での研究指導を基本としますが、メール、オンライン等でのミーティングも取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、ワード・エクセル・パワーポイントのソフトを準備してください。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the outline of a master's thesis and the standards required for its preparation. In addition, students will learn how to collect and organize the literature necessary for conducting research, identify research issues that have not been clarified by previous research, and set their own research themes and objectives.

【Learning Objectives】

1.To understand the outline of a master's thesis and the standards required for its preparation.

2.To be able to derive research questions that have not been elucidated in previous research and to be able to set research themes and objectives.

3.To be able to learn about and explain various theories related to sport psychology.

4.To understand the theories and methods that can be applied to one's own research.

5. To prepare for the presentation of the research concept.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Since this class will consist of presentations and discussions, students are expected to read the latest literature in Japan and abroad outside of class and prepare an abstract summarizing the contents.

【Grading Criteria /Policy】

The overall evaluation will be based on abstracts, reports and other submissions (50%) and class participation, presentations, etc. (50%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅰ

高見 京太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
 ② 研究活動を行う上で必要な測定や調査などを遂行できる知識や技術を身につけるのに必要な学習を行う。

【到達目標】

① 研究構想発表会に向けて、研究目的・背景・先行研究・方法（予備実験／予備調査を含む）の整理を行い、口頭で説明できる。
 ② 国内外の研究動向を把握し、先行研究を精読して要約・評価し、修士論文に必要な論文構成の基礎を説明できる。
 ③ 具体的なリサーチエスチョンを設定し、研究課題を遂行するための問題の構造化、論理の構成、方法論上の論点を整理できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

質の高い修士論文を作成するために必要な知識とスキルを獲得することを目的とする。特に専門領域の研究を進める上で、研究の視座が狭まらないように、設定した研究テーマに関して、スポーツ健康学の様々な角度から複眼的な視点に基づき、研究に対する指導・助言を行う。着眼する問題や研究の背景を構造的に捉えるため、国内外における研究動向の把握や先行研究の精読を通じて、リサーチエスチョンを具体化し、予備実験・調査を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと年間計画の策定	修士論文作成までの到達目標を確認し、年間の作業計画（発表・提出物・マイルストーン）を作成する。
2	研究関心の棚卸しと研究テーマの焦点化	研究関心を言語化し、対象・アウトカム・方法の観点から研究テーマを絞り込む。
3	研究課題の背景整理と概念図の作成	背景・問題設定を整理し、概念枠組み（概念図／因果モデル）のたたき台を作る。
4	文献検索戦略の設計	データベース選定、検索語、包含・除外基準を決め、再現可能な検索手順を整える。
5	先行研究の精読とレーニング（目的と仮説の読み取り）	論文の目的・仮説・研究質問を抽出し、研究の狙いを短く要約する。
6	先行研究の批判的吟味（方法の妥当性）	研究デザイン、サンプル、測定、交絡、バイアスの観点から方法の強み・限界を整理する。
7	先行研究の整理（比較表と論点抽出）	複数論文を比較表にまとめ、結果の一致点・相違点と未解決の論点を抽出する。

8	研究質問の確定と仮説の明文化	リサーチエスチョンを一文で定義し、検証可能な仮説（主要・副次）に落とし込む。
9	研究デザインの選択と適合性検討	観察研究／介入研究などの選択肢を比較し、自身の研究目的に最適なデザインを決める。
10	測定計画の立案（変数定義と評価指標）	曝露・アウトカム・共変量を操作的に定義し、使用する尺度・機器・手順を具体化する。
11	解析計画の基礎設計（統計手法の当てはめ）	主要解析・感度解析の方針を決め、必要な統計手法と前提条件を整理する。
12	研究実施の準備（倫理・同意・安全管理）	対象者募集、説明文書、同意取得、リスク管理、個人情報保護の実施手順を確認する。
13	予備実験・予備調査の実施準備（運用設計）	手順書（SOP）作成、役割分担、機材・会場・スケジュールを確定し、実施に備える。
14	予備実験・予備調査の実施とデータ整理	予備実験・調査を実施し、データクリーニング方針と記録様式（データ辞書）を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、ならびに授業内の質疑・助言内容の振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参画状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This seminar helps students clarify their research topic and develop the basic skills needed for measurements and data collection.

[Learning Objectives]

By the end of this course, students will be able to:
 prepare for the research proposal presentation in September,
 review and summarize relevant domestic and international research trends,
 formulate a concrete research question and identify key methodological issues.

[Learning activities outside of classroom]

Students will search and read relevant literature in advance, prepare handouts/slides, and review feedback after each class. The standard time for preparation and review is 4 hours per class.

[Grading Criteria /Policy]

Grades will be based on research progress and submitted reports (50%), presentations (30%), and participation in class discussions (20%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅰ

永木 耕介

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② スポーツ教育学における研究テーマの設定

【到達目標】

- ① 9月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ② 修士論文作成へ向け、スポーツ教育学分野における研究テーマを設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員の専門であるスポーツ教育学分野において、受講者が研究テーマを設定するための指導を行う。まず、どのようなテーマに関心があるのかを把握し、そのテーマに即した領域の先行研究、文献資料、調査データ等の収集と整理の仕方について説明する。また、受講者がフィールドに入り、研究テーマの意義について確認するとともに、明らかになるであろう仮説を立てることを支援する。各々の段階で、演習内でプレゼンテーションを行い、他の受講生との意見交換を踏まえながら研究テーマを煮詰めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの発想	各自の興味関心のある研究テーマ、およびその理由を述べてもらい、演習内で意見交換を行う。
2回	研究テーマの発想	前回は踏まえ、研究テーマの意義について演習内で意見交換を行う。
3回	先行研究・文献資料の収集①	研究の意義が認められた各自のテーマについて、先行研究・文献資料の収集方法の概要について指導する。
4回	先行研究・文献資料の収集②	主にネット上での先行研究・文献資料の収集について指導する。
5回	先行研究・文献資料の収集③	主に図書館での先行研究・文献資料の収集について指導する。
6回	先行研究・文献資料の整理①	収集した先行研究・文献資料の整理の仕方（タグ付等）について指導する。
7回	先行研究・文献資料の整理②	収集した先行研究・文献資料の整理の仕方（カテゴライズ等）について指導する。
8回	先行研究・文献資料のプレゼンテーション	各自が研究テーマに関して整理した先行研究・文献資料の傾向やポイントを演習内で発表し、意見交換を行う。

9回	研究テーマの検討	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、研究テーマの意義、新しさ・独創性などの観点から見直すよう指導する。
10回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。
11回	フィールドワーク①	学校や地域スポーツの現場に入り、観察あるいは指導補助等を行って、研究テーマの意義を再確認するよう指導する。
12回	フィールドワーク②	フィールドワークを継続し、研究テーマに即して実際にどのようなことが明らかになるのかを予測するよう指導する。
13回	仮説の構成	フィールドワークで得た情報等をもとに、実際に明らかになると考えられる点から仮説を提示するよう指導する。
14回	研究テーマの確認と仮説のプレゼンテーション	研究テーマの確認とそこから明らかになると考えられる結果の仮説について、演習内で発表し、意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの構想・設定に際して、授業外においても先行研究・文献資料の収集・整理を進めること。また、授業外でもフィールドワークを積極的に行うこと。
 本授業の準備・復習時間は1回につき、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

教育実践学の構築（東京書籍）、レポート・論文の書き方（ナカニシヤ出版）、フィールドワークの技法（新曜社）

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も各種学会に出向き、学生のトレンドに対する気づきを深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

【Outline (in English)】

- ① Organize and clarify your research topic.
- ② Setting research themes in sports pedagogy.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅰ

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ②修士論文の概要を理解し、自分の研究テーマの基礎となる概念や理論について学びを深めるとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定する。

【到達目標】

1年次の秋学期に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。

1. 修士論文の概要および求められる水準について十分に理解する。
2. スポーツマネジメントに関する様々な理論について学習し、それらを説明できる。
3. 現場の課題に対して、学習した理論を根拠に解決策を提案することができる。
4. 自分の研究テーマにおいて、どの概念や理論を応用することができるのか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業の目的は二つある。一つ目は大学院において2年間に渡り受講する講義、演習、実習を通じて獲得する知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文の概要を理解することである。二つ目は、スポーツマネジメント領域の研究として修士論文を完成させるために必要となる様々な概念や理論について学習し、ゆくゆくは受講生の研究テーマにそれらの理論を応用できるようにするための基礎的理解を深める。授業では様々な重要概念や理論をどのように自身の研究に応用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2回	主な先行研究の報告	研究テーマに関して特に重要と思われる文献（3本程度）を読み、その結果を報告する。
3回	主な先行研究に関する議論	第2週で読んだ3つの論文の弱点を特定し、その改善方法について議論する。
4回	文献の整理	先行研究の問題を特定するため、15本～20本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（概念化、測定方法、研究環境）をまとめる。
5回	親学問の実証研究のレビュー	親学問の先行研究（実証研究）をレビューした結果を文章で説明する。

6回	SMの実証研究のレビュー	スポーツマネジメントの先行研究（実証研究）をレビューした結果を文章で説明する。
7回	概念的研究のレビュー	近年の概念的な研究をレビューした結果を文章で説明する。
8回	概念的アプローチ	自分の興味に最も適した概念的アプローチを特定する。
9回	研究の新規性	研究として新規性のある先行要因および結果要因を特定する。
10回	概念図の作成	自身の研究の基礎となる概念図のドラフトを作成する。
11回	要因間の関係性	先行要因および結果要因を文章で説明する。
12回	緒言	序論の緒言の書き方を学び、執筆する。
13回	問題の所在	先行研究の問題の所在を明らかにし、記述する。
14回	研究の目的	修士論文で何をどこまで明らかにするか（研究目的）を設定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。必要な資料を事前に読むとともに、疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】

各学生の研究トピックに関連する先行研究や学術図書。

【成績評価の方法と基準】

先行研究（親学問）のレビュー：20点

先行研究（スポーツマネジメント）のレビュー：20点

概念図の作成：20点

先行研究の問題の特定：20点

研究目的の設定：20点

合計：100点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができています。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿って、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a seminar of sport management research. Students will select appropriate topics for their own master's theses, review the literature on their topics and identify significant gaps in previous research.

(Learning objectives)

The goal of this seminar is to learn concepts and theories related to each student's research interest in the sport management field.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on reviewing the relevant literature (30%), developing a conceptual framework (20%), identifying gaps in previous research (10%), proposing the study purpose (10%), presenting the significance of the study (10%), and providing the definitions of key concepts (20%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅰ

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学の学術研究として修士論文を完成させるために必要となる理論について学習するとともに、自らの研究テーマを設定する。

【到達目標】

1. 修士1年生対象の研究構想発表会および修士論文の計画の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
2. スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学における修士論文作成に必要な基礎的な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、修士論文において求められる研究の内容、構成、意義について学ぶ。
第2回	計画の設定	修士課程入学時に提示した自己の研究課題と研究計画を見直し、1年を通して取り組む計画を立てる。
第3回	先行研究の読解①	研究課題に関連する先行研究を調べ、論文を正確に読み込む技法を習得する。
第4回	先行研究の読解②	複数の論文を関連づけながら、論文を読み込む技法を習得する。
第5回	先行研究の整理	研究のテーマとなる先行研究の問題を特定するため、これまでどのような取り組みがなされ、何が明らかにされてきたのかを整理する。
第6回	問いの設定	これらの成果にも関わらず、いまだ解決されていない点は何かを特定する。
第7回	研究テーマの意義の検討	解決されてこなかった点について、なぜこれまで解決されてこなかったのか、なぜ解決すべき問題なのかを検討する。
第8回	解決方法の検討	提示した解決すべき点について、どうすればそれを解決できると考えたのか、その根拠は何かを考える。

第9回	研究目的の設定	修士論文で扱うテーマに関する目的を設定する。
第10回	実験方法の習得	実験研究を行う場合、使用する機材に関してその使用方法を習得する。
第11回	研究デザイン案の構築	第9回で設定した研究目的について、その達成のために必要な研究デザイン案について検討する。
第12回	分析手法の理解	自らの研究課題について必要な分析項目を整理した上で、その分析手法を理解する。
第13回	プログラムの作成	理解した分析手法について、プログラムを作成する。
第14回	研究課題の確定	改めて背景から導出した研究目的に問題がないか、研究目的に対して合理的な研究デザイン案が組んでいるかを検討した上で、修士論文で扱う研究課題を前期までに確定させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要となる文献の読み込みや発表に向けた準備をすること。
 本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションへの取り組み状況：50%

研究への取り組み状況：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn about theories for developing a master's thesis research in sports biomechanics and training science and will also determine their research theme.

【Learning objectives】

Develop the basic knowledge required for the preparation of the master's thesis in sports biomechanics and training science
 【Learning activities outside of classroom】

Reading papers and preparing for the presentation.

The experiments to collect data may be conducted during the summer vacation after the completion of classes.

【Grading criteria/Policy】

Progress of the research (50 %)

Performance of the tasks in each class (50 %).

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅱ

伊藤 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の作成に必要な方法論を学習するとともに、自らの研究テーマに沿った方法論および研究構想を設定する。

【到達目標】
修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請を行うことを目標とする。
1. 修士論文の目的、リサーチクエスト、仮説を設定する。
2. 修士論文の研究の目的に応じて適切な標本抽出方法を選択する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar
【授業の進め方と方法】
各自の研究テーマを決定し、研究方法論について学習し、研究計画の立案をたてる。研究方法論（目的、リサーチクエスト、仮説、標本抽出方法）を設定し、倫理申請が行えるよう準備をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期にまとめた先行研究を改めて考察し、概念的枠組み、修士論文の目的とリサーチクエストを確認する。修士論文において求められる研究方法、論文構成について学ぶ。各自のテーマに沿った研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から考察する。
2	研究の重要性	研究で扱う要因についての定義づけを行い概念的枠組みを明確に説明する。
3	概念的枠組み 1	研究で扱う要因についての定義づけを行い概念的枠組みを明確に説明する。
4	理論的枠組み 2	自らの研究の遂行するため、仮説を設定する。
5	仮説の導出	自らの研究を進めるうえで用いる手法(質的、量的、混合型)について検討する。
6	方法：研究のデザイン	量的調査において設定する必要がある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学ぶ。
7	方法：調査項目	調査対象者の基本的属性、心理的要因を測定するための調査票を作成する。標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
8	方法：調査票の作成	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
9	方法：記述統計	対象者の基本的属性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
10	方法：推計統計	t検定と分散分析の内容と実施方法を学ぶ。
11	分析：基本的属性と行動的特性の集計	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
12	分析：t検定と分散分析	心理的要因の構成概念妥当性を検証するために必要な確認的因子分析の内容と実施方法について理解を深める。
13	分析：心理的特性の分析	
14	分析：心理的尺度の分析	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義時に出题される課題に取り組み、演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。講義資料以外にも各自の興味のある研究テーマに関する論文を読み進めてください。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】
研究のテーマに沿った方法論を組み立てること、研究計画立案、倫理申請書の考案、作成など総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
演習で身に付けた知識とスキルを実際に用いて倫理申請を行なってもらいます。

【Outline (in English)】
Students will learn about the various concepts and theories necessary to complete a master's thesis in the field of sports management. Furthermore, students will identify research issues that have not been clarified in previous research and set their own research themes. The goals of this course are as follows:
1. Setting the research theme
2. Examination of previous research
3. Research objectives, importance, factor definitions, hypothesis setting
4. Appropriately set the research method
Learning activities outside of classroom
For this class, please read the papers distributed well in advance, write down your questions and impressions, and prepare to participate in the exercises that are developed in a discussion format.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive judgment will be made on assembling methodologies in line with research themes, research planning, drafting and drafting ethics application forms, etc.

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメント研究にて用いられる概念や、課題について理解するとともに、
修士論文作成に資する研究方法や分析の手法などについて理解する。

【到達目標】
修士論文作成において、ベースとなる以下の事柄について理解し、設定しうる能力の獲得を目標とする
・研究の目的、方法を設定できる。
・合理的な根拠をもって仮説の設定ができる。
・正しい標本の抽出や測定尺度の設定ができる。
・適切な分析方法を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は、テーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。事前・事後学習の内容 各回の予習・復習には約90分～120分かかると想定されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ
2回	文献の整理	スポーツマネジメント研究における主なテーマや課題につて整理するため、15～20本程度の文献を検索し、それぞれについてまとめる
3回	先行研究のレビュー①	レビュー結果について報告する(概念化)
4回	先行研究のレビュー②	レビュー結果について報告する(測定方法)
5回	先行研究のレビュー③	レビュー結果について報告する(研究環境)
6回	研究の新規性・重要性	新規性のある要因の設定や要因間の関係について整理し、学術的・実践的重要性についてまとめる
7回	研究の目的・リサーチエスチョン	研究の目的とリサーチエスチョンを設定する。
8回	仮説の設定①	自らの論文にて設定する仮説導出部分について検討する
9回	仮説の設定②	設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
10回	研究の方法	自らの研究を進めるうえで用いる手法(質的、量的、混合型)について検討する
11回	研究方法の妥当性①	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
12回	研究方法の妥当性②	統計的な妥当性、信頼性だけでなく、内容的な妥当性や研究対象に対する尺度の設定や分析における妥当性についても検討する
13回	記述統計	実際のデータを用いて分析を行い、結果を記述する
14回	t検定・分散分析	さらに、収取したデータを用いて実際の分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題をまとめ、授業内で発表および議論できる状態にしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき、準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】
授業への関与状況(30%)、成果物の評価(40%)、提出物や議論の内容(30%)などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 II

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を作成する上で必要となる研究方法の枠組を整えらるとともに、量的・質的分析の理論と方法を学び、その運用能力を高める。また、修士論文の作成を適切に遂行するために必要な研究デザインを設定し、研究計画書を作成する。

【到達目標】

1. 量的・質的分析の理論と方法を理解し実践できる。
2. 修士論文の目的に応じた適切な調査対象者を選定できる。
3. 修士論文作成を適切に遂行するための枠組みを整えた研究計画書を作成できる。
4. 修士論文研究計画発表会の準備を整える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究目的を達成するために必要となる研究方法（調査対象、調査時期、調査内容、手続き、統計処理）を精査し、研究デザインを整えた上で研究計画書を作成する。各授業では、設定されたテーマについて意見交換を通して学びを深めるとともに、その成果を抄録等にまとめて提出し、指導教員による添削を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究倫理	本演習の進め方および修士論文の学術的背景、研究目的について確認する。また研究倫理について確認する。
2	目的とリサーチクエスション	研究の目的とリサーチクエスションを精査する。
3	調査対象者	修士論文で対象となる調査対象者を設定し、その抽出方法を決定する。
4	研究デザイン	研究目的を達成するための方法（調査時期、調査内容、手続き、統計処理等）を設定する。
5	データの整理	度数分布、平均値、標準偏差等を算出し、記述統計を用いたデータ分析と整理の仕方について学習する。
6	データの比較	t検定、分散分析等の理論と方法について学習する。
7	データの関係性	相関分析、重回帰分析等の理論と方法について学習する。
8	データの分類	因子分析の理論と方法について学習する。
9	複数回にわたる調査	予備調査と本調査、それぞれの役割とあり方について学習する。
10	web調査の実施	オンライン調査実施の際の注意事項等について学習する。

11	質的研究法	質的研究の理論と方法について学習する。
12	KJ法とGTA	質的分析法におけるKJ法とGTAの理論と方法について学習する。
13	研究計画書の作成	研究計画の立て方、書き方について学習する。
14	研究計画書の完成	研究計画について発表し、それに対する意見交換を行い、計画内容を精査した後、研究計画書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備をすること。
本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

適宜紹介します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションへの取り組み状況：50%

研究への取り組み状況：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course prepares students with the framework of research methods necessary to prepare a master's thesis, as well as to learn the theory and methods of statistical and qualitative analysis and to improve their operational skills. In addition, students will set up a research design and prepare a research proposal necessary to properly carry out the preparation of their master's thesis.

【Learning Objectives】

- 1.to understand and practice the theory and methods of statistical and qualitative analysis.
- 2.to be able to select appropriate research subjects according to the purpose of the master's thesis.
- 3.to be able to prepare a research plan with an appropriate framework for carrying out the thesis.
- 4.to prepare for the presentation of master's thesis research plan.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Since this class will consist of presentations and discussions, students are expected to read the latest literature in Japan and abroad outside of class time and prepare an abstract summarizing the contents.

【Grading Criteria /Policy】

The overall evaluation will be based on abstracts, reports and other submissions (50%) and class participation, presentations, etc. (50%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 II

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 自らの研究仮説が質の高い修士論文を作成するのに適切なものであるかを、過去・現在の研究論文から検証する。

【到達目標】

- ① 学生は、予備実験・予備調査の結果を整理し、研究課題の妥当性を検討したうえで、研究計画（概要を含む）としてまとめられる。
- ② 学生は、国内外の研究動向を踏まえて先行研究を批判的に検討し、問題の構造化と論理の構成を通じて、具体的な研究課題を設定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

予備実験・調査を基にして、より具体的に現実的な研究課題を定め、専門領域の研究を進めるのに必要となる、関連の深い研究論文をレビューして、「修士論文構想発表会」において構想を発表する。この発表会によって、自らの研究の着眼点を明確にし、計画的に研究を進めるために必要な研究計画書を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	予備実験・予備調査の結果共有	予備結果を要点で共有し、実施上の課題（欠測・手順・負担）を洗い出す。
2	研究課題の再定義（実現可能性の確認）	予備結果を踏まえて研究質問・仮説を調整し、実施可能性の観点から範囲を確定する。
3	最新研究のサーベイ（近年の潮流把握）	直近の主要論文・レビューを収集し、研究領域の最新動向と未解決点を整理する。
4	理論枠組みの精緻化（メカニズムの整理）	仮説を支える理論・メカニズムを整理し、概念図を改訂して説明可能性を高める。
5	測定・質問紙の改善（信頼性・妥当性）	測定手順や尺度を見直し、再現性・信頼性・妥当性の観点から改良案を作る。
6	サンプル設計（対象条件と募集計画）	対象者条件、必要サンプル、募集ルート、脱落対策を具体化し実施計画に反映する。
7	データ管理計画（匿名化と保管運用）	ID付与、匿名化、保管場所、アクセス権限、バックアップなどデータ管理手順を確定する。
8	解析計画の確定（モデルと検定の選択）	主要アウトカムごとのモデル、共変量、層別・交互作用、前提確認方法を定める。

9	研究計画書の骨子作成（章立てと論理構成）	背景→目的→方法→解析→倫理→期待される意義の流れで計画書の章立てを作る。
10	修士論文構想発表会の準備（スライド設計）	発表のストーリーラインを作り、図表・概念図・方法の見せ方を整える。
11	修士論文構想発表会（発表と質疑）	構想発表を行い、質疑応答で得た指摘を記録し、修正優先順位を整理する。
12	指摘事項の反映（計画書の改訂）	発表会での助言をもとに、目的・方法・解析・運用の不足点を補強して改訂する。
13	執筆計画の具体化（作業分解と日程化）	本文の執筆タスクを分解し、月単位の作業計画（収集・解析・執筆）を作成する。
14	次段階の研究実施準備（最終確認）	研究計画書・倫理・運用・測定手順・解析方針を最終点検し、次年度の実施に繋げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、ならびに授業内の質疑・助言内容の振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参画状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

1対1での指導のため、問題があったとしてもその都度、解決できる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This seminar strengthens students' research skills through developing a research plan and conducting pilot studies, including data collection and analysis.

[Learning Objectives]

By the end of this course, students will be able to:

start preparing the master's thesis summary and research plan for submission in April of the second year, set a concrete research question based on a review of research trends and a structured logical framework.

[Learning activities outside of classroom]

Students will search and read relevant literature in advance, prepare handouts/slides, and review feedback after each class. The standard time for preparation and review is 4 hours per class.

[Grading Criteria /Policy]

Grades will be based on research progress and submitted reports (50%), presentations (30%), and participation in class discussions (20%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 II

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究構想の作成、研究方法の枠組や分析手続きに関する力を総合的に高める。

【到達目標】

- ① 2年次4月に提出する修士論文の概要および研究計画書を作成する。
- ② 修士論文作成へ向け、研究仮説を実証するための方法を選択・決定し、さらに研究の全体計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツ健康学演習 I で構成した仮説を実証するための研究方法について指導する。学校体育あるいは地域スポーツのよりよいあり方を探る研究が主となるため、現場・フィールドにおける観察法、質問紙法、インタビューなど調査系の研究方法を中心に上げて解説・教授する。さらに、研究の全体計画を立案し、提示できるように指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	調査のルール、マナーについて	個人情報の保護等、調査に必要なルールやマナーについて説明する。
2回	研究方法の解説－統計分析法①	質問紙法において必要な単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等について解説する。
3回	研究方法の解説－統計分析法②	T検定、分散分析、多重比較等について解説する。
4回	研究方法の解説－統計分析法③	調査項目・内容の精選、因子分析等について解説する。
5回	研究方法の解説－内容・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説する。
6回	研究方法の解説－質的研究法	記録法等について解説する。
7回	研究方法の解説－観察法	観察法／インタビュー等について解説する。
8回	研究方法の選択	仮説実証のために必要な研究方法を選択するよう指導する。
9回	研究方法の作成①	質問項目・内容等、具体的な方法を作成するよう指導する。
10回	研究方法の作成②	作成した研究方法が実際の現場で適用できるかどうかについて、簡便なテスト調査を実施し、シミュレーションを行う。
11回	研究方法の作成③	シミュレーションの結果を分析し、方法の妥当性を検討するよう指導する。

12回	研究テーマ、目的、仮説、方法の整合性の検討	これまでの踏まえ、研究テーマ、目的、仮説、方法について演習内で発表し、それらの整合性について意見交換を行う。
13回	研究計画の立案	研究テーマ、目的、仮説、方法についてまとめるよう指導する。
14回	プレゼンテーションの準備	大学院2年次の4月（予定）に全体で行われる「修士論文計画発表会」へ向けた準備を行うよう指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究方法の選択・決定に際して、授業外においても関連する先行研究・文献の収集を進めること。また、授業外でもフィールドワークを積極的に行うこと。
 本授業の準備・復習時間は1回につき、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

よくわかる心理統計（ミネルヴァ書房）、実践心理データ解析（新曜社）、質的研究法による授業研究（北大路書房）、実証的教育研究の技法（大学教育出版）、等

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（60%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（10%）

【学生の意見等からの気づき】

論文作成のポイントや構想づくりについてさらに丁寧に指導したい。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

【Outline (in English)】

comprehensively improve skills related to research method frameworks and analytical procedures.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 II

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①研究の構想および計画を練ることで、データ収集や分析などの研究方法に関する力を総合的に高める。
 ②スポーツマネジメント領域の修士論文の作成に必要な研究方法論を十分に理解する。

【到達目標】

修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請、収集したデータの分析を実際に行うことのできる研究力を獲得する。

1. 修士論文の目的、リサーチクエスション、仮説を導出し、設定できる。
2. 修士論文の研究の種類と目的に応じて適切な標本抽出方法を選択できる。
3. 修士論文においてにおいて扱う尺度の種類と特徴を理解する。
4. 記述統計に加え、仮説検証に必要な推計統計（t検定、ANOVA、MANOVA、回帰分析）を用いてデータを分析できる。
5. 多変量解析の確認的因子分析と構造方程式モデリングを用いて、心理的尺度の構成概念妥当性を検証するとともに、仮説に基づいて要因間の関係性を分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学期の前半は修士論文の遂行において求められる目的、リサーチクエスション、仮説を適切に設定するとともに、研究目的を達成するために必要とされる研究方法論（尺度の作成、サンプリング、尺度の信頼性および妥当性の検証、仮説の検証）について学習し、倫理申請に対応できるようになる。学期の後半は統計分析に焦点を合わせ、課題に取り組みながら、基礎的な記述統計および推計統計に加え、発展的な多変量解析を学ぶ。演習では修士論文に関連する理論、方法、統計分析についてディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	本演習の目的および概要について理解する。併せて、春学期にレビューした先行研究を改めて考察し、その問題点を明らかにするとともに、修士論文の目的とリサーチクエスションを適切に設定する。
2回	研究の重要性	研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から説明する。
3回	概念的枠組み	修士論文で用いる全要因を定義し、概念規定を明確にする。
4回	仮説の導出：関係性の説明	要因間の関係性を支持する理論をいくつか用いることで、仮説の導出根拠を書き上げる。

5回	方法：研究のデザインとサンプリング	修士論文の目的を達成するための調査デザインを決定するとともに、調査における母集団とそれを代表する標本を設定し、そのための標本抽出方法を選択する。
6回	方法：調査項目	研究で用いる要因を測定するための尺度を設定する。
7回	信頼性分析	クロンバックの信頼性係数と項目合計相関を用いて心理的要因を測定する尺度の信頼性を検証するとともに、合成変数について理解する。
8回	t検定と分散分析	t検定と分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
9回	分散分析と交互作用	分散分析の交互作用効果とその検定方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
10回	多変量分散分析	多変量分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
11回	確認的因子分析の基礎	心理的要因の構成概念妥当性を検証するために必要な確認的因子分析の内容と実施方法について理解を深める。
12回	確認的因子分析による構成概念妥当性の検証	二次的データを用いて確認的因子分析を行い、心理的尺度の収束の妥当性と弁別的妥当性を検証する。
13回	構造方程式モデリングの基礎	複雑な関係性に関する仮説検証において有効な構造方程式モデリングの内容と実施方法について理解を深める。
14回	構造方程式モデリングによる関係性の分析	二次的データを用いて構造方程式モデリングの検証を行い、要因間の関係性を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題に取り組むとともに、そこでの疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】

各学生の研究トピックに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

理論に基づく仮説の設定：20点
 統計課題1（記述統計）：20点
 統計課題2（基礎的な推計統計）：20点
 統計課題3（確認的因子分析）：20点
 統計課題4（構造方程式モデリング）：20点

【仮説設定の評価基準】

20点：適切な理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

15点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

10点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

5点：理論を用いて現象を説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

【統計課題の評価基準】

20点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から合理的な説明を加えられている。

15点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から説明を行っている。

10点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行っている。

5点：授業の内容を踏まえて分析を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

演習で身に付けた知識とスキルを実際に用いて研究倫理の申請を行います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a seminar of sport management research. Students will learn research methods by developing their own research proposals.

(Learning objectives)

The goal of this seminar is to understand the methods necessary for completing each student's master's thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on developing research hypotheses (20%) and conducting the following statistical analyses: descriptive statistics (20%), basic inferential statistics (20%), confirmatory factor analysis (20%), and structural equation modeling (20%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 II

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

設定した研究テーマに必要な実験手法や分析方法の習得を通じて、具体的な研究計画を立案していく。

【到達目標】

1. 研究デザイン案について検討する。
2. データ分析に必要なプログラムを構築する。
3. 予備実験を複数回行うことを通じて、データ収集や分析能力を向上させる。
4. 2年次4月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかけられる準備を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究デザイン案の改善・更新	前期で検討した研究デザイン案を批判的に検討し、予備実験を行える状態にする。
第2回	1回目の予備実験の実施	第1回目で作成した研究デザイン案に基づいて予備実験を行う。
第3回	1回目の予備実験の追加実験	第2回の予備実験で上手くいかなかった場合、再度同様の予備実験を行う。余裕があれば、被験者を追加した予備実験を行う。
第4回	1回目の予備実験のデータ分析	分析のためのプログラムを構築する。
第5回	1回目の予備実験の考察	分析結果をまとめて考察を行う。
第6回	1回目の予備実験の結果報告	分析結果と結果の解釈を発表する。
第7回	2回目の予備実験の実施	1回目の予備実験の反省を踏まえた上で、実験プロトコルを修正したりする。また、1回目の予備実験と同様の結果が得られるかテストする。
第8回	2回目の予備実験の追加実験	第7回の予備実験で上手くいかなかった場合、再度同様の予備実験を行う。余裕があれば、被験者を追加した予備実験を行う。
第9回	2回目の予備実験のデータ分析	1回目の予備実験を踏まえて、分析デザインを修正したりプログラムを修正する。
第10回	2回目の予備実験の考察	分析結果をまとめて考察を行う。

第11回	2回目の予備実験の結果報告	分析結果と結果の解釈を発表する。
第12回	研究計画書の作成①	研究計画書の書き方について講義を行う
第13回	研究計画書の作成②	修士論文の研究計画書に記載する事項をまとめる。
第14回	研究計画書の作成③	修士論文の研究計画書を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分析のためのプログラムの構築や発表に向けた準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションへの取り組み状況：50%

研究への取り組み状況：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the experimental and analytical methods for their research theme and develop a research plan.

【Learning objectives】

Students will develop a program for data analysis and improve data collection and analysis methods. Furthermore, Students will prepare for the outline and research plan for the master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Establish a program for analysis and preparation for presentation.

The experiments to collect data may be conducted during the summer vacation after the completion of classes.

【Grading criteria/Policy】

Progress of the research (50 %)

Performance of the tasks in each class (50 %).

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅲ

安藤 正志

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses ｜ キャンパス：多摩

配当年次：2年次
備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② 各関節部位に発生する運動器疾患（スポーツ傷害を含む）について理解し、その部位の機能解剖の理解を深めると同時に対処方法を考案しながら修士論文のテーマを定め研究を実行する。

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 修士論文の計画を立て実行する。また同時に各関節に発生する（特に脊椎）主な運動器疾患を理解でき機能解剖について理解を深め触診ができ、既に修得された他の部位に関しては後輩に指導しながら理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義、実技および文献などを行います。調査と発表本授業の準備学習・復習時間は、2単位科目の場合1回につき4時間以上を標準とします。授業外では、配布資料や教科書の確認、関連文献の読解、課題・レポートの作成、前回授業の復習や次回授業の予習を行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	修士論文計画発表会	修士論文の計画を発表する
2回	腰部体幹1（調査方法の確認）	この部位に多発する主な疾患を調べる
3回	腰部体幹2（調査文献の解釈と報告）	この部位に多発する主な疾患を調べまとめたことを発表する
4回	腰部の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
5回	中下部頸椎1（調査方法の確認）	この部位に多発する主な疾患を調べる
6回	中下部頸椎2（調査文献の解釈と報告）	この部位に多発する主な疾患を調べまとめたことを発表する
7回	中下部頸椎の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
8回	上部頸椎1（調査方法の確認）	この部位に多発する主な疾患を調べる
9回	上部頸椎2（調査文献の解釈と報告）	この部位に多発する主な疾患を調べまとめたことを発表する
10回	上部頸椎の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
11回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
12回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査する
13回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
14回	まとめ	お互いの情報を交換し議論することで既知と未知の領域を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準学習時間の明示

2単位科目の場合：1回につき4時間以上を目安

1単位科目の場合：1回につき1時間以上を目安

具体的な学習内容

配布資料や教科書の確認

関連文献や論文の読解

課題・レポートの作成

前回授業の復習、次回授業の予習

学習の目的・成果

授業で学んだ知識や技術を定着させる

自身の研究テーマや課題に対する理解を深める

実験や分析、課題遂行の準備を行う

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱ ・ カバンディ機能解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなど ・ 関連した学術論文

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開校科目のため、該当なし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター・パソコンなどその都度指示

【その他の重要事項】

学術大会へ積極的に参加し科学者としての言動や振る舞いを学ぶ

【Outline (in English)】

Apply research skills to independently plan and execute experiments and analyses required for writing a master's thesis.

Explain and analyze locomotor disorders (including sports injuries) in each joint, demonstrate understanding of the functional anatomy, and conduct research for the master's thesis while proposing appropriate coping or intervention strategies.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究計画に基づき、修士論文作成に向けた具体的な調査を実践することによって研究遂行能力の向上を図る。授業では各自の進捗状況について討議し、数量的および質的分析の方法や結果の提示の仕方について学ぶ。

【到達目標】

1. 具体的な調査を実践可能な研究遂行能力を習得する。
2. 収集したデータを適切な手法を用いて分析できる。
3. 得られた結果について図表や文章を用いて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

修士論文研究計画発表会での指摘内容を踏まえて研究計画を修正し、修士論文の完成に向けた調査研究に取り組む。各授業では、収集したデータの分析結果などの進捗状況について指導教員や受講生と討議し、結果の解釈や提示の仕方について見直し、最終的に「方法」「結果」を文章化する。なお、授業で取り組む報告書等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究計画の見直し	本演習の進め方を理解するとともに、修士論文研究計画発表会での指摘内容を踏まえて研究計画を見直す。
2	調査方法の確認	修士論文作成に向けた具体的な調査方法（日程、期間、対象者等）について討議する。
3	研究計画の確定・調査開始	具体的な調査方法を明示した研究計画書を完成し、調査を開始する。
4	調査における課題の確認	調査の途中経過を報告し、修正等の必要性について討議する。
5	調査の進捗状況の確認	調査の進捗状況を報告し、収集したデータの偏り等について確認する。
6	分析方法の確認	調査の中間報告を行い、分析方法について確認する。
7	データの整理・分析	収集したデータを入力・分析し、結果および対象者の属性について報告する。必要に応じてデータの追加や分析方法の変更にについても討議する。
8	結果の提示方法	図表を用いた結果の提示方法について討議する。
9	質的データの整理・分析	研究目的に応じた質的分析の手法を用いて収集したデータを整理し、分析する。

10	質的データの提示方法	質的データの分析結果の具体的な提示方法について討議する。
11	研究結果の報告	データ分析の結果を発表し、その内容について討議する。
12	方法の執筆	修士論文における具体的な方法の示し方について学ぶ。
13	結果の執筆	修士論文における具体的な結果の示し方について学ぶ。
14	方法と結果のまとめ	調査の方法および結果を報告書にまとめて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、授業1回につき4時間以上が標準となります。本授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、授業外の時間において国内外の最新の文献を講読するとともに、収集したデータを入力・分析した内容を集約したレポートを作成してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014
2. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキークエスション サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013
3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価します。

1. 研究計画書、報告書等の提出物が80%、授業への参画状況、プレゼンテーション等が20%です。
2. やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5. 研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄等について評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、メール、オンラインでの指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

データの集約・分析、論文執筆に使用可能なノートパソコンなどを準備してください。

【その他の重要事項】

1. スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the research plan, students will improve the ability to perform research by conducting specific surveys for the preparation of a master's thesis. In the class, students discuss each student's progress and learn how to perform quantitative and qualitative analysis and present the results.

【Learning Objectives】

- 1.To acquire the ability to carry out research that can carry out specific research.
- 2.The collected data can be analyzed using appropriate methods.
- 3.Explain the obtained results using charts and sentences.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Since this class consists of presentations and discussions, please read the latest domestic and foreign literature outside the class and create a report that summarizes the contents of the input and analysis of the collected data.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

- 1.Submissions such as research plans and reports 80%
- 2.Participation status in class, presentation 20%

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文は「序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論」の7章立てで進める。この演習において、履修者は第4章の「方法」の手順に従ってデータを収集し、第5章の「結果」の分析を行う。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりである：

1. 調査票を確定させるとともに、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集することができる。
2. 収集したデータを入力するとともに、結果を適切な統計手法を用いて分析し、第5章の「結果」を原稿としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
第2回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第3回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第4回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第5回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第6回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1章）の研究目的や研究の意義が、方法（4章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第7回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
第8回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第9回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。

第10回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の分析	推計統計を用いて仮説を検証する。
第11回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第12回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の分析	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第13回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第14回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

調査計画の作成および対応する本文の執筆：20点

調査票の作成および本文の執筆：20点

データ収集および対応する本文の執筆：20点

記述統計および対応する本文の執筆：20点

尺度の信頼性および妥当性の検証と対応する本文の執筆：20点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

本演習では修士論文のデータ収集を完了する必要があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a seminar of sport management research. Students will complete their data collection and present the results of both descriptive and inferential statistics.

(Learning objectives)

The goal of this seminar is to successfully write the method and result sections of each student's master's thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to proceed with the method and result sections, depending on the data collection and analysis process.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on writing the sections of data collection (20%), survey items (20%), descriptive statistics (20%), measurement model (20%), and hypothesis testing.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に必要なデータを取得・分析し、結果の解釈を行った上で、図表や文章にまとめる。

【到達目標】

1. 修士論文の作成に必要なデータの収集・分析を行い、修士論文の「結果」を原稿としてまとめる。
2. 関連分野における学会発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

研究テーマに即した文献、分析結果およびその解釈を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の構成の確認	修士論文を章立てや構成を確認する。
第2回	研究目的と研究デザイン案の調整	研究目的と実験計画および分析内容が一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第3回	実験計画の策定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を決定し、実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第4回	予備実験の最終確認	第2～3回目で計画した案に基づいて予備実験を行う。
第5回	本実験に向けた準備	分析結果を確認した後に、本実験を実施できる状況にする。
第6回	本実験開始	被験者・検者とともに実験を開始し、データを取得する。
第7回	本実験実施	引き続き、本実験を行う。
第8回	データ集計	得られたデータを集計し、分析できる形にまで整理する。
第9回	データ分析	集計したデータを解析するとともに、分析結果をまとめる。
第10回	分析結果の考察	得られた分析結果に対して妥当な解釈を与えて、考察を深める。
第11回	研究背景の発表	研究背景について執筆方法の指導を受け、研究背景についてプレゼンテーションを行う。
第12回	研究背景の執筆	適切な論理的表現をするために必要な論理的文章の作成方法について学び、背景を完成させる。
第13回	研究方法の発表	研究方法について執筆方法の指導を受け、研究方法についてプレゼンテーションを行う。
第14回	研究方法の執筆	方法セクションの執筆を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予備実験や本実験および発表に向けた準備をすること。
 本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションへの取り組み状況：50%

研究への取り組み状況：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will collect and analyze data, interpret the results, and then summarize them in figures, tables, and text.

【Learning objectives】

Students will prepare a manuscript of the results section of their master's thesis and make a presentation at an academic conference.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation for preliminary and main experiments and presentations.

【Grading criteria/Policy】

Progress of the research (50 %)

Performance of the tasks in each class (50 %).

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅳ

安藤 正志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
- ② 修士論文を完成し発表する

【到達目標】

- ① 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ② 実験などから得たデータを処理し、修士論文を完成し、発表する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

実験などから得たデータを指導されながら処理する方法を学び、数回の校正を通して修士論文を完成し要約したものを発表する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	データ解析法	研究をまとめるための統計学を学ぶ
2回	修士論文の校正	現在完成している論文を個人指導
3回	発表用文章の校正	問題となっている点を明確にし個人指導を行う
4回	修士論文中間発表	中間発表会を行う
5回	論文修正（大項目）	大きな論文の流れを確認し、修正点があれば個人指導を行う
6回	論文修正（中項目）	それぞれの章ごとに問題点があるかを検討し、個人指導を行う
7回	論文修正（大項目修正）	論文の流れや大項目のチェックを行い、個人指導を行う
8回	論文修正（詳細修正）	論文の中項目、小項目をチェックし、完成度を高めるための個人指導を行う
9回	学会参加	関連学会への参加
10回	論文修正（指摘事項の確認）	他の指導者からの指摘事項を確認し、修正の必要があるかを検討し、個人指導を行う
11回	論文修正（1回目のチェック）	前回検討した箇所が修正できているかをチェックし、個人指導を行う
12回	論文修正（書式など提出様になっているかをチェックする）	提出様に修正されているかをチェックし、個人指導を行う
13回	論文提出	完成した修士論文を提出する
14回	学会用スライドと原稿作成	関連学会参加準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2単位科目では1回につき4時間以上、1単位科目では1回につき1時間以上を標準とします。授業外では、配布資料や教科書の確認、課題作成、データ整理・分析、復習・予習などを行い、授業内容の定着と理解の深化を図ります。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

関連した科学論文

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【学生が準備すべき機器他】

心電図モニター・呼気ガス分析装置の使用準備

【その他の重要事項】

関連学会で成果を発表する

【Outline (in English)】

- ① Improve the ability to document and disseminate the research necessary for writing a master's thesis.
- ② Complete and publish the master's thesis

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅳ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成において求められる総合的な研究遂行能力の向上を目指す。授業では、緒言、方法、結果、考察、結論、今後の課題、引用文献の提示方法や展開の仕方について討議しながら理解を深める。

【到達目標】

1. 得られた結果について科学的根拠に基づく考察ができる。
2. 結果と考察を踏まえた上で結論を述べることができる。
3. 研究の限界や今後の課題を指摘できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

修士論文の完成に向けて、緒言、目的、意義、方法、結果、考察、結論、今後の課題、引用文献の展開方法や提示の仕方について総合的に学ぶ。各授業では、受講者が研究の進捗状況について発表し、指導教員や受講生との討議を通して修士論文の内容を精査する。なお、授業で取り組むレポート等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究内容の確認	本演習の進め方を理解するとともに、スポーツ健康学演習Ⅲでまとめた方法と結果の内容について確認する。
2	考察の仕方	得られた結果について考察した内容を発表し、それについて討議する。
3	考察の展開	考察の展開の仕方について発表し、それについて討議する。
4	考察の執筆	考察の内容を文章化して発表し、それについて討議する。
5	結論の展開	得られた知見をまとめた結論を発表し、それについて討議する。
6	研究の意義・今後の課題	結果と考察に基づき、研究の意義と今後の課題について発表し、それについて討議する。
7	緒言の構成	これまでの内容を踏まえた上で、緒言の構成の仕方について発表し、それについて討議する。
8	緒言の展開	緒言の内容を発表し、それについて討議する。
9	緒言の執筆	前回の授業内容を踏まえて修正した緒言の内容を発表し、それについて確認した上で緒言を執筆する。
10	文献の書き方	先行研究が適切に引用されているかを確認するとともに、引用文献の書き方について学ぶ。

11	引用文献の執筆	文献の書式を確認した上で、引用文献について執筆する。
12	論文の構成・執筆	これまでの内容を集約した論文の構成を発表し、その内容について確認する。
13	論文の確認・校正	論文における主張が首尾一貫しているかについて確認し、必要に応じて修正する。
14	Abstractの作成・発表の準備	論文の Abstractを作成するとともに口頭発表の準備を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、授業1回につき4時間以上が標準となります。本授業は修士論文完成に向けたプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、授業外の時間において緒言、目的、意義、方法、結果、考察、結論、今後の課題、引用文献についてまとめ、発表できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014
2. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキークエスション サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013
3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価します。

1. 研究計画書、報告書等の提出物が80%、授業への参画状況、プレゼンテーション等が20%です。
2. やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5. 研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄等について評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、メール、オンラインでの指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

論文執筆に使用可能なノートパソコンなどを準備してください。

【その他の重要事項】

1. スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Aim to improve the comprehensive research performance required for master's thesis writing. In class, students will deepen their understanding while discussing introductions, methods, results, considerations, conclusions, future issues, how to present and develop citations.

【Learning Objectives】

- 1.Be able to consider the obtained results based on scientific evidence.
- 2.Be able to make conclusions based on the results and considerations.
- 3.Can point out the limits of research and future issues.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Since this class consists of presentations and discussions for the completion of the master's thesis, it will be possible to summarize and present the introduction, purpose, significance, method, results, discussions, conclusions, future issues, and citations outside the class.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

- 1.Submissions of reports 80%
- 2.Participation status in class, presentation 20%

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅳ

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究を実施した成果を発信する能力を身に付ける。
2. 各自の研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げる。

【到達目標】

履修者は本演習を通じて以下の目標に到達する：

1. 結果が意味する内容を踏まえ、考察部において学術的貢献、実践的提案、研究の限界、今後の展望などに関する説明を書き上げる。
2. 指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

大学院における講義、演習、実習などを通して得た知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第2回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第3回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第4回	考察（棄却された仮説）	仮説と一致しない結果や予期せぬ結果ついて、何故そのようなことになったのか慎重に考察する。
第5回	考察（コンテキストの考察）	コンテキストとサンプル特性を踏まえ、結果を考察する。
第6回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。

第7回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第8回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第9回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第10回	要旨	修士論文の要旨（英語を含む）を作成する。
第11回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の7章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第12回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
第13回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。
第14回	論文審査への対応方法（原稿の修正）	各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書。

【成績評価の方法と基準】

考察（学術的貢献）：20点

考察（実践的貢献）：20点

考察（研究の限界と今後の展望）：20点

結論（目的の達成度）：20点

全体を通しての完成度：20点

合計：100点

【評価基準】

それぞれの観点を以下の基準に従って評価する：

10点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。

8点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性がある。

6点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性がある。

4点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげている。

2点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

本演習では修士論文を完成し、提出します。初稿の完成は11月30日とし、12月1日から副指導教員による初稿の添削を受けてもらいます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a seminar of sport management research. Students will complete the discussion and conclusion sections and make adequate revisions based on the suggestions and comments provided by the advisor and co-advisor.

(Learning objectives)

The goal of this seminar is to successfully write the discussion and conclusion sections of each student's master's thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to proceed with the discussion and conclusion sections, depending on the understanding and critical analysis of the results.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on writing the theoretical implications (20%), managerial implications (20%), limitations and directions for future research (20%), and conclusion (20%) sections as well as the overall quality of the master's thesis (20%).

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅳ

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を完成させ、プレゼンテーションを行う。

【到達目標】

設定したテーマについて修士論文としてまとめ、完成した論文に関するプレゼンテーションを行う。また、主・副指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者それぞれの研究テーマあわせた支援を行う。適宜履修者がプレゼンテーションを行い、それに対して教員がフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究結果の発表	研究結果について執筆方法の指導を受け、研究結果についてプレゼンテーションを行う
第2回	研究結果の執筆	結果のセクションの執筆を完成させる。
第3回	考察内容の発表	考察内容について執筆方法の指導を受け、プレゼンテーションを行う。
第4回	考察の執筆	考察のセクションの執筆を完成させる。
第5回	結論の執筆	結論のセクションの執筆を完成させる。
第6回	論文の体裁の確認	この段階では、ひとまず書き上げた状態であることが予想されるために、論文として仕上がっていないことが多い。そのため、推敲を重ねることで仕上げていく。
第7回	論文の論理的な一貫性の確認	設定した問いに対して、実験方法、分析内容、考察に一貫性があるのかを確認する。パラグラフの過不足を確認する。
第8回	論文の最終確認	論理的飛躍が無い、適切な論理的表現が用いられているか、参考文献が適切に引用されているのかを確認する。
第9回	論文完成稿の提出	卒業論文を完成させて指導教員に提出し、提出した論文の査読・指導を受ける。
第10回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。

第11回	論文の査読内容の確認	論文の査読・指導内容を確認し、修正方法を検討する。
第12回	論文の完成原稿の修正	査読内容にしたがって、論文の修正を行う。
第13回	論文審査のプレゼンテーション資料作成	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。
第14回	最終発表会	修士論文の最終発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正すること。

本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度ならびにプレゼンテーション (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Complete and give a presentation of the master's thesis.

【Learning objectives】

The end of the course, students should acquire to write master's thesis. Revise the master's thesis according to the advice of the primary and secondary supervisors and others

【Learning activities outside of classroom】

Student should progress with the Master's thesis, confirming the logic of the thesis from the introduction to the conclusion and revising it as necessary.

【Grading criteria/Policy】

Quality of Master's thesis and presentation (100 %).

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）		
スポーツ健康学高度開発特論A（ヘルス領域）		
泉 重樹、越智 英輔、瀬戸 宏明		
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 単位数：2単位		
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses ｜ キャンパス：多摩		
配当年次：1～2年次		
備考（履修条件等）：		
その他属性：〈実〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
スポーツ健康学高度開発特論A（ヘルス系）では、医科学的なアプローチから、身体の構造と機能に基づく評価・処置、運動器リハビリテーションに関する専門的知識や技能を修得する。運動科学のアプローチからは、機能解剖学、運動生理学、運動指導について、健康科学のアプローチから、健康教育に関する専門的知識を修得する。以上により、生涯を通じての積極的な健康づくりを支援・指導できるようになるための専門的知識や技能を修得し、健康づくりの高度な促進を支援・指導できるようになることを目的とする。		
【到達目標】		
健康づくりの高度な促進を支援・指導するための知識と技能の修得		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
医科学的アプローチ（泉）から身体の構造と機能に基づく評価・処置、運動器リハビリテーションについて解説し、運動科学のアプローチ（泉、越智）から機能解剖学、運動生理学、運動指導について解説する。運動器学のアプローチ（瀬戸）から整形外科・スポーツ医学については解説する。なお、研究倫理教育として、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を1コマ分行う（担当：瀬戸）。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を行う（担当：瀬戸）。
第2回	機能解剖学、健康科学の研究分野と課題	機能解剖学、健康科学、運動器リハビリテーション分野の具体的研究を紹介しそれぞれの研究分野やあるいは重複する分野を紹介しながら整理する（担当：泉）。
第3回	姿勢とアライメントが運動器に及ぼす影響についての研究課題	正常な姿勢を理解し実際に修得し、これから逸脱した時のストレスがどこにかかるかなどを体験しながら考察していく。こうしたマルアライメントが運動器疾患に及ぼす影響についての研究を紹介し議論する（担当：泉）。
第4回	習慣的動作が運動器に及ぼす影響についての研究課題	日常生活動作に関わる正常な動作パターンを理解し、これから逸脱した時のストレスがどこにかかるかを体験しながら考察していく。正常から逸脱した動作パターンを繰り返すことで引き起こされる運動器の障害について研究論文を紹介し議論する（担当：泉）。
第5回	アスレティックトレーニング	日本のアスレティックトレーニングを北米のアスレティックトレーニングの歴史と現状を対比させながら紹介し超高齢社会の日本におけるヘルスケア専門職としての役割を議論する（担当：泉）。
第6回	スポーツ現場の安全管理	本邦のスポーツ時緊急対応計画の現状を米国のスポーツ現場の安全管理の最新状況と対比させながら紹介するとともにスポーツ現場の安全管理の実態に関して議論する（担当：泉）。
第7回	外傷・障害予防	アスレティックトレーナーを中心にスポーツ現場で行われる外傷・障害予防に関する研究を紹介しながらスポーツ傷害を「防ぐことが可能である必然的な事象」として向き合うための方策について議論する（担当：泉）。
第8回	コンディショニング・リコンディショニング	外傷・障害の受傷から競技復帰までの取り組みについて主に外傷・障害評価および運動器リハビリテーションの観点から研究を紹介しスポーツにおける多職種の役割と連携について議論する（担当：泉）。
第9回	身体運動科学、運動生理学的視点による運動科学①	運動生理学的視点から健康の維持・増進および疾病予防を理解する。関連する最新の知見からライフステージ別あるいは疾患別に解説およびディスカッションする（担当：越智）。
第10回	身体運動科学、運動生理学的視点による運動科学②	健康づくりを高度に促進するための運動・栄養摂取について理解を深める。特に運動に伴う骨格筋の損傷・肥大に関して、先端的知見をミクロ・マクロの視点から解説およびディスカッションする（担当：越智）。
第11回	身体運動科学、運動生理学的視点による運動科学③	健康づくりを高度に促進するための運動・栄養摂取について理解を深める。特に運動に伴う呼吸循環器系の応答・適応に関して、先端的知見をミクロ・マクロの視点から解説およびディスカッションする（担当：越智）。
第12回	運動器学の視点による健康科学①	生涯を通じての健康を妨げる要因、危険行動について現状把握と課題克服に向けての取組の在り方について論じる。（担当：瀬戸）
第13回	運動器学の視点による健康科学②	整形外科における運動の重要性と対応について論じる。（担当：瀬戸）
第14回	運動器学の視点による健康科学③	スポーツ現場における傷害予防について論じる。（担当：瀬戸）
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うので、専門的知識の予習・復習が必要となる。準備・復習時間は4時間以上が必要となる。		
【テキスト（教科書）】		
適宜、資料を配付する。		
【参考書】		
適宜、資料を配布する。		
【成績評価の方法と基準】		
授業での取組状況（参加態度による）（40点）、レポート60点（担当者：瀬戸、泉、越智が20点満点で評価）		
【学生の意見等からの気づき】		
記載不要		
【学生が準備すべき機器他】		
泉担当：特になし。越智担当：特になし。瀬戸担当：特になし。		
【その他の重要事項】		
各担当教員による授業の順番は進捗状況によって変更することがある。		
【Outline (in English)】		
【Learning Objectives】		
Students will acquire the knowledge, and skills to be able to support and lead on health promotion through one's life.		
【learning activities outside of classroom】		
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.		
【Grading Criteria/Policy】		
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports(60%),in class contribution(40%)		

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発特論B (マネジメント領域)

吉田 政幸、井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論B（マネジメント系）では、スポーツ組織のマネジメントに関する基礎的かつ専門的知識を修得することを目的とし、履修者はスポーツ組織の内部環境と外部環境のマネジメントについて学ぶ。スポーツ組織の内部環境のマネジメントについてはスポーツ組織論のアプローチから理解を深める。スポーツ組織の外部環境のマネジメントについては、スポーツマーケティング論のアプローチから学習する。

【到達目標】

高度なスポーツマネジメント能力の向上において不可欠な（1）スポーツ組織の内部環境のマネジメント（スポーツ組織論）と（2）外部環境のマネジメント（スポーツマーケティング）について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学期の前半では組織論、組織行動論、社会心理学などの知見をスポーツへと応用し、スポーツ組織の内部環境のマネジメントの構造、重要概念、理論について学習するとともに、履修者の興味のある事例にそれらをあてはめ、考察する。学期の後半ではマーケティング論、消費者行動論、社会心理学などの知見をスポーツへと応用し、スポーツ組織の外部環境のマネジメントの構造、重要概念、理論について学び、併せて履修者の興味のある事例にそれらを適応・調整することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める（担当：吉田）。
2回	組織行動論	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する（担当：吉田）。
3回	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める（担当：吉田）。

4回	組織の中の集団	組織の中の集団チームを理解する。コミュニケーションプロセス並びに異文化コミュニケーションについて理解する（担当：吉田）。
5回	動機付けの基本的なコンセプト	モチベーション理論（自己決定理論、期待理論など）を理解し、人のモチベーションのメカニズムを理解する（担当：吉田）。
6回	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する（担当：吉田）。
7回	組織変革と組織開発	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習し、組織開発におけるマネジメントについて学習する（担当：吉田）。
8回	スポーツビジネスと顧客満足	人々がスポーツに求めるニーズに応え、顧客満足を獲得することはスポーツ組織の重要なマーケティング目標である。今回はこのテーマについて、顧客満足理論と属性理論の視点から理解を深める（担当：井上）。
9回	スポーツ消費者態度	人々はスポーツイベント、選手、チーム、スタジアム、開催都市、スポンサーなどに対して好意的、あるいは非好意的な態度を形成する。そのメカニズムを態度理論と精緻化見込みモデルによって解明する（担当：井上）。
10回	スポーツ消費者の態度変容	人々は外部環境からの刺激や自己の心理状態を理由にスポーツ関連の対象（イベント、選手、チーム、スポンサー、テクノロジーなど）の評価を変容させる。この変容のプロセスを計画的行動理論とテクノロジー受容モデルの視点から学ぶ（担当：井上）。
11回	スポーツビジネスと社会的アイデンティティ	スポーツは人々のアイデンティティ形成と密接に関わっている。アイデンティティに基づいたスポーツマーケティングを理解するため、社会的アイデンティティ理論と組織的アイデンティティ理論と組織的アイデンティティ理論をスポーツへと応用する（担当：井上）。
12回	スポーツビジネスと心理的連続モデル	人々はスポーツ関連の対象との関係性を段階的に強めていく。このプロセスを理解するため、心理的連続モデルとスポーツ関与について学習する（担当：井上）。
13回	スポーツビジネスとブランド	スポーツブランドのイメージは付加価値を生み出す。この価値の構造と高め方について、ブランド価値モデルとブランドビルディング理論の視点から理解を深める（担当：井上）。
14回	まとめ	これまで学習した内容を振り返るとともに、現代社会におけるスポーツマネジメントの重要性と今後の展望について考察する（担当：井上）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うので、専門的知識の予習・復習が必要となる。また本授業の復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配付する。

【参考書】

適宜、資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

スポーツ組織の内部環境のマネジメントに関するレポート：50点

スポーツ組織の外部環境のマネジメントに関するレポート：50点

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業であり、少しでも疑問に感じたことは質問してください。丁寧に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、マイクロソフト・オフィス

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The goal of this course is to understand the management principles of sport organizations.

(Learning objectives)

In this course, students will learn both internal and external management theories which include organizational behavior and sport marketing.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. The standard review time for this class is four hours for each session.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on mid-term (50%) and final (50%) reports. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the management of sport organizations.

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発特論C (コーチング領域)

永木 耕介、中澤 史、林 容市、木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論C（コーチング領域）では、自然科学および心身科学的アプローチから、履修者が高度なスポーツパフォーマンスの発揮・向上に関する専門的知識を修得しつつ、選手・コーチやスポーツ組織の支援・指導について理解を深めることを目的とする。また、人文社会科学的アプローチから、履修者が生涯スポーツに結びつく学校体育や社会一般を含めたスポーツ教育としてのよりよい支援・指導について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

高度なスポーツパフォーマンス向上に対する支援・指導、および質の高いスポーツ教育の支援・指導について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

自然科学的アプローチ（木村：バイオメカニクス、林：体力学・体力測定評価学）からスポーツパフォーマンス向上のための体力や身体機能と構造・メカニズム、測定・評価方法等について解説し、さらに心身科学的アプローチ（中澤：スポーツ心理学）から人格形成に及ぼす効果やメンタルトレーニングの技術・方法について解説する。また、人文社会科学的アプローチ（永木：スポーツ教育学）から生涯スポーツ教育について解説する。なお、研究倫理教育として、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を1コマ分行う（担当：林）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を行う（担当：林）。
第2回	生涯スポーツ教育① -学校体育の目標の変遷-	日本の学校体育がどのような目標と内容によって行われてきたのかについて諸外国との比較を踏まえて解説し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第3回	生涯スポーツ教育② -学校運動部と学校外クラブについて-	日本のスポーツを支えてきた学校運動部および学校外クラブのこれまでと今後のあり方について講述し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。

第4回	生涯スポーツ教育③ -スポーツの教育的価値とは何か-	スポーツの教育的価値がどのように捉えられてきたかについて、日本と諸外国を対比させながら講述し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第5回	応用スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援	応用スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援の競技力向上効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第6回	臨床スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援	臨床スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援の競技力向上効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第7回	心理支援におけるアスリートの心理社会的スキル	人間関係の軋轢、進路、怪我などの心理的課題を訴えるアスリートへの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援がアスリートの心理社会的スキルの向上に及ぼす効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第8回	心理支援におけるアスリートの人格形成	人間関係の軋轢、進路、怪我などの心理的課題を訴えるアスリートへの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援がアスリートの人格形成に及ぼす効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第9回	体力学・測定評価学① -体力測定・評価で明らかになるものとは-	スポーツやトレーニング時の身体状態などを測定・評価する種々のテストについて解説し、国内外におけるテストの開発や評価法の変遷について理解を深める（担当：林）。
第10回	体力学・測定評価学② -体力測定・評価の信頼性・妥当性-	体力やパフォーマンスを測定する種々のテストの妥当性、評価の信頼性について解説し、テストで得られる結果と生理的要因などとの関連について理解を深める（担当：林）。
第11回	体力学・測定評価学③ -データを分析・評価する方法-	体力・パフォーマンステストで得られた結果を分析・評価する方法、さらに代表的な統計手法を解説し、適切な測定・評価を選択できる能力を身につける（担当：林）。
第12回	トレーニング科学における理論と実践	トレーニング科学とはどんな学問分野なのかを説明した後に、共有されている理論を紹介する。加えて、トレーニング科学の理論や知見がどのように活用されているのかを紹介する。
第13回	バイオメカニクスにおける理論と実践	バイオメカニクスとはどんな学問分野なのかを説明した後に、共有されている理論を紹介する。加えて、バイオメカニクスの理論や知見がどのように活用されているのかを紹介する。
第14回	トレーニング科学とバイオメカニクスの接点	トレーニング科学とバイオメカニクスの特性を踏まえた上で、両者を融合させた新たな研究のかたちについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うため、毎回の授業に対して専門的知識の予習・復習をそれぞれ2時間以上行うことを想定し、各授業を実施します。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配付します。

【参考書】

永木担当：『気概と行動の教育者-嘉納治五郎』（生誕150周年記念出版委員会編、筑波大学出版会、2011）、『中学校学習指導要領・保健体育編解説』（文部科学省、東山書房、2017）、『体育の人間形成論』（友添秀則、大修館書店、2009）、『よくわかるスポーツ倫理学』（友添秀則編著、ミネルヴァ書房、2017）

中澤担当：『スポーツメンタルトレーニング教本三訂版』（日本スポーツ心理学会（編）、大修館書店 2016）

【成績評価の方法と基準】

授業参加態度点（40点）、レポート60点（担当者：永木・木村・林・中澤が各15点満点で評価）

【学生の意見等からの気づき】

博士論文の作成に向けて参考になる情報や資料の提示を心がけた授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

永木担当：特になし。

木村担当：必要に応じて授業中に指示する。

林担当：必要に応じて授業中に指示する。

中澤担当：必要に応じて指示する。

【その他の重要事項】

各担当教員による授業の順番は進捗状況によって変更することがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to study students' acquired expertise on the demonstration and improvement of advanced sports performance through natural and psychosomatic science approaches and to deepen understanding of how to provide support and guidance to athletes, coaches, and sports organizations. In addition, students will deepen their understanding of providing better support and guidance in sports education related to school physical education and lifelong sports through the humanities and social science approach.

【Learning Objectives】

Promote a greater understanding of support and coaching for improved sports performance and quality sports education.

【Learning activities outside of classroom】

This course is taught in an omnibus format by the faculty members in charge of each specialty and requires 2 hours of preparation and review for each class of specialized knowledge of the faculty members.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the contents of class participation (not attendance) (40 %) and the evaluation of a report (60%).

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究 I

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手法を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第4回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第5回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。

第6回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第7回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ。ソフトウェア等）について指導を行う。
第8回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第9回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第10回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第11回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第12回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第13回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第14回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。
 準備にかかる時間は事前・事後も含め4時間以上は必要。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of research works at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの収集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における博士論文の構想立案を目指し、履修者の研究テーマに関連した国内外の最新の文献・資料・図書等を収集しレビューする。文献等の収集は、インターネットによる検索・情報収集に加え、学会や研究会等への参加を通じて行うよう指導する。各授業では、履修者が収集した文献や資料等の内容をまとめ、プレゼンテーションし、それについて意見交換することによって当該分野の先端的研究成果について理解を深める。これらの取り組みを通して研究テーマの明確化を図る。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・研究内容の振り返り	到達目標、単位認定の方法、履修上の注意等について説明する。これまでの研究内容の振り返りを行う。
第2回	研究の方向付け①	履修者が興味を持つ研究テーマの概要についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第3回	研究の方向付け②	履修者が興味を持つ研究テーマの意義・目的・研究デザイン等についてプレゼンテーションし、研究のオリジナリティや構想について意見交換を行う。
第4回	文献収集	国内の文献・資料・図書等の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、網羅的な資料収集の支援・指導を行う。
第5回	文献講読	履修者が収集した国内の文献・資料・図書等についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第6回	外国語の文献収集	外国語（英語）の文献・資料・図書等の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、網羅的な資料収集の支援・指導を行う。

第7回	外国語の文献講読	履修者が収集した外国語（英語）の文献・資料・図書等についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第8回	先行研究の吟味①	履修者が収集した国内外の先行研究等を取り上げ、それぞれの共通点と相違点についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第9回	先行研究の吟味②	履修者が数量的な立場から分析を施した先行研究を取り上げ、その研究内容についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第10回	先行研究の吟味③	履修者が質的な立場から分析を施した先行研究を取り上げ、その研究内容についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第11回	研究テーマの明確化①	先行研究等を整理し、これまで何が明らかにされており、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第12回	研究テーマの明確化②	先行研究等のレビューを踏まえ、履修者が立てた研究の仮説およびその仮説を検証するための方法等についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第13回	研究テーマの明確化③	履修者が想定する研究の意義、期待される結果等についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第14回	研究テーマの設定	これまでの作業を踏まえ、履修者が研究テーマについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を通して暫定的な研究テーマを設定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、授業1回につき4時間以上が標準となります。先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会HPならびに学会誌掲載論文を確認してください。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料等を配付します。

【参考書】

適宜、資料等を配付します。

【成績評価の方法と基準】

1. プレゼンテーションの関連資料、リアクションペーパー、レポート等が50%、プレゼンテーション、授業への参画状況が50%の配分として総合評価します。
2. やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5. 研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄等について評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

8.授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、メール、オンラインでの指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

PCおよび資料の作成や共有、課題の提出が可能なソフトウェアを準備してください。また、必要に応じて授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

授業計画は、研究遂行状況に応じて順番を入れ替える場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this program is to provide support and guidance on how to collect previous research and information data related to the research theme and how to organize and examine them, and to develop research concepts and plans, while enhancing basic research skills, such as thorough research ethics and the ability to read and write articles in English.

【Learning Objectives】

Develop a research concept and plan for the preparation of a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Work on collecting and organising previous research etc. and preparing your presentation. Check the websites of domestic and international sport psychology-related academic societies and articles published in academic journals. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Presentation-related materials, reaction papers, reports, etc., will account for 50% of the overall evaluation, while presentations and participation in class will account for the remaining 50%.

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究 I

永木 耕介

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

社会科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手技を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
2回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
3回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
4回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
5回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
6回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。

7回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴリズ、ソフトウェア等）について指導を行う。
8回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
9回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
10回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
11回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
12回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第13回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
14回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。準備・復習時間は1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline : Provide support and guidance on methods for collecting, organizing, and examining prior research and informational data related to research topics, while also enhancing fundamental research skills such as thorough adherence to research ethics and proficiency in reading and writing academic papers in English. Learning activities outside of classroom : This involves collecting and reviewing previous research, and preparing presentations in both Japanese and English. Preparation and review time should be at least 4 hours per session.

Grading Criteria /Policy : Data collection and analysis skills
(50%), presentation skills (50%)

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究 I

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの収集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手法を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第4回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第5回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。

第6回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第7回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ、ソフトウェア等）について指導を行う。
第8回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第9回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第10回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第11回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第12回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第13回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第14回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。
 各回の予習・復習の標準時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to provide support on how to collect previous research and data on the research theme and how to organize and examine them.

Learning Objectives: At the end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of the classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 II

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第4回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第5回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第8回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第9回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第10回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第11回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第12回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第13回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。
第14回	研究計画の確立②	作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習
準備にかかる時間は事前・事後も含め4時間以上は必要。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上もあわせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究の意義、目的、オリジナリティ、調査対象の選定、研究方法の選択、データ処理法等について意見交換と指導を行う。また、博士論文計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて研究計画を確立するよう指導する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	履修者が研究の意義・目的についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行い、リサーチクエッションの明確化を図る。
第2回	研究のオリジナリティ	関連分野の先行研究を踏まえ、履修者が研究のオリジナリティについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第3回	調査方法の選択①	履修者が質問紙法を主とした調査方法についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第4回	調査方法の選択②	履修者が介入法を主とした調査方法についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第5回	調査対象者・調査時期の選定	履修者が調査対象者および調査時期についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第6回	データの整理	履修者が、データ入力、図表の作成等のデータの整理の方法についてプレゼンテーションし、その演習を行う。

第7回	統計分析法①	履修者が質問紙法において必要な単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等についてプレゼンテーションし、その演習を行う。
第8回	統計分析法②	履修者がT検定、分散分析、多重比較等についてプレゼンテーションし、その演習を行う。
第9回	インタビュー法	履修者が、インタビュー法についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第10回	質的分析法①	履修者がGTA法、KJ法、SCAT、質的統合法等についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第11回	質的分析法②	履修者がナラティブアプローチについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第12回	調査方法と分析方法の整合性	履修者が調査方法と分析方法のマッチングについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第13回	研究計画の設定	履修者が設定した研究計画を精査する。
第14回	研究計画の発表	履修者が博士論文計画発表会を想定したプレゼンテーションを行い、その内容について吟味する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、授業1回につき4時間以上が標準となります。先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会HPならびに学会誌掲載論文を確認してください。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料等を配付します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

1. プレゼンテーションの関連資料、リアクションペーパー、レポート等が50%、プレゼンテーション、授業への参画状況が50%の配分として総合評価します。
2. やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5. 研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄等について評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、メール、オンラインでの指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

PCおよび資料の作成や共有、課題の提出が可能なソフトウェアを準備してください。また、必要に応じて授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

授業計画は、研究遂行状況に応じて順番を入れ替える場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The program will summarize the results of analysis and examination of previous research and information data, organize past domestic and international research results and issues related to the research theme, and provide support and guidance in establishing a research plan for the doctoral dissertation. The program also aims to improve students' presentation and logical explanation skills through the doctoral dissertation plan presentation in the second semester of the first year.

【Learning Objectives】

Establish a research plan with tentative objectives, methods, hypotheses, etc. for the doctoral dissertation, and improve presentation and logical explanation skills for smooth presentation at academic conferences, etc.

【Learning activities outside of classroom】

Work on collecting and organising previous research etc. and preparing your presentation. Check the websites of domestic and international sport psychology-related academic societies and articles published in academic journals. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Presentation-related materials, reaction papers, reports, etc., will account for 50% of the overall evaluation, while presentations and participation in class will account for the remaining 50%.

OTR700I1 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 II

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第4回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第5回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第8回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第9回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析、二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第10回	統計分析法③	確認的因子分析、共分散構造分析等について解説し、履修者が演習する。
第11回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第12回	調査と分析方法の整合性	定量的、定性的調査と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第13回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。
第14回	研究計画の確立②	作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習をおこなう。準備・復習時間は1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究 II

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

まず、春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第4回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第5回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第8回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第9回	統計分析法②	t検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第10回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第11回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第12回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第13回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。
第14回	研究計画の確立②	作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習。
各回の予習・復習の標準時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: The course aims to provide support in developing a research plan for a PhD thesis, summarising and organizing the results of previous research and data on the research topic. The course also aims to improve presentation and logical explanation skills on the occasion of the presentation of the doctoral thesis plan.

Learning Objectives: At the end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presenting a PhD thesis.

Learning activities outside of the classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on the research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR700I1（その他 / Others 700）		
スポーツ健康学高度開発研究III		
越智 英輔		
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位		
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses ｜ キャンパス：多摩		
配当年次：2年次		
備考（履修条件等）：		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
博士論文を進めるために、研究目的に応じた研究方法の検討を進める。具体的な実験・調査等の準備を整えた上で、計画を実行していくための基礎を学ぶ。		
【到達目標】		
研究テーマにもとづいた実験を実施し、具体的なデータを収集して分析を行う。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
運動生理学分野の研究分野における博士論文の完成に向けて、具体的な実験や調査の内容を確定し、予備実験の結果等を踏まえて研究の方向性を確定させる。加えて、投稿論文の作成・投稿に向けた準備も進める。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第2回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な実験・調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化に向けて指導を受ける。
第3回	予備実験・調査①	未実施の課題について予備実験・調査を行い、その進捗をプレゼンテーションして履修者間で論議し、研究方法を再検討する。
第4回	予備実験・調査②	前回に引き続き未実施課題の予備実験・調査の進捗および結果をプレゼンテーションし、研究方法確定に向けて履修者間で論議し、指導を受ける。
第5回	予備実験・調査③	未実施課題の予備実験・調査の結果を受けて研究方法を確定させる。また、得られた結果を踏まえて、博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第6回	研究の実践①	博士論文全体の構成を整理し、全体的な方向性、期待される結果等をプレゼンテーションして指導を受ける。また、博士論文を構成する各研究課題については実験・調査を進め、随時授業内で報告して指導を受ける。
第7回	研究の実践②	博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、随時授業内で結果を報告して指導を受ける。
第8回	研究の実践③	前回と同様、博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、授業内で結果を報告して指導を受ける。
第9回	論文投稿に向けた準備	研究課題遂行後の学術誌への論文投稿に向けて、確認事項や手続き等の指導を受ける。また、論文内容について、査読者の視点に基づくチェック事項について指導を受ける。
第10回	論文投稿後の手続き	論文を学術誌に投稿した後の手続きや査読者からのコメントへの返答について、実例を確認しながら指導を受ける。
第11回	投稿論文原稿の執筆①	実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「方法」部分のアウトラインを作成して授業内で報告し、履修者間で内容の確認や論議を行う。また、実験・調査を行った結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第12回	投稿論文原稿の執筆②	実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「結果」部分のアウトラインを作成して報告し、内容やまとめ方について指導を受ける。
第13回	投稿論文原稿の執筆③	学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「考察」部分のアウトラインを授業内で報告し、履修者間で論議し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第14回	博士論文の構成の確定	学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「緒言」部分のアウトラインを授業内で報告し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
受講生は、各授業時に指示される課題に取り組み、博士論文を構成する実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間は4時間とします。		
【テキスト（教科書）】		
特になし。必要に応じて資料を配布します。		
【参考書】		
特になし。必要に応じて授業内で紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
本授業の成績は、研究方法に対する理解度（50 %）、投稿論文の執筆内容（50 %）によって評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
受講者の活動に対して適宜フィードバックを行う。		
【学生が準備すべき機器他】		
必要に応じて授業中に指示します。		
【その他の重要事項】		
進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。		
【Outline (in English)】		
【Course outline】		

The students learn how to develop the research methods according to the research objectives and preparations for specific experiments.

【Learning Objectives】

Planning the experiments based on the research project.

【Learning activities outside of classroom】

Students conduct experiments to connect their doctoral dissertations. The standard time for preparation and review for each class is 4 hours.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on comprehension of research methods (50 %) and writing content of submitted papers (50 %).

OTR700I1（その他 / Others 700）		
スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ		
越智 英輔		
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 単位数：2単位 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses ｜ キャンパス：多摩 配当年次：2年次 備考（履修条件等）： その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 博士論文を進めるために、実験・文献等による情報収集をさらに進め、それらの整理・分析法を学ぶ。また、2年次に設定される博士論文中間発表会に向けたプレゼンテーションスキルも学ぶ。		
【到達目標】 本調査を実施して結果を収集・分析し、考察を与えて学会誌への投稿準備を進める。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 運動生理学分野の博士論文執筆に向けて、進行中の実験・調査等の進展を支援し、得られたデータの整理、先行研究との比較・検討を踏まえた分析・解析に向けて指導を行う。また、学会誌への論文掲載に要する期間なども踏まえて、博士論文執筆および学位取得に向けたスケジュールを確定させる。さらに、2年次後期に設定されている博士論文中間発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	本調査の実施	現在進行している研究内容を踏まえて博士論文全体としての進捗を報告し、博士論文に含める課題や研究方法の確認・修正を行う。
第2回	現状の確認と今後の課題設定	進行中の研究における結果を報告し、博士論文全体における位置づけや、今後の課題遂行についてプレゼンテーションを行う。また、学位取得のために必要な学術論文の学会誌への掲載に要する期間を踏まえて、研究スケジュールについて指導を受ける。
第3回	学会発表等の準備①	学会発表の準備として、学会へのエントリー方法や抄録の種類（構造化抄録等）とその作成における注意点について指導を受ける。
第4回	学会発表等の準備②	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、研究テーマ・目的・仮説・方法・結果のまとめ方について指導を受ける。
第5回	学会発表等の準備③	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、実際の発表を想定した研究内容のプレゼンテーションを行い、それに対して履修者間で意見交換をし、指導を受ける。
第6回	外国語（英語）によるプレゼンテーション	国際学会の口頭発表を想定し、前回と同一の発表内容を英語でプレゼンテーションし、それに対する指導を受ける。
第7回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、以後の展開について指導を受ける。
第8回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況に合わせて先行研究を再度レビューし、結果の解釈について履修者間で議論する。
第9回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の検討内容を踏まえて結果を再度吟味・解釈した上でプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
第10回	研究結果の解釈と展開④	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、今後の展開について指導を受ける。また、得られた結果の状況によっては研究方法を再検討し、博士論文で取り組む課題を確認する。
第11回	博士論文の執筆に向けた研究の推進①	博士論文の執筆および学位取得の条件を満たすことを目的にさらなる投稿論文の作成を計画し、候補となる研究テーマをプレゼンテーションし、履修者間で議論を行う。
第12回	博士論文の執筆に向けた研究の推進②	前回計画した投稿論文について、これまで学んだ内容を踏まえてリサーチプロポーザルを作成してプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、投稿中の論文についての査読過程の進捗も報告する。
第13回	博士論文の執筆に向けた研究の推進③	前回報告したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査の準備を行い、指導を受ける。
第14回	博士論文の執筆に向けた研究の推進④	本授業で作成したサーチプロポーザルに従い、実験・調査を開始し、進捗を報告する。それに対し、長期休暇中の研究活動の方向性について指導を受ける。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間は4時間とします。		
【テキスト（教科書）】 特になし。必要に応じて資料を配布します。		
【参考書】 特になし。必要に応じて資料を配布します。		
【成績評価の方法と基準】 本授業の成績は、研究の計画的な進展（50 %）、毎回の授業における課題の遂行状況（50 %）によって評価します。		
【学生の意見等からの気づき】 受講者とのコミュニケーションが十分に図れるように授業を進める。		
【学生が準備すべき機器他】 必要に応じて授業中に指示します。		

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students obtain the data through experiments and references. In addition, they will learn the presentation skills for the doctoral dissertation interim presentation.

【Learning Objectives】

In this class, students will analyze data for submission to an academic journal.

【Learning activities outside of classroom】

Students will engage in tasks assigned in each class and conduct experiments and investigations to constitute their doctoral dissertations. The standard time for preparation and review for each class is 4 hours.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on the progress of research (50 %) performance of assignments in each class (50 %).

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

島本 好平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を受けた上で、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文の全体を通じた構成を完成させ、含まれる研究課題の解決を通じて投稿論文の掲載と博士論文の完成に向けて研究を推進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析を実施し、研究課題に対しての位置づけ、全体を通じた一貫性のある論理展開などについて確認しながら指導を行う。また、博士課程の在籍期間を踏まえて博士論文や学位の取得条件（投稿論文）を達成できるよう指導・助言を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
対面	研究活動の実践と確認①	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
対面	国際学会での発表準備①	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
対面	国際学会での発表準備②	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
対面	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。

研究結果の解釈と展開①

研究結果の解釈と展開②

研究結果の解釈と展開③

論文作成における留意点①

論文作成における留意点②

博士論文の執筆に向けた状況確認

博士論文の執筆に向けた研究計画の作成①

博士論文の執筆に向けた研究計画の作成②

研究の限界および今後の課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。

また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50 %）、課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。

進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。

進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。

アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。

投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がり、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。

これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されうるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断する場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。

これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。

博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。

博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究の成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお，進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students will analyze and analyze the experiments and surveys they have conducted to complete their doctoral dissertations, confirm the position of the results in the research project, and check whether they are developed in a coherent, logical way manner. The Course also aims to improve graduate students' presentation skills at academic conferences and their ability to write papers.

【Learning Objectives】

Complete the overall structure of the doctoral dissertation. In addition, by solving the problems of the research project, the graduate students will aim for publication of the submitted papers and completion of the doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the issues to compose their doctoral dissertations as instructed in each class. In addition, graduate students will prepare materials and English presentations related to writing the dissertation and presenting at academic conferences and other tasks as instructed in each class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the acquisition of basic skills for presentation at international conferences (50 %) and the ability to develop a research plan (doctoral dissertation) that can solve the problem (50 %).

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

永木 耕介

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計的分析によってさらにデータの検討を進め、十分なデータの質および量を確保するよう指示する。また、データの検討に必要な考察の方法について指導・助言を行い、学会発表によるプレゼンテーション力の向上も促す。

【到達目標】

博士論文の主要な内容としての論文を作成して学会誌へ投稿すること。また、学会発表を行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツマネジメント研究分野のスポーツマーケティングに関して新たなデータ収集を行い、博士論文としてデータの十分な質および量が得られているか、そしてデータの分析方法の妥当性・信頼性を確認する。さらに、考察に活かすため先行研究を演習形式により深く検討していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仮説の検討	研究仮説全体について再検討する。
2	仮説の構成	仮説を実証するうえで調査が妥当性を有するか、関連性を再確認する。
3	調査の理論枠組①	調査の理論的枠組を再検討する。
4	調査の理論枠組②	調査の理論的枠組を構築する。
5	量的調査の実施	質問項目による量的調査を実施する。
6	調査結果の検討①	得られた調査データの妥当性・信頼性を検討する。
7	調査結果の検討②	あらかじめ定めた分析方法（因子分析、パス解析等）により結果を導出する。
8	追調査の検討	得られた調査データが量的に十分か、また項目も十分かを検討する。
9	追調査の実施	場合によっては追調査を実施する。
10	質的調査の検討①	量的調査に加え、質的調査について検討する。
11	質的調査の検討②	インタビュー法や、生理的指標の使用を検討する。
12	質的調査の検討③	モデルケースとして予備的調査を実施する。
13	質的調査の検討④	予備的調査を通して質的調査の方法を選択・確定する。

14 質的調査の検討⑤ 質的調査の実施方法（時間、環境、サンプル数など）について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集後は必要な分析を繰り返し実施し、結果の信頼性を高めていく。また、投稿論文執筆時は文章の推敲作業に尽力する。これらに要する授業時間外の学習時間は1回につき、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

必要な分析手法を組み立て実施する力（30%）、個々の分析結果について思考し考察する力（50%）、論文執筆時の推敲力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

対面形式を中心に深い議論を重ねていく。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、統計分析ソフト、パワーポイントソフト

【その他の重要事項】

進捗状況に応じて授業計画は変更する可能性あり。

【Outline (in English)】

Students will be instructed to further examine the data through statistical analysis to ensure sufficient quality and quantity of data. Students will also be given guidance and advice on the methods of analysis required for data analysis and will be encouraged to improve their presentation skills at academic conferences.

OTR70011（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を受けた上で、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文の全体を通じた構成を完成させ、含まれる研究課題の解決を通じて投稿論文の掲載と博士論文の完成に向けて研究を推進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析を実施し、研究課題に対しての位置づけ、全体を通じた一貫性のある論理展開などについて確認しながら指導を行う。また、博士課程の在籍期間を踏まえて博士論文や学位の取得条件（投稿論文）を達成できるよう指導・助言を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
第2回	研究活動の実践と確認①	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
第3回	国際学会での発表準備①	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
第4回	国際学会での発表準備②	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
第5回	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。

第6回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。
第7回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。
第8回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。
第9回	論文作成における留意点①	アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。
第10回	論文作成における留意点②	投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がり、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。
第11回	博士論文の執筆に向けた状況確認	これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されうるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断する場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。
第12回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成①	これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。
第13回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成②	博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。
第14回	研究の限界および今後の課題の明確化	博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究の成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。
また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。なお、各回における予習・復習の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50 %）、課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業においては、国際学会での発表や博士論文作成に向けた研究結果の解釈などにおいて、シラバスに準じた活動を実施できたが、研究結果に関するディスカッションが十分に行えなかった。

次年度は、博士論文の予備審査や本審査の日程が前倒しになる可能性を踏まえ、余裕をもったスケジュールで作業が進められるよう、指導していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students will analyze and analyze the experiments and surveys they have conducted to complete their doctoral dissertations, confirm the position of the results in the research project, and check whether they are developed in a coherent, logical way manner. The Course also aims to improve graduate students' presentation skills at academic conferences and their ability to write papers.

【Learning Objectives】

Complete the overall structure of the doctoral dissertation. In addition, by solving the problems of the research project, the graduate students will aim for publication of the submitted papers and completion of the doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the issues to compose their doctoral dissertations as instructed in each class. In addition, graduate students will prepare materials and English presentations related to writing the dissertation and presenting at academic conferences and other tasks as instructed in each class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the acquisition of basic skills for presentation at international conferences (50 %) and the ability to develop a research plan (doctoral dissertation) that can solve the problem (50 %).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進めるよう指示し、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を行い、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

学会発表を行い、博士論文後半部にあたる論文を作成して学会誌へ投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

博士論文の前半部分の論文作成を通して浮き彫りとなった研究課題の解明を目指し、後半部分の論文作成に必要なデータの収集・分析を進めるよう指導する。分析結果に対する考察に必要な数量的・質的分析法を扱った先行研究を精読し、博士論文の完成に備える。また、学会発表および学術雑誌へ投稿するよう指導する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
第2回	研究活動の実践と確認	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
第3回	国際学会発表に向けた抄録作成	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
第4回	国際学会発表に向けたプレゼンテーション資料の作成	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
第5回	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。

第6回	投稿論文の査読過程の状況報告	投稿後の査読過程の論文の進捗を報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。
第7回	進行中の研究に関する進捗報告	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況を報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。
第8回	博士論文における進行中の研究の位置づけの明確化	進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。
第9回	アカデミック・ライティングの指導	アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。
第10回	博士論文執筆に向けた留意点について指導	投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がり、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。
第11回	博士論文の執筆に向けた進捗状況の確認	これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されうるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断する場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。
第12回	博士論文の執筆に向けた構成案の作成	これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。
第13回	博士論文の執筆に向けた構成案のプレゼンテーション	博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。
第14回	研究の限界および今後の課題の明確化	博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究の成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。
また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50 %）
課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students summarize their results, interpretations, and considerations for completing their doctoral dissertations. In addition, students need to understand the limitations of their research and future plan.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and presentation.

【Grading criteria/Policy】

Progress of the doctoral thesis (50 %)

Prestation of each class (50 %).

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究VI

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方を学ぶ。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析結果をまとめ、適切な解釈および考察を行うための指導や支援を行う。履修者は、研究の限界、今後の課題等を明確化させ、博士論文の完成に向けた最終的な作業を行う。さらに、各作業の実践において、必要に応じて適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
対面	博士論文の作成①	研究テーマ、目的、仮説等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
対面	博士論文の作成②	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
対面	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
対面	予備審査会の準備①	12月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。

対面	予備審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
対面	論文の修正①	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける。
対面	論文の修正②	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
対面	論文の修正③	1月上旬の博士論文提出へ向けて、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。
対面	最終発表会の準備	1月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。
対面	本審査会の準備①	1月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の完成を目指して作成進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。
対面	本審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
対面	論文の修正①	審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。
対面	論文の修正②	審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文作成過程における作業内容（70 %）、各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお，進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students who have taken the Course will receive guidance and assistance in summarizing the results of analyses and investigations of experiments and surveys conducted and making appropriate interpretations and considerations toward completing their doctoral dissertations. In addition, graduate students will clarify the limitations of their research and future tasks and work toward completing their doctoral dissertation.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and oral examinations by themselves and submit them by the deadline set prior to the class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the evaluation of the work done during the dissertation writing process (70 %) and the content of the assignments set for each class, such as writing the dissertation manuscript and preparing for the oral examination(30 %).

OTR700I1 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究VI

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、量的調査および質的調査のデータ収集および分析を進め、仮説の検証を行っていく。また、学会発表によるプレゼンテーション力の向上、および論文執筆力の向上を図っていく。

【到達目標】

得られたデータに対する十分な分析力、因果関係に対する考察力、論文執筆力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

得られたデータに対する分析の妥当性・信頼性を確認しつつ、因果関係に対する考察の確かさ、論文内容の妥当性を追究していく。授業時間外の学習は1回につき、4時間を標準とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	量的データの分析①	分析方法の妥当性・信頼性について確認する。
2	量的データの分析②	分析結果の提示の仕方について確認する。
3	量的データの分析③	分析結果の解釈の妥当性について確認する。
4	量的データの分析④	分析結果と先行研究の関連性について検討する。
5	質的データの分析①	分析方法の妥当性・信頼性について確認する。
6	質的データの分析②	分析結果の提示の仕方について確認する。
7	質的データの分析③	分析結果の解釈の妥当性について確認する。
8	質的データの分析④	分析結果と先行研究の関連性について検討する。
9	量的データと質的データの分析結果	量的データと質的データの分析結果の整合性について検討する。
10	博士論文執筆①	研究目的との整合性を確認する。
11	博士論文執筆②	仮説はどこまで検証されているかを確認する。
12	博士論文執筆③	考察に妥当性があるかを確認する。
13	博士論文執筆④	論文の構成（章立て等）を確認する。
14	博士論文執筆⑤	研究の限界と今後の課題を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究倫理に配慮して適切なデータの保存等を行うとともに、博士論文執筆に注力する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

必要な分析手法を組み立て実施する力（30%）、個々の分析結果について思考し考察する力（50%）、論文執筆時の推敲力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

対面形式により深い議論を重ねていく。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、統計分析ソフト、パワーポイントソフト

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Towards the completion of the doctoral dissertation, students will collect and analyze quantitative and qualitative data to verify hypotheses. They will also improve their presentation skills by presenting at academic conferences and their thesis writing skills.

OTR700I1 (その他 / Others 700)		
スポーツ健康学高度開発研究VI		
林 容市		
開講時期：秋学期授業/Fall 単位数：2単位		
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses キャンパス：多摩		
配当年次：2年次		
備考（履修条件等）：		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方を学ぶ。		
【到達目標】		
博士論文を完成する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
体力学および体力測定評価学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析結果をまとめ、適切な解釈および考察を行うための指導や支援を行う。履修者は、研究の限界、今後の課題等を明確化させ、博士論文の完成に向けた最終的な作業を行う。さらに、各作業の実践において、必要に応じて適宜フィードバックを行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
第2回	博士論文の作成①	研究テーマ、目的、仮説等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
第3回	博士論文の作成②	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
第4回	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
第5回	予備審査会の準備①	12月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。
第6回	予備審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第7回	論文の修正①	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける。
第8回	論文の修正②	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
第9回	論文の修正③	1月上旬の博士論文提出へ向けて、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。
第10回	最終発表会の準備	1月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。
第11回	本審査会の準備①	1月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の完成を目指して作成進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。
第12回	本審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第13回	論文の修正①	審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。
第14回	論文の修正②	審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。なお、各回における予習・復習の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。		
【テキスト（教科書）】		
特になし。必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
特になし。必要に応じて資料を配布する。		
【成績評価の方法と基準】		
博士論文作成過程における作業内容（70 %）、各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30 %）		
【学生の意見等からの気づき】		
過去の授業は、博士論文の作成に向けて充実したものになったと判断している。しかしながら、博士論文の完成が予定よりもやや遅延してしまい、結果として論文内容の検討時間が十分に確保できなかった。次年度は、予備審査や本審査の日程が従来よりも早まる可能性を踏まえ、適切なスケジュールで研究活動が進められるように配慮して行きたいと考えている。		

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお，進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students who have taken the Course will receive guidance and assistance in summarizing the results of analyses and investigations of experiments and surveys conducted and making appropriate interpretations and considerations toward completing their doctoral dissertations. In addition, graduate students will clarify the limitations of their research and future tasks and work toward completing their doctoral dissertation.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and oral examinations by themselves and submit them by the deadline set prior to the class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the evaluation of the work done during the dissertation writing process (70 %) and the content of the assignments set for each class, such as writing the dissertation manuscript and preparing for the oral examination(30 %).

OTR700I1（その他 / Others 700）

スポーツ健康学高度開発研究VI

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方を学ぶ。

【到達目標】

博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業を通して履修者は次のことに取り組む。①博士論文の目的、方法、結果、考察、結論の整合性について検討する。②研究の限界や今後の課題を明確化し、博士論文提出後の研究の継続性・発展性を明確化する。③博士論文審査委員会による指摘事項に真摯に対応し、完成度の高い博士論文を作成する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
第2回	博士論文の作成	研究テーマ、目的等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
第3回	講義内発表での指摘・コメントを受けての博士論文の修正	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
第4回	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
第5回	予備審査会に向けての資料作成	12月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。

第6回	予備審査会に向けてのプレゼンテーションリハーサル	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第7回	予備審査会の指摘・コメントを受けての博士論文の修正内容の指導	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける
第8回	予備審査会の指摘・コメントを受けての博士論文の修正	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
第9回	博士論文の論理的一貫性・整合性の確認	1月上旬の博士論文提出へ向けて、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。
第10回	最終発表会の準備	1月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。
第11回	本審査会の資料作成	1月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の完成を目指して作成進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。
第12回	本審査会のプレゼンテーションリハーサル	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第13回	審査会の指摘・コメントを受けての博士論文の修正	審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。
第14回	博士論文の完成	審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文作成過程における作業内容（70％）
各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To complete the doctoral dissertation, students will examine the consistency of the research topic, objectives, methods, results, discussion, and conclusions, and learn how to summarize the dissertation.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and oral examinations by themselves and submit them by the deadline set prior to the class.

【Grading criteria/Policy】

Quality of doctoral thesis and presentation (100 %).

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1～2年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わるスポーツ種目の競技力向上支援に帯同する。そこで、研究成果を支援に結びつける方法を学び、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をコーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。「理論研究」では、研究機関から大学へ戻った後、改めて実践研究となる研究計画を立て、それに関する文献を収集して構想をまとめ、コーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。博士論文の中に実践研究が組み込めるようであれば組み込む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツの競技力向上に資する研究を理解する。
第2回	スポーツ研究機関の支援理解②	スポーツの競技力向上に資する支援を理解する。
第3回	実践研究の理解①	実践研究の考え方、また、実践研究となるための作法を理解する。
第4回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第5回	研究機関での活動①	研究機関に応募し、研究活動に参加する。活動に参加するために、当該研究の詳細を理解する
第6回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、競技力向上への支援の全容を把握する。

第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	研究機関での活動③	研究活動に参加しつつ、選手、コーチ、トレーニングサイトの現場を理解する。
第9回	研究機関での活動④	研究活動に参加しつつ、当該研究が関わる支援の現場の詳細を理解する。
第10回	研究機関での活動⑤	研究活動に参加しつつ、試合や合宿などの支援の現場に帯同する。
第11回	研究機関での活動⑥	研究活動に参加しつつ、支援の効果を観察・学習する。
第12回	研究機関での活動⑦	支援のための研究のあり方を総括する。
第13回	活動成果の総括	活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。
第14回	活動成果のプレゼンテーション	活動成果を大学でプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各4時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究／理論研究)

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における実践研究もしくは理論研究に取り組む。「実践研究」の一例は次の通りである。スポーツ現場での指導経験を有する履修者が、日本スポーツ心理学会による「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格取得条件にある「30時間以上の指導実績」等の基準に倣い、アスリートやスポーツチームの心理支援に取り組み、その過程で浮上した自己の課題とそれを解決・改善するための方法論を提示する。指導教員は、心理支援の方法およびその効果の検討の仕方等について指導・支援する。また「理論研究」の一例は次の通りである。アスリートやスポーツチームの心理支援の方法と効果に関する国内外の文献を精査し、個人種目と団体種目、国内と国外における心理支援の方法およびその効果の違い等に関する研究報告を作成する。指導教員は、データの収集、分析方法、考察の妥当性、成果発表の方法等について指導・支援する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究課題の設定	研究課題について「実践研究」「理論研究」のいずれを選択するのかについて意見交換する。
第2回	研究課題の意義・目的	履修者が研究課題の意義・目的についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	研究方法の検討	研究の方法やスケジュール等について確認する。

第4回	研究対象の検討	実践研究：研究対象となるアスリートもしくはスポーツチームについて検討する。 理論研究：研究対象となる種目・年代等に関連する先行研究を概観する。
第5回	研究環境の検討	実践研究：研究対象の環境・条件、課題に従事する期間・頻度の妥当性等について検討する。 理論研究：研究課題に関連する先行研究・資料等の入手経路の確認、入手に要する費用等について検討する。
第6回	研究構想・計画の確認	履修者が研究構想・計画の全体像についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究構想・計画について履修者がプレゼンテーションし、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	課題従事のプロセス①	実践研究：心理支援の理論・手法等の利点・改善点等について記録した内容を発表する。 理論研究：研究対象に関連する国内の文献等を精査し、そのデータを総括的に評価する「システマティック・レビュー」へ向けての調査に着手する。
第9回	課題従事のプロセス②	実践研究：心理支援の進捗状況について数量的・質的に記録した内容を発表する。 理論研究：研究対象に関連する国外の文献等を精査し、そのデータを総括的に評価する「システマティック・レビュー」へ向けての調査に着手する。
第10回	課題従事のプロセス③	実践研究：心理支援による対象者の変化について数量的に分析した内容を発表する。 理論研究：収集した国内外の文献等を観点別・カテゴリー別に分類・整理する。
第11回	課題従事のプロセス④	実践研究：心理支援による対象者の変化について質的に分析した内容を発表する。 理論研究：観点別・カテゴリー別に分類・整理された文献等の特徴について考察する。
第12回	課題従事の成果①	実践研究：心理支援を通して得られた成果の利点・改善点について検討する。 理論研究：自己の研究課題に応じて整理され、考察された文献等の特徴を分析する。
第13回	課題従事の成果②	実践研究：心理支援の成果とプロセスを数量的・質的観点からまとめる。 理論研究：自己の研究課題に応じて整理され、考察された文献等を総括し、一定の傾向や未明の課題等を同定する。
第14回	成果発表	博士課程担当教員全員参加の公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーション、参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員が評価を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会HPならびに学会誌掲載論文を確認してください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店 2016

2. 中澤 史 「アスリートの心理学」 日本文化出版 2016

【成績評価の方法と基準】

1. プレゼンテーションの関連資料、リアクションペーパー、レポート等が70%、プレゼンテーション、授業への参画状況が30%の配分として総合評価します。

2. やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回を超過する場合は、別途相談に応じます。

3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。

4. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。

5. 研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

6. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄等について評価します。

7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、メール、オンラインでの指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

PCおよび資料の作成や共有、課題の提出が可能なソフトウェアを準備してください。また、必要に応じて授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to train doctoral degree holders who are well versed in practice, and focuses on "practical research" as an exercise assignment. On the other hand, if the student has already reached the level of an advanced practitioner or needs to enhance the theoretical aspect in relation to the doctoral dissertation, "Theoretical Research" will be permitted, and the course will be conducted in either of these two ways. In either case, students work on a freely selected topic for a certain period of time under the guidance of their primary and secondary supervisors, and receive group guidance and evaluation of the results from multiple faculty members. The purpose of this program is to help students develop their individual careers and complete exercises that will serve as the basis or part of their doctoral thesis work.

【Learning Objectives】

Work on exercises that are useful for career development and form the basis or part of a PhD thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Please collect and organize relevant prior research and prepare for your presentation. Review the websites of domestic and international sports psychology conferences and papers published in their journals. Note that the recommended preparation and review time for this course is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The overall evaluation will be based on the following weighting:

70% for presentation-related materials, reaction papers, reports, etc., and 30% for presentations and participation in class.

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）

スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関やスポーツマネジメントの現場に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わる現場での視察や業務に係る。そこで、研究成果を支援に結びつける方法を学び、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をマネジメント領域の教員に対してプレゼンテーションする。

「理論研究」では、研究機関から大学へ戻った後、改めて実践研究となる研究計画を立て、それに関する文献を収集して構想をまとめ、同領域の教員に対してプレゼンテーションをおこない、博士論文に実践研究が反映できるよう進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツマネジメント領域における研究を理解する。
第2回	スポーツ研究機関の研究理解②	スポーツマネジメント領域における研究のトレンドを理解する。
第3回	実践研究の理解①	実践研究の考え方、また、実践研究となるための作法を理解する。
第4回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第5回	研究機関での活動①	研究機関やマネジメントの現場に、研究活動として参加する。活動に参加するために、当該研究の詳細を理解する
第6回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、スポーツマネジメントの現場での実際を把握する。

第7回 中間発表

専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。

第8回 研究機関での活動③

研究活動に参加しつつ、現場での実際についての理解を深める。

第9回 研究機関での活動④

研究活動に参加しつつ、当該研究に関わる現場の詳細を理解する。

第10回 研究機関での活動⑤

研究活動に参加しつつ、現場での課題を科学的根拠に基づき抽出する。

第11回 研究機関での活動⑥

研究活動に参加しつつ、課題の解決方法について検討する。

第12回 研究機関での活動⑦

課題を抽出から解決に資する理論の設定および課題の導出等研究のあり方についてまとめる。

第13回 活動成果の総括

活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。

第14回 活動成果のプレゼンテーション

活動成果をまとめ、プレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。準備・復習時間は1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わるスポーツ種目の競技力向上支援に帯同する。そこで、研究成果を支援に結びつける方法や支援を通じて得られた知見を研究へつなげる方法を習得し、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をコーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。「理論研究」では、滞在了研究機関で習得した技法を基に、これまでの先行研究等の資料を収集・分析することで、分野の理論的課題を見つけたし、それに関する研究計画を立て構想をまとめたのちに、コーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツの競技力向上に資する研究内容を理解する。
第2回	スポーツ研究機関の研究理解②	スポーツの競技力向上に資する先行研究をリサーチする。
第3回	実践研究の理解①	実践研究の考え方を理解する。
第4回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第5回	研究機関での活動①	研究機関での、研究活動に参加する。活動に参加するために、研究の詳細を理解する。
第6回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、競技力向上への支援の全容を把握する。

第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	研究機関での活動③	研究活動に参加しつつ、選手、コーチ、トレーナーと競技力向上に向けたディスカッションを行う。
第9回	研究機関での活動④	研究活動に参加しつつ、研究が関わる支援の現場の詳細を理解する。
第10回	研究機関での活動⑤	研究活動に参加しつつ、試合や合宿などの支援の現場に帯同する。
第11回	研究機関での活動⑥	研究活動に参加しつつ、支援の効果を観察・学習する。
第12回	研究機関での活動⑦	支援のための研究のあり方を総括する。
第13回	活動成果の総括	活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。
第14回	成果発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーション、参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員が評価を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。
 各回の予習・復習の標準時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: The course aims to help doctoral students become familiar with practice by using 'practical research' as an exercise. If the student has already reached the level of an advanced practitioner or needs to enhance the theoretical aspect of the doctoral thesis, the student can conduct 'theoretical research'.

Learning Objectives: At the end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of the classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on the management of the practical research plan (70%) and the ability to disseminate research results (30%)

